

大学・学生意識調査報告書 〔2012年度〕

はじめに

長崎外国語大学は2012年4月、1年次2学期生から4年次生を対象に開学後11回目となる意識調査を行った。在籍者数700名から新入生、留学中、休学中の学生を除いた495名のうち回答者数は258名で、回収率は52.1%に相当する。

内容は学生生活と学習に関する学生の意識についての調査である。今年度からは昨年までと同じ質問項目に対して、従来からの全学生の集計に加え、日本人学生と留学生を分けた集計を取った。これらのデータを踏まえ、過去11年間の推移や傾向についての分析に加えて、日本人学生と留学生の違いにも着目した分析を行った。

なお、回答中のマークミスについては削除し、母数には含めていない。

長崎外国語大学

学生支援部長 小鳥居 伸介

目次

I 学生生活について	4
A. 大学生活について（設問 1～6）	4
B. 大学生活の目的と一番打ち込んでいること（設問 7～8）	7
C. 悩みについて（設問 9～16）	10
D. 喫煙について（設問 17, 18）	21
E. 通学に関して（設問 19～21）	22
F. 自由時間の過ごし方（設問 22）	26
G. アルバイトについて（設問 23～27）	28
H. 学内施設の利用等（設問 28～32）	34
I. キャリア支援室の利用（設問 33）	40
J. 掲示板・学生要覧について（設問 34, 35）	41
K. 職業観・進路・理想的な生き方（設問 36～39）	43
II 学習について	50
A. 学習一般（設問 40～43）	50
B. 自己と他者（設問 44～45）	51
C. 知識と教養（設問 46～52）	52
D. 授業選択（設問 53～59）	56
E. 受講の実態（設問 60～66）	60
F. コース選択（設問 67～71）	65
III 学生生活と学習について（自由回答）	69
A. 各年度別回答数統計表	69
1. アンケート対象者と回答総数の変化	69
2. 項目別回答に見られる傾向	69
B. 要望等の特性（項目別回答内容の分析）	70
1. 大学設備について	70
2. 食堂・売店について	70
3. 通学について	72
4. 単位・授業について	72
5. 進路について	72
6. アンペロス寮について	73
7. その他	73
参考資料	74

I 学生生活について

A. 大学生活について(設問 1~6)

回答者についての質問（設問 1、2、3）では、2005 年度以降、学年別回答者数を調べているが、2012 年度からは留学生と日本人学生の回答者数も調べるようになった。2012 年度の調査では全体の 2 割程度の回答者が留学生であるが、学年別・男女別の数を見ると、大学 2 年生では 40 人近くの留学生の回答者がいる一方で、他の毎年ではごく少数（3 年生女子は 0%、4 年生は女子、男子とも 5%未満）であり、留学生だけを分離して、学年別・男女別の回答の分析を行うことは無理であると判断した。よって、後に示す設問 2 から設問 39 の回答の分析では、日本人学生と留学生を区別せず、両者を合計した結果を分析する。（なお、設問 1 の各学年の回答者数総和と該当学年の女子数・男子数の和が一致しないのは、設問 3 に対して無回答であったり、1 または 2 以外の回答を選択した者がいるためである。）

大学 3 年生は大学 2 年生、4 年生に比べて回答者数が少ない傾向がある。2 年次秋学期から留学中の学生がいないことが理由の一つと考えられる。2010 年度からは前年度秋学期に入学した 1 年生（4 月時点で第 2 学期生）を分けて集計している。学生の学年所属は調査時に在学何学期目であるかによって判定している。（ただし、回答者自身が、自分が何年生かを判断して回答しているため、学年分けを間違えて解答した学生がいる可能性がある。）1 年生は全体で 14 名しかいないため、学年別・男女別の回答の分析では 2 年生から 4 年生の回答結果のみをグループ別に示す。男女別については、女子 6 割、男子 4 割程度で例年と大きな差はない。

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
1 日本人学生											78.7%
2 留学生											21.3%

	2012全体	全体女子	全体男子	1年全体	1年女子	1年男子	2年全体	2年女子	2年男子	3年全体	3年女子	3年男子	4年全体	4年女子	4年男子
1 日本人学生	78.7%	84.1%	64.9%	28.6%	50.0%	0.0%	67.5%	72.5%	66.0%	92.7%	100.0%	85.2%	97.1%	97.7%	96.0%
2 留学生	21.3%	15.9%	35.1%	71.4%	50.0%	100.0%	32.5%	27.5%	34.0%	7.3%	0.0%	14.8%	2.9%	2.3%	4.0%
回答数	258	145	97	14	6	7	120	69	47	55	26	27	69	44	25

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
1 大学2年生				34.3%	39.5%	37.9%	28.7%	37.3%	40.7%	35.0%	46.5%
2 大学3年生				31.0%	21.3%	27.7%	29.8%	14.0%	29.5%	28.2%	21.3%
3 大学4年生				34.6%	39.2%	34.4%	41.5%	48.6%	22.0%	32.6%	26.7%
4 大学1年生									7.8%	4.2%	5.4%

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
1 女性	60.7%	61.1%	62.4%	57.5%	50.3%	55.2%	57.4%	61.1%	62.7%	57.7%	57.1%
2 男性	39.3%	38.9%	37.6%	42.5%	49.7%	44.8%	42.6%	38.9%	37.3%	42.4%	42.9%

「あなたは大学生生活に満足していますか？（設問4）」では、2012年度は「1)満足」、「2)まあまあ満足」が合わせて45.8%になっている。過去10年間では2002年度から2007年度までは年ごとに高くなる傾向があった。2007年度の52.6%のあと、2008年度は50.6%、2009年度は48.5%で、値がやや下がったが、2010年度はこれまででもっとも高い値の57.5%になった。2011年度はやや下がって54.7%、2012年度はさらに大きく下がって45.8%である。2010年度と2011年度はこれまででもっとも高い値であったが、2012年度は2006年度の水準まで下がった。また、「4)あまり満足していない」、「5)満足していない」は合わせて18.6%で、2010年度の9.9%、2011年度の11.9%よりもかなり高い値になっている。

学年・男女別の回答内訳では、(1)または(2)と回答した者の値は、大学2年生、大学3年生で女子よりも男子の方がかなり高いが、大学4年生では女子の方が男子よりも値が高く、差は小さい。

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
1 満足	6.7%	11.7%	7.2%	12.8%	13.2%	20.7%	18.9%	18.5%	23.5%	19.0%	16.7%
2 まあまあ満足	26.7%	27.1%	28.1%	28.1%	35.1%	31.9%	31.7%	30.0%	34.0%	35.7%	29.1%
3 普通	42.2%	32.8%	43.1%	44.1%	33.2%	34.3%	30.2%	35.4%	32.5%	33.3%	35.7%
4 あまり満足していない	16.3%	21.1%	15.7%	10.4%	14.1%	10.4%	12.8%	12.1%	5.7%	8.3%	12.4%
5 満足していない	8.1%	7.3%	5.9%	4.6%	4.4%	2.8%	6.4%	4.0%	4.2%	3.6%	6.2%

	2012全体	全体女子	全体男子	2年全体	2年女子	2年男子	3年全体	3年女子	3年男子	4年全体	4年女子	4年男子
1 満足	16.7%	16.6%	17.4%	13.3%	11.6%	16.0%	7.3%	3.8%	11.1%	26.1%	27.3%	24.0%
2 まあまあ満足	29.1%	26.2%	30.3%	35.8%	31.9%	40.0%	23.6%	15.4%	25.9%	18.8%	20.5%	16.0%
3 普通	35.7%	39.3%	32.1%	28.3%	30.4%	26.0%	49.1%	61.5%	40.7%	43.5%	45.5%	40.0%
4 あまり満足していない	12.4%	12.4%	12.8%	13.3%	15.9%	10.0%	16.4%	15.4%	18.5%	8.7%	6.8%	12.0%
5 満足していない	6.2%	5.5%	7.3%	9.2%	10.1%	8.0%	3.6%	3.8%	3.7%	2.9%	0.0%	8.0%
回答数	258	145	109	120	69	50	55	26	27	69	44	25

「大学生活全般について高校時代に期待していた通りか（設問5）」に対しては、「1)期待どおり」、「2)まあまあ期待どおり」が合わせて51.6%であった。過去9年間では2007年度までは年ごとに高くなる傾向にあり、2007年度には52.6%でそれまででもっとも高い値であった。2008年度、2009年度では値がやや低くなったが、2010年度は再び高くなり、これまででもっとも高い値の62.1%になった。2011年度はかなり下がって54.6%、2012年度はさらにやや下がって51.6%であるが、それでも2007年度に次いで、これまでで4番目に高い値である。「3)あまり期待どおりではない」、「4)期待していたのとは全然違う」は合わせて42.3%であった。こちらも2007年度までは低くなる傾向にあり、2007年度には40.3%でそれまででもっとも低い値であった。2008年度、2009年度では値がやや高くなったが、2010年度は再び低くなりこれまででもっとも低い値の34.2%になった。2011年度はやや上がって38.2%、2012年度はさらに高くなって42.3%であるが、2007年度に次いでこれまでで4番目に低い値である。

学年・男女別の回答内訳では、女子では(1)または(2)と回答した者の割合が(3)または(4)と回答した者の割合よりやや大きく、51.7%対44.2%になっているが、2011年度のおよそ6割対3割に比べると、(1)または(2)と回答した者の割合が小さくなり、(3)または(4)と回答

した者の割合が大きくなっている。男子でも(1)または(2)と回答した者の割合が(3)または(4)と回答した者の割合よりも大きく、50.4%対40.4%となっているが、両者がほぼ同率であった2011年度のおよそ4割半対4割半と比べると、(1)または(2)と回答した者の割合が大きくなり、(3)または(4)と回答した者の割合が小さくなっている。学年ごとの割合では、女子においては大学2年生と大学3年生で、(1)または(2)と回答した者の割合よりも(3)または(4)と回答した者の割合が大きく、およそ4割から4割半対5割となっているが、大学4年生では前者の割合が後者の割合より大きく、およそ6割対3割となっている。男子においては、大学2年生で、(1)または(2)と回答した者の割合よりも(3)または(4)と回答した者の割合が大きく、およそ6割対2割半であるのに対し、大学3年生と大学4年生では(1)または(2)と回答した者の割合よりも(3)または(4)と回答した者の割合が大きく、およそ3割半対5割半から6割となっている。女子では大学2年生、大学3年生、男子では大学3年生、大学4年生が期待したものとは異なった大学生活を送っているという意識を持っているようである。

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
1 期待どおりです	4.4%	6.1%	3.9%	5.8%	8.5%	9.2%	8.6%	9.1%	16.2%	13.1%	10.1%
2 まあまあ期待どおりです	23.7%	29.6%	28.8%	38.1%	36.5%	43.4%	40.6%	37.5%	45.9%	41.5%	41.5%
3 あまり期待どおりではない	45.2%	38.9%	41.2%	38.6%	35.8%	30.7%	33.8%	36.5%	25.2%	26.9%	29.5%
4 期待していたのと全然違う	21.5%	19.4%	19.0%	12.3%	13.8%	9.6%	12.0%	9.5%	9.0%	11.3%	12.8%
5 特に何も期待していなかった	5.2%	6.1%	7.2%	5.2%	5.3%	7.2%	4.9%	7.4%	3.6%	7.2%	6.2%

	2012全体	全体女子	全体男子	2年全体	2年女子	2年男子	3年全体	3年女子	3年男子	4年全体	4年女子	4年男子
1 期待どおりです	10.1%	8.3%	12.8%	6.7%	4.3%	10.0%	1.8%	0.0%	3.7%	13.0%	11.4%	16.0%
2 まあまあ期待どおりです	41.5%	43.4%	37.6%	45.0%	39.1%	52.0%	40.0%	46.2%	33.3%	39.1%	50.0%	20.0%
3 あまり期待どおりではない	29.5%	29.7%	29.4%	21.7%	29.0%	12.0%	40.0%	38.5%	40.7%	40.6%	29.5%	60.0%
4 期待していたのと全然違う	12.8%	14.5%	11.0%	18.3%	23.2%	12.0%	14.5%	15.4%	14.8%	1.4%	2.3%	0.0%
5 特に何も期待していなかった	6.2%	4.1%	9.2%	8.3%	4.3%	14.0%	3.8%	0.0%	7.4%	5.8%	6.8%	4.0%
回答数	258	145	109	120	69	50	55	26	27	69	44	25

「大学生になって良かったと思いますか？（設問6）」に対しては、「1)期待どおり」、「2)まあまあ期待どおり」が合わせて76.6%で、2011年度の73.8%よりは高い値になっている。2003年度以降は70%を毎年超えているが、2010年度の80.2%、2006年度の79.8%、2008年度の77.3%に次いで4番目に高い値で、2005年度以降ではもっとも低い値であった2011年度に比べるとやや回復している。「4)あまり良くなかったと思う」は2011年度と同率の3.9%で、2007年度の1.2%、2010年度の3.3%に次いで、これまでで3番目に低い値になっている。

学年・男女別の回答内訳では、(1)または(2)と回答した者は、大学2年生では72.3%、大学3年生では75.9%、大学4年生では84.0%である。大学2年生、大学3年生に比べて、大学4年生に、大学生になって良かったと感じている学生が多いようである。大学2年生では女子と男子で差が大きく、(1)または(2)と回答した者は、女子では76.8%である一方で、男子では65.3%であるが、2011年度の女子83.6%、男子58.0%に比べると差が小さくなっている。大学3年生では女子69.2%、男子80.7%で、男子の方に(1)または(2)と回答した者が多かった。2011年度は女子・男子とも70%台後半であったので、昨年度と比べると女子では値が低くな

り、男子では値が高くなっている。大学4年生では女子が84.1%、男子が84.0%で、大きな相違はないが、2011年度の女子70%台後半、男子70%台前半に比べると両者とも値が高くなっている。また(4)と回答した者の割合は大学3年生がもっとも大きく、3年生全体で5.6%であり、2011年度の4.2%よりもやや値が高くなった。大学2年生と大学3年生では、男子よりも女子で(4)と回答した者の割合が大きかったが、大学4年生では、女子よりも男子で(4)と回答した者が多く、他のいずれのグループよりも高い8.0%であった。学年ごとに回答者総数が大きく異なるので確かなことは断定できないが、大学4年生男子には、大学生活に不満を持っている、あるいは他の道を選択した方が良かったと感じている者が多いようである。

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
1 良かったと思います	53.7%	47.8%	49.8%	54.2%	63.4%	54.2%	54.7%	53.5%	56.5%	51.8%	54.3%
2 まあまあ良かったと思う	13.4%	22.3%	22.3%	22.1%	16.4%	18.7%	22.6%	20.9%	23.7%	22.0%	22.3%
3 普通です	20.1%	20.6%	20.0%	16.1%	14.2%	22.3%	16.2%	18.5%	15.6%	19.3%	16.8%
4 あまり良くなかったと思う	10.4%	5.7%	7.2%	5.7%	4.4%	1.2%	4.9%	5.1%	3.3%	3.9%	3.9%
5 わからない	2.2%	3.6%	0.7%	1.9%	1.6%	3.6%	1.5%	2.0%	0.9%	3.0%	2.7%

	2012全体	全体女子	全体男子	2年全体	2年女子	2年男子	3年全体	3年女子	3年男子	4年全体	4年女子	4年男子
1 良かったと思います	54.3%	57.9%	47.7%	49.6%	49.3%	49.0%	53.7%	50.0%	53.8%	59.4%	70.5%	40.0%
2 まあまあ良かったと思う	22.3%	20.7%	25.2%	22.7%	27.5%	16.3%	22.2%	19.2%	26.9%	24.6%	13.6%	44.0%
3 普通です	16.8%	15.2%	19.6%	20.2%	15.9%	26.5%	14.8%	19.2%	11.5%	11.6%	13.6%	8.0%
4 あまり良くなかったと思う	3.9%	4.1%	3.7%	3.4%	4.3%	2.0%	5.6%	7.7%	3.8%	4.3%	2.3%	8.0%
5 わからない	2.7%	2.1%	3.7%	4.2%	2.9%	6.1%	3.7%	3.8%	3.8%	0.0%	0.0%	0.0%
回答数	256	145	107	119	69	49	54	26	26	69	44	25

B. 大学生生活の目的と一番打ち込んでいること(7, 8)

「大学生生活の目的を主として何にしていますか？（設問7）」では、「1)豊かな教養を身につけ人格を高める」、「2)専門的な知識を習得する」がそれぞれ3割前後で多く、次いで「5)資格を取り将来就職に役立てたい」が2割ほど、「4)学生生活を通じて青春をエンジョイする」が1割ほどになっており、2011年度とほぼ同様である。(1)は年度によって20%台半ばから30%台半ばまで変化してきている。2007年度以降は30%台で推移してきたが、2012年度は20%台まで下がり、これまでで4番目に低い値になっている。(2)は2007年度までは30%台後半から40%台までの高い値を示してきたが、2008年度以降は、30%台前半まで低くなっている。2012年度も30%台前半で、2011年度に次いでこれまでで2番目に低い値になっている。(5)は20%を超えた2002年度と10%未満であった2004年度を除いては、10%台半ばで推移してきたが、2011年度はやや高くなって20%に近い値であった。2012年度はさらに高くなり、2002年度の20.9%を超えて、これまででもっとも高い値になっている。(4)については、10%未満であった2004年度、2006年度と、これまででもっとも高い値の14.9%であった2009年度を除いては10%から13%のあいだで推移しており、2012年度もこの範囲内の値である。

学年・男女別の回答内訳では、(1)については大学2年生が20%台後半、大学3年生が10%台後半、大学4年生が40%近くで、特に大学3年生の値が低くなっている。(2)については大学2年生、大学3年生では、20%台後半、大学4年生では30%台後半になっている。男女別の

値では、(1)については大学2年生と大学4年生で女子よりも男子がやや高い値を示しているが、大学3年生では女子28.0%に対して男子7.7%で男子の方が低い値を示し、大きな差がある。(2)については学年により男女間の差が変動し、大学2年生では女子の方が男子よりも値が13.9%低い、大学3年生では女子が男子よりも6.9%低く差は比較的小さい。大学4年生では女子の方が男子よりも15.2%高い値を示している。(5)については、女子は大学2年生では38.2%、大学3年生では32.0%でほぼ同じ値であるが、大学4年生では11.4%でかなり低い値になっている。男子は大学2年生で20.0%、大学3年生で19.2%で、ほぼ同じであるが、同学年女子に比べるとかなり値が低い。大学4年生では4.0%で大学2年生、大学3年生に比べてはるかに値が低く、同学年女子と比べてもより低い値である、2010年度、2011年度も(5)については男子では学年進行につれて値が低くなる傾向が見られた。2012年度では、女子も大学4年生が、大学2年生、大学3年生に比べて低い値を示している。女子学生、男子学生ともに、大学2年生の時点では、資格取得に希望・興味を持っているが、学年が進むにつれて資格取得の望みを失う、あるいは資格取得に対する興味が薄れるという傾向があるのではないかと思われる。(4)については、学年によって女子と男子のあいだの差が変動する。大学2年生では女子と男子の差はわずかであるが、大学3年生では女子8.0%に対して男子30.8%で、男子の方がはるかに高い値を示している。大学4年生では、女子よりも男子の方が値が高いが、大学3年生のような大きな差はない。

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
1 豊かな教養を身につけ人格を高める	25.4%	26.4%	36.3%	27.6%	29.2%	35.5%	34.5%	30.7%	32.1%	32.3%	28.2%
2 専門的な知識を習得する	38.8%	41.5%	38.2%	39.9%	39.9%	37.1%	32.6%	32.4%	34.5%	31.2%	31.8%
3 真の友達を得る	2.2%	0.8%	3.6%	1.6%	5.3%	0.8%	1.5%	2.7%	1.2%	4.2%	1.6%
4 学生生活を通じて青春をエンジョイする	11.2%	11.8%	9.2%	12.3%	7.2%	12.0%	10.7%	14.9%	11.9%	10.4%	12.2%
5 資格を取り将来就職に役立てたい	20.9%	17.5%	9.8%	16.4%	14.2%	13.1%	17.6%	15.2%	17.9%	19.9%	22.7%
6 特にありません	1.5%	2.0%	2.9%	2.2%	4.1%	1.6%	3.1%	4.1%	2.4%	2.1%	3.5%

	2012全体	全体女子	全体男子	2年全体	2年女子	2年男子	3年全体	3年女子	3年男子	4年全体	4年女子	4年男子
1 豊かな教養を身につけ人格を高める	28.2%	29.4%	26.9%	27.7%	25.0%	30.0%	17.0%	28.0%	7.7%	39.1%	36.4%	44.0%
2 専門的な知識を習得する	31.8%	29.4%	35.2%	27.7%	22.1%	36.0%	26.4%	24.0%	30.8%	37.7%	43.2%	28.0%
3 真の友達を得る	1.6%	0.0%	3.7%	0.8%	0.0%	2.0%	3.8%	0.0%	7.7%	1.4%	0.0%	4.0%
4 学生生活を通じて青春をエンジョイする	12.2%	9.1%	14.8%	10.9%	11.8%	10.0%	22.6%	8.0%	30.8%	8.7%	6.8%	12.0%
5 資格を取り将来就職に役立てたい	22.7%	28.7%	15.7%	30.3%	38.2%	20.0%	24.5%	32.0%	19.2%	8.7%	11.4%	4.0%
6 特にありません	3.5%	3.5%	3.7%	2.5%	2.9%	2.0%	5.7%	8.0%	3.8%	4.3%	2.3%	8.0%
回答数	255	143	108	119	68	50	53	25	26	69	44	25

「今一番打ち込んでいるものは、何ですか？（設問8）」では、「1）大学の授業や課題」が33.2%でもっとも高く、次いで「3）自分の趣味」が24.2%、「3）大学のクラブ活動」が14.1%、「4）アルバイト」が10.9%になっている。2003年度以降は、2009年度まで、(1)が30%台で推移してきたが、2010年度はこれまででもっとも高い値の42.1%を示した。2011年度は2010年度ほど高くはないが、2007年度と同じで、これまでで2番目に高い値を示した。2012年度はさらに下がって、2002年度に次いでこれまでで2番目に低い値を示している。(3)については、2002年度以来、20%台前半から半ばで推移してきているが、2011年度は2005年度の26.6%を超えて、これまででもっとも高い値を示した。2012年度はやや下がって20%台半ばの値になっている。(2)については2011年度の6.7%からかなり上昇し、2002年度の13.4%を超

えてこれまでもっとも高い値となっており、(4)のアルバイトを超える値を初めて示した。クラブ活動に興味・関心を持っている学生が増えつつあるようである。(4)については、2002年度に20%近くを示した以外は、10%台前半から半ばで推移してきており、例年と大きくは異ならないが、2010年度と同率で、2011年度に次いでこれまでで2番目に低い値になっている。アルバイトが生活の中心になっている学生の割合は年毎にやや減少しつつあるようである。

学年・男女別の回答内訳では、(1)については、学年間の比較では大学2年生と大学4年生ではあまり大きな差はないが、大学3年生が他の学年よりも12%以上低い値を示している。大学3年生女子が大学2年生女子とほぼ同率であるのに対し、大学3年生男子は大学2年生男子、大学4年生男子に比べてはるかに低い値を示しており、これが大学3年生全体の値を低くしている原因である。男女間の比較では、全学年で女子が男子よりも高い値を示している。女子の方が大学の授業を重視している傾向がある。

(3)については、学年間の比較では大学2年生と大学4年生はほぼ同じ値であるが大学3年生が他の学年より高い値を示している。大学4年生で値が低くなるのは(1)を回答として選択する学生が増えるためであると思われるが、大学3年生の値が大学2年生よりも高くなるのは、2年次秋学期から留学している学生が回答者に含まれていないことの影響かもしれない。男女間の比較では、全体では女子よりも男子が高い値を示している。大学2年生と大学3年生では女子よりも男子の方が高い値を示し、特に大学3年生では男子の方が女子よりも20%以上高い値を示し、差が大きい。一方で、大学4年生では、2011年度の大学3年生と似て女子と男子の差が小さく、女子の方が男子をわずかに上回る値を示している。

(2)については、学年間の差は小さく、学年とともにやや低くなる傾向がある。男女間の比較では、すべての学年で女子よりも男子の方が10%以上高い値を示し、特に大学4年生では男子が女子よりも20%近く高い値を示しており、差が大きい。

(4)は、学年間、男女間でかなり変化がある。学年間の比較では、学年とともに値が高くなっているが、大学2年生が大学3年生、大学4年生よりもかなり低い値を示している。男女間の比較では、大学2年生では女子が男子よりも高い値を示しているが差はわずかである。大学3年生では女子の方が男子よりも9%近く高い値を示し、差が大きい。大学4年生では逆に女子よりも男子の方が16%以上高い値を示しており、差が大きい。大学3年生全体と大学4年生全体では2.6%しか差がないが、女子では大学3年生が20.0%、大学4年生が11.4%で、大学4年生の方が大きく値が低くなっているのに対し、男子では大学3年生11.1%、大学4年生28.0%で、大学4年生の方が大きく値が高くなっている。

全体としては、女子が勉学に打ち込む一方で男子はクラブ活動や自分が興味を持っている活動を楽しむことを重視する傾向があるように思われる。

設問8. 今一番打ち込んでいるものは、何ですか？

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
1 大学の授業や課題	20.9%	33.6%	34.1%	35.3%	34.4%	39.7%	38.4%	35.4%	42.1%	39.7%	33.2%
2 大学のクラブ活動	13.4%	10.5%	5.9%	5.7%	8.2%	8.3%	4.9%	9.2%	9.4%	6.7%	14.1%
3 自分の趣味	21.6%	20.6%	25.2%	26.6%	23.3%	21.4%	24.7%	21.1%	20.9%	28.2%	24.2%
4 アルバイト	19.4%	13.0%	15.7%	14.4%	14.8%	13.9%	14.4%	12.6%	10.9%	10.6%	10.9%
5 恋愛	6.0%	6.5%	3.0%	3.3%	3.8%	2.0%	6.1%	3.4%	3.9%	2.4%	3.1%
6 特になし	18.7%	15.8%	16.1%	14.7%	15.5%	14.7%	11.4%	18.4%	12.7%	12.4%	14.5%

設問8. 今一番打ち込んでいるものは、何ですか？													
	2012全体	全体女子	全体男子	2年全体	2年女子	2年男子	3年全体	3年女子	3年男子	4年全体	4年女子	4年男子	
1 大学の授業や課題	33.2%	39.6%	25.0%	34.5%	39.1%	28.6%	22.2%	32.0%	14.8%	37.7%	45.5%	24.0%	
2 大学のクラブ活動	14.1%	8.3%	21.3%	14.3%	8.7%	20.4%	13.0%	8.0%	18.5%	11.6%	4.5%	24.0%	
3 自分の趣味	24.2%	20.1%	28.7%	21.0%	17.4%	26.5%	33.3%	20.0%	40.7%	21.7%	22.7%	20.0%	
4 アルバイト	10.9%	10.4%	12.0%	6.7%	7.2%	6.1%	14.8%	20.0%	11.1%	17.4%	11.4%	28.0%	
5 恋愛	3.1%	3.5%	2.8%	2.5%	2.9%	2.0%	5.6%	4.0%	7.4%	2.9%	4.5%	0.0%	
6 特になし	14.5%	18.1%	10.2%	21.0%	24.6%	16.3%	11.1%	16.0%	7.4%	8.7%	11.4%	4.0%	
回答数	256	144	108	119	63	49	54	25	27	69	44	25	

C. 悩みについて(9~16)

「学生生活の中で一番困っていることは何ですか？（設問9）」では「2)将来の見通しがたたない」が34.5%、「6)経済的な問題」が18.2%で、これら2つの回答が他の回答よりも際立って高い値を示している。これらの回答は2002年度以来、継続して1位と2位の回答であるが、年度ごとに高まる傾向があった。(2)については2011に年度にこれまででもっとも高い値の47.6%を示したが2012年度では大幅に下がってこれまででもっとも低い値の34.5%になった。(6)は2010年度にこれまででもっとも高い値の22.1%であったが、2011年度にはこれまででもっとも低い値の15.8%になった。2012年度では再びやや高くなって18.2%になっている。「7)特になし」は、2005年度の19.5%に次いで、2007年度と同率のこれまでで2番目の高い値を示した。昨今の経済情勢も反映して、現在の生活に金銭的な余裕がなく、特に就職がどうなるのかについて不安を感じている学生が多いことが窺えるが、2011年度までと比べるとそうした意識をもっている学生はやや少なくなり、生活に特に問題を感じていない学生がやや増えているようである。「5)大学の授業が面白くない」は9.7%で、これまででもっとも低い値の6.7%を示した2011年度よりはやや高くなり、2006年度以降ではもっとも高い値を示している。

学年・男女別の回答内訳では、(2)についてはすべての学年で女子の方が男子よりもやや高い値を示している。大学2年生の20%台半ばの値に比べて大学3年生、大学4年生では40%台になっており、最初は比較的楽観的であった学生も、就職活動を控えた大学3年次や、就職活動中の大学4年次には就職が厳しいことがわかり、就職を心配するようになっていたことを示しているようである。(6)については、全体では女子の方が男子よりもやや高い値を示しているが、大学2年生では女子よりも男子の値がやや高く、大学3年生では、男女がほぼ同じ値、大学4年生では女子の方が男子よりもはるかに高い値になっている。学年の比較では大学2年生がもっとも値が高く、大学3年生がもっとも値が低い。大学2年生は女子・男子ともに20%を超えており、大学4年生も女子が20%を超えている。一方で、大学3年生の女子・男子と大学4年生の男子は10%未満で、値が高いグループと値が低いグループのあいだに大きな差がある。学年進行にともなって単位取得が進み、時間的に余裕ができたためにアルバイト等である程度の収入を得られることから、4年生は比較的値が低くなることが予測されるが、大学4年生女子は予測に反してかなりの割合の学生が経済的に苦しい状況にあるようである。就職活動などで、他の都府県に行かなくてはならないことなどが原因かもしれない。(5)については、全体では女子よりも男子の方が高い値を示しているが、学年によって状況は異なる。大学2年生では男子よりも女子の方が高い値を示し、大学3年生では女子よりも男

子の方がやや高い値を示し、大学4年生では女子よりも男子の方がはるかに高い値を示している。学年での比較では、大学2年生よりも大学3年生、大学4年生の方が高い値を示している。1年目を終了した2年生よりも2年以上大学での学修を経験した3年生で不満を持っている者が多く、男子学生は学年進行とともに不満を持つ者が増えるようである。

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
1 友人関係がうまくいかない	6.0%	4.9%	2.0%	2.5%	3.5%	4.7%	2.7%	5.1%	4.5%	6.4%	5.0%
2 将来の見通しがたたない	41.8%	38.9%	42.4%	37.9%	40.9%	39.9%	46.0%	44.1%	42.9%	47.6%	34.5%
3 やりたいことが自由にできない	9.0%	6.1%	6.6%	4.7%	4.4%	2.4%	4.6%	6.7%	5.7%	7.3%	7.8%
4 やりたいことがない	7.5%	6.9%	4.6%	4.9%	5.7%	6.3%	1.5%	5.4%	3.3%	5.2%	7.0%
5 大学の授業が面白くない	9.7%	11.7%	10.5%	12.1%	7.9%	9.1%	8.7%	7.7%	9.1%	6.7%	9.7%
6 経済的な問題	16.4%	18.6%	17.8%	18.4%	20.4%	19.8%	20.5%	21.9%	22.1%	15.8%	18.2%
7 特になし	9.7%	13.0%	16.1%	19.5%	17.3%	17.8%	16.0%	9.1%	12.4%	11.2%	17.8%

	2012全体	全体女子	全体男子	2年全体	2年女子	2年男子	3年全体	3年女子	3年男子	4年全体	4年女子	4年男子
1 友人関係がうまくいかない	5.0%	4.1%	6.4%	6.7%	7.2%	6.0%	1.8%	3.8%	0.0%	5.8%	0.0%	16.0%
2 将来の見通しがたたない	34.5%	35.9%	32.1%	25.8%	27.5%	24.0%	47.3%	46.2%	44.4%	42.0%	43.2%	40.0%
3 やりたいことが自由にできない	7.8%	5.5%	11.0%	10.8%	10.1%	12.0%	5.5%	3.8%	7.4%	2.9%	0.0%	8.0%
4 やりたいことがない	7.0%	9.0%	4.6%	5.8%	7.2%	4.0%	12.7%	15.4%	11.1%	5.8%	9.1%	0.0%
5 大学の授業が面白くない	9.7%	9.0%	11.0%	5.8%	8.7%	2.0%	12.7%	11.5%	14.8%	11.6%	6.8%	20.0%
6 経済的な問題	18.2%	19.3%	17.4%	23.3%	21.7%	26.0%	7.3%	7.7%	7.4%	15.9%	20.5%	8.0%
7 特になし	17.8%	17.2%	17.4%	21.7%	17.4%	26.0%	12.7%	11.5%	14.8%	15.9%	20.5%	8.0%
回答数	258	145	109	120	69	50	55	26	27	69	44	25

「現在抱えている悩みや不安は何ですか？（設問10）」では、設問9の回答と似て、「1）これからの進路について」が45.0%で1位、「5）金銭上のこと」が15.9%で2位となっており、「3）勉学上のこと」が14.3%で3位になっている。(1)については2011年度の58.6%からかなり低くなっており、2002年度に次いでこれまでで2番目に低い値になっている。(5)と(3)は2010年度とは順位が入れ替わったが、(3)については、2004年度以降は、2007年度の10.4%以外は10%台半ばで推移してきているので、例年とほぼ同じ値である。(5)は2011年度より5.9%高くなり、これまででもっとも高い値になっている。これからの進路よりも現在の金銭上の問題ことで悩む学生が増えているようである。

学年・男女別の回答内訳では、(1)については2011年度と同様に2012年度でも、学年ごとに値が高くなる傾向がある。男女間の比較では、大学2年生と大学3年生では女子よりも男子がわずかに高い値を示しているが、大学4年生では女子が81.8%、男子が56.0%で女子の方が男子よりもはるかに高い値を示している。男女それぞれの学年間の比較をすると、女子・男子ともに大学2年生よりも大学3年生の方が値がはるかに高いが、女子では大学3年生よりも大学4年生の値がさらに高くなっているのに対して男子では大学4年生の方が大学3年生よりもわずかに低くなっている。大学4年次4月の時点で、一部の学生は採用の内々定を取っている、あるいは取ることができる目処がある程度立っている学生もいると思われるが、そうした学生は女子よりも男子に多いことが反映されているのではないと思われる。学年進行とともに値が高くなる傾向は過年度と同じであるが、過年度ではすべての学年で女子の値が男子の値よりも高かったのに対し、2012年度では、大学2年生では男女の差がほとんどなく、大学3年生では女子の値よりも男子の値がやや高くなっている点が過年度とは異なっ

ている。(2009年度ではすべての学年で女子が男子よりも高い値を示し、学年ごとに値が高くなり、大学4年生女子では75.0%、大学4年生男子では59.6%を示していた。2010年度では2年生において男子が女子よりも高い値を示したが、学年ごとに値が高くなる傾向は変わっておらず、大学4年生女子では70.5%、大学4年生男子では63.0%を示していた。2011年度では、学年進行とともに値が高くなり、大学2年生、大学3年生では女子の方が男子よりも高い値を示したが、大学4年生では、2009年度、2010年度と比べて男子の値がかなり高くなり、女子が72.7%、男子が74.4%で女子よりも男子の値が高かった。)近年では、就職活動において、かならずしも女子よりも男子が比較的容易に就職先を確保できるわけではなくなってきたことを反映しているのではないかと思われる。

(5)については、2012年度では学年ごとに値が低くなっているが、大学2年生が25.0%であるのに対し、大学3年生と大学4年生では10%未満であり、大学2年生が他の学年よりも際立って高い値を示している。また、男女間の比較では、学年によって状況が異なり、大学2年生では女子よりも男子の方がはるかに高い値を示しているが、大学3年生では女子の方が男子よりもはるかに高い値を示し、大学4年生では男女間の差はわずかである。(2009年度は、学年進行とともに値が低くなり、女子よりも男子の方が高い値を示す傾向があった。2010年度では、大学3年生、大学4年生では女子よりも男子の方が高い値を示していたが、大学2年生においては女子が23.5%、男子が10.0%で、男子よりも女子の方がはるかに高い値を示し、全体でも女子の方が男子よりも高い値を示していた。2011年度では、学年進行とともに値が低くなり、全体では女子よりも男子の方が高い値を示す傾向があった。大学2年生では女子の方が男子よりも高い値を示したが2010年度のような大きな差は見られず、大学3年生、大学4年生では女子よりも男子の方が高い値を示しており、大学4年生では男女間の差が大きかった。)

(3)については、2012年度では、学年ごとに値が低くなる傾向があるが、男女間の比較では、学年によって状況が異なり、大学2年生では女子の方が男子よりも高い値を示しているが、大学3年生では男女間の差はわずかで、大学4年生では女子よりも男子の値がわずかに高くなっている。学年進行とともに値が低くなるのは2010年度、2011年度と同様である。2011年度では、全学年で女子よりも男子の値が高く、大学2年生では女子21.2%、男子22.4%、大学4年生では女子6.1%、男子9.3%で、差はわずかであったが、大学3年生では女子が7.4%、男子が20.0%で、大きな違いが見られた。2012年度では大学2年生で女子が24.6%、男子が14.0%で女子の方が値が高く、大きな差があるが、大学3年生では女子11.5%、男子11.1%、大学4年生では女子2.3%、男子4.0%で大きな差はない。学年進行とともに値が小さくなるのは、かならずしも勉学上での悩みや不安を持っている者が減るわけではなく、一つの回答しか選択できないために、(1)の進路の回答を選択する学生が学年とともに増える分、(3)を選択する学生が減っているものと思われる。

「7)いじめにあっている」は2012年度では、すべての学年が0.0%ではなく、どの学年にもいじめにあっている学生がいるようである。大学2年生女子、大学3年生女子、大学3年生男子、大学4年生男子が0.0%ではなく、これらのグループに(7)を回答した学生がいることがわかる。2009年度では大学3年生男子のみが0.0%ではなく、(7)を回答した学生は大学

3年生男子にいた。2010年度では大学3年生、大学4年生は0.0%であったが、大学2年生の女子と男子の両方が0.0%でなく、(7)を回答した学生が大学2年生の女子および男子にいた。2011年度では、大学2年生男子、大学3年生女子、大学4年生男子が0.0%ではなく、これらのグループに(7)を回答した学生がいた。

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
1 これからの進路について	44.4%	55.7%	61.2%	60.0%	59.2%	63.7%	59.8%	54.7%	53.3%	58.6%	45.0%
2 健康上のこと	2.3%	2.0%	3.3%	2.7%	2.8%	4.0%	5.4%	3.7%	4.8%	4.5%	4.7%
3 勉学上のこと	21.8%	17.5%	13.8%	14.0%	15.7%	10.4%	13.9%	14.5%	14.2%	14.2%	14.3%
4 自分の性格のこと	6.0%	3.3%	3.9%	2.5%	4.7%	2.4%	1.9%	3.7%	1.8%	3.9%	4.3%
5 金銭上のこと	12.0%	8.5%	8.2%	7.9%	8.2%	10.8%	10.0%	15.5%	15.2%	10.0%	15.9%
6 友人関係	3.0%	2.4%	1.0%	1.1%	1.9%	1.2%	0.4%	1.7%	0.9%	0.9%	1.2%
7 いじめにあっている	1.5%	1.2%	0.0%	0.5%	0.0%	0.0%	0.4%	0.3%	0.9%	1.2%	1.6%
8 生活環境	1.5%	4.5%	2.0%	3.0%	1.9%	0.4%	1.9%	1.0%	2.4%	1.5%	1.6%
9 特になし	7.5%	4.9%	6.6%	8.2%	5.6%	7.2%	6.2%	4.7%	6.4%	5.1%	11.6%

	2012全体	全体女子	全体男子	2年全体	2年女子	2年男子	3年全体	3年女子	3年男子	4年全体	4年女子	4年男子
1 これからの進路について	45.0%	49.0%	40.4%	27.5%	27.5%	28.0%	56.4%	53.8%	59.3%	72.5%	81.8%	56.0%
2 健康上のこと	4.7%	2.8%	7.3%	2.5%	2.9%	2.0%	1.8%	0.0%	3.7%	7.2%	4.5%	12.0%
3 勉学上のこと	14.3%	16.6%	11.0%	20.0%	24.6%	14.0%	12.7%	11.5%	11.1%	2.9%	2.3%	4.0%
4 自分の性格のこと	4.3%	4.8%	3.7%	6.7%	8.7%	4.0%	3.6%	3.8%	3.7%	0.0%	0.0%	0.0%
5 金銭上のこと	15.9%	14.5%	18.3%	25.0%	20.3%	32.0%	9.1%	15.4%	3.7%	7.2%	6.8%	8.0%
6 友人関係	1.2%	2.1%	0.0%	1.7%	2.9%	0.0%	1.8%	3.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
7 いじめにあっている	1.6%	1.4%	1.8%	0.8%	1.4%	0.0%	3.6%	3.8%	3.7%	1.4%	0.0%	4.0%
8 生活環境	1.6%	0.7%	2.8%	1.7%	1.4%	2.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.4%	0.0%	4.0%
9 特になし	11.6%	8.3%	14.7%	14.2%	10.1%	18.0%	10.9%	7.7%	14.8%	7.2%	4.5%	12.0%
回答数	258	145	109	120	69	50	55	26	27	69	44	25

「悩みがあったら誰に相談しますか？（設問11）」では「2)同性の友達」が42.8%、「1)家族」が31.5%で、他の回答と比べて際立って高い値を示している。(2)は2011年度の48.3%よりも下がり、過去もっとも低かった2010年度の44.8%よりも低くなって、これまででもっとも低い値を示している。(1)は2011年度の26.0%よりも上がり、過去もっとも高かった2010年度の31.1%よりも高くなり、これまででもっとも高い31.5%を示している。「5)アドバイザーの先生」は1.9%で、2010年度の4.3%、2011年度の2.4%に比べると下がっており、2006年度～2009年度の1%台の値にもどっている。「6)アドバイザー以外の先生」は2011年度まではすべて1%未満であったが、2012年度では初めて1%を超え、1.6%となっているが、回答中ではもっとも低い値を示している。過年度と同様に、教員は悩みを相談する相手とは見なされていないことがわかる。「4)先輩」は4.3%で、2010年度の2.4%、2011年度の3.6%よりも高いが、2005年度以降では、2010年度以外は3%台後半から5%台の値で推移してきており、2012年度も例年と同様の値である。(2)と(1)が高い値を示し、(5)と(6)が低い値を示しているのは例年と同様である。

学年・男女別の回答内訳では、(2)については、学年ごとに値が高くなり、全体では女子の方が男子よりも高い値を示している。女子では学年進行とともに値が高くなっているが、男子では大学2年生がもっとも低く、大学3年生がもっとも高い値を示している。大学2年生と大学4年生では女子の方が男子よりも高い値を示しているが、大学3年生では男女の差はほとんどない。(1)については、大学2年生がやや高く、大学3年生がやや低いが、学年間の差は小さい。全体では女子の方が男子よりも高い値を示している。女子では大学2年生と大

学4年生がほぼ同じ値で、大学3年生が他の学年よりも10%以上高い値を示している。男子では大学2年生が30%台前半、大学4年生が20%台後半であるのに対し、3年生が11.1%という非常に低い値を示している。大学2年生では女子よりも男子の方がやや高い値を示し、大学4年生では女子の方が男子よりもやや高い値を示しているが、女子と男子の差は大きくはない。一方で大学3年生では女子が44.0%に対し男子が11.1%で大きな差がある。大学3年生の女子と男子は(2)の回答がほぼ同率であったが、男子は(1)の回答が際立って低い値を示し、「7)個人的な悩みを相談する人がいない」が25.9%を示している。

全体的には学年が高くなるほど友人と相談する傾向があるが、家族と相談する学生の割合は学年間・男女間で大きな違いがあり、2012年度の大学3年生では女子には家族と相談する学生が多い一方で、男子には相談をする相手がいない学生がかなりいるようである。

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
1 家族	24.4%	17.0%	21.6%	25.3%	20.6%	24.9%	27.7%	27.4%	31.1%	26.0%	31.5%
2 同性の友達	54.8%	61.9%	61.1%	55.2%	60.3%	59.4%	50.0%	59.0%	44.8%	48.3%	42.8%
3 異性の友達	12.6%	6.1%	9.8%	6.3%	5.7%	5.2%	8.1%	7.4%	8.5%	12.1%	7.0%
4 先輩	0.7%	4.9%	1.6%	4.9%	4.8%	4.0%	5.4%	3.7%	2.4%	3.6%	4.3%
5 アドバイザーの先生	1.5%	2.8%	1.3%	2.7%	1.6%	1.2%	1.2%	1.4%	4.3%	2.4%	1.9%
6 アドバイザー以外の先生	0.0%	0.4%	0.7%	0.5%	0.6%	0.4%	0.8%	0.3%	0.3%	0.3%	1.6%
7 個人的な悩みを相談する人がいない	5.9%	6.9%	3.9%	4.3%	6.3%	4.8%	6.9%	6.8%	8.5%	7.3%	10.9%

設問11. 悩みがあったら誰に相談しますか？

	2012全体	全体女子	全体男子	2年全体	2年女子	2年男子	3年全体	3年女子	3年男子	4年全体	4年女子	4年男子
1 家族	31.5%	34.7%	26.6%	32.5%	31.9%	34.0%	27.8%	44.0%	11.1%	30.4%	31.8%	28.0%
2 同性の友達	42.8%	47.2%	37.6%	37.5%	42.0%	32.0%	48.1%	48.0%	48.1%	49.3%	54.5%	40.0%
3 異性の友達	7.0%	3.5%	11.9%	8.3%	5.8%	12.0%	0.0%	0.0%	0.0%	8.7%	2.3%	20.0%
4 先輩	4.3%	3.5%	5.5%	5.0%	5.8%	4.0%	5.6%	0.0%	11.1%	2.3%	2.3%	4.0%
5 アドバイザーの先生	1.9%	0.7%	3.7%	2.5%	0.0%	6.0%	1.9%	0.0%	3.7%	1.4%	2.3%	0.0%
6 アドバイザー以外の先生	1.6%	2.8%	0.0%	2.5%	4.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.4%	2.3%	0.0%
7 個人的な悩みを相談する人がいない	10.9%	7.6%	14.7%	11.7%	10.1%	12.0%	16.7%	8.0%	25.9%	5.8%	4.5%	8.0%

回答数	257	144	109	120	69	50	54	25	27	69	44	25
-----	-----	-----	-----	-----	----	----	----	----	----	----	----	----

「学内のカウンセリングルームについて（設問12）」では、「4)行かない」が58.1%でもっとも高く、次いで、「3)存在を知らなかった」が17.8%、「2)行ってみたいと思ったことがある」が14.6%、「1)行ったことがある」が9.5%であった。(4)については、これまででもっとも値が高かった2008年度以降、年ごとに値が低くなっており、2011年度は、それまででもっとも値が低かった2002年度の38.3%に次いで2番目に低い値の42.5%であったが、2012年度は2008年度の53.0%を超えて、これまででもっとも高い値になっている。(1)については、これまででもっとも値が低かった2007年度以降、年ごとに値が高くなり、2011年度は、2005年度以降でもっとも高い値を示したが、2012年では再び値が低くなっている。実際にカウンセリングルームを利用している学生は10人に1人ぐらいの割合で、2010年度、2011年度と比較して大きくは変化していないが、2011年度よりも(2)を回答した者が少なくなり、カウンセリングルームを利用している、または利用したいと考えている学生は24.1%となっている。2009年度、2010年度、2011年度は20%以上の学生が存在を知らなかったと回答したが、2012年度ではやや値が低くなり、17.8%であった。

学年・男女別の回答内訳では、実際にカウンセリングルームを利用している学生は全体では女子よりも男子の方が高い値を示しており、男子より女子の利用率が高かった2011年度と

比較すると男子の利用率がわずかに高くなった一方で、女子の利用率が4.6%低くなっている。また、男女の利用率は学年によって傾向が大きく異なり、大学2年生と大学4年生では女子よりも男子の方がよりもやや高い値を示しているが、大学3年生では女子と男子の差が大きく、女子の方が男子よりも値が高い。大学3年生男子の利用率は3.7%で、他のいずれのグループよりも値が低い。2011年度では、大学2年生の女子の20%近くがカウンセリングルームを利用していたのに対し、男子は6%しか利用していなかったため、その利用状況が学年進行により2012年度の大学3年生の利用状況に反映されているものと思われる。大学2年生女子がやや低い7.5%、大学3年生男子が非常に低い3.7%を示しているほかは、いずれのグループも9%から12%のあいだの値を示している。2010年度では大学4年生は女子・男子ともに5%未満であったが、2011年度には女子・男子ともに10%代前半となり、2012年度もほぼ同様の値である。2012年度の大学4年生のグループは、2011年度の大学3年次の値が女子・男子ともに7%台であったので、大学3年次の利用率と比べても値が高くなっている。

「3)存在を知らなかった」と回答した者の値は、女子では大学2年生が2011年度の15%程度よりも大幅に高い28.4%であったが、大学3年生は2011年度の20%台後半よりもはるかに低い11.5%、大学4年生は2011年度の10%台後半よりもはるかに低い2.3%になっている。男子では大学2年生が2011年度とほぼ同じ30.6%であるが、大学3年生は2011年度の30.0%から大幅に低くなって11.1%になり、大学4年生でも2011年度の16.3%から12.0%に下がっている。女子・男子ともに大学3年生、大学4年生よりも大学2年生に存在を知らない学生が多いが、大学での学生生活の期間が長くなる、あるいは就職活動に入って、相談を希望する者が増加するのに伴って、カウンセリングルームがより多くの学生に知られるようになっているものと思われる。また、2012年度では大学2年生でカウンセリングルームを知らない者が多かった原因として、留学生の割合が比較的高かったと考えられる。

設問12. 学内のカウンセリングルームについて

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
1 行ったことがある	11.3%	13.0%	12.1%	6.3%	4.7%	4.0%	6.4%	6.8%	10.6%	11.7%	9.5%
2 行ってみたいと思ったことがある	27.8%	33.3%	25.8%	27.4%	18.9%	24.4%	26.5%	22.7%	21.8%	24.6%	14.6%
3 存在を知らなかった	22.6%	10.6%	10.8%	17.8%	26.7%	20.8%	14.0%	22.0%	21.1%	21.3%	17.8%
4 行かない	38.3%	43.1%	51.5%	48.5%	49.7%	50.4%	53.0%	48.5%	46.5%	42.5%	58.1%

設問12. 学内のカウンセリングルームについて

	2012全体	全体女子	全体男子	2年全体	2年女子	2年男子	3年全体	3年女子	3年男子	4年全体	4年女子	4年男子
1 行ったことがある	9.5%	8.4%	9.4%	8.5%	7.5%	10.2%	10.9%	11.5%	3.7%	10.1%	9.1%	12.0%
2 行ってみたいと思ったことがある	14.6%	11.9%	18.9%	18.8%	14.9%	24.5%	9.1%	9.8%	14.8%	10.1%	11.4%	8.0%
3 存在を知らなかった	17.8%	16.1%	19.8%	29.9%	28.4%	30.6%	10.9%	11.5%	11.1%	5.8%	2.3%	12.0%
4 行かない	58.1%	63.6%	51.9%	42.7%	49.3%	34.7%	69.1%	73.1%	70.4%	73.9%	77.3%	68.0%
回答数	253	143	106	117	67	49	55	26	27	69	44	25

「12で『行かない』と答えた人は、行かない理由を選んで下さい(設問13)」では、「1)必要がない」が62.8%、「5)カウンセリングについて、よくわからない」が23.0%、「3)時間帯が悪い」が6.0%、「4)行っていることを他の人に知られたくない」が4.4%、「2)場所が悪い」が3.8%になっている。年度ごとに(1)の値は低くなる傾向があり、2011年度はこれまでもっとも低い値の49.8%になったが、2012年度では大幅に高くなり62.8%になっている。(5)の値は2003年度以降20%前後で推移している。2010年度は16.2%で完成年度の2004年度

以降でもっとも低い値になったが、2011年度は再び高くなり、2012年度はさらに高くなって2009年度の22.9%を超え、これまででもっとも高い値になっている。(3)は2011年度に過去最高の14.0%の値を示したが、2012年度は大幅に低くなり6.0%であった。カウンセラー3名体制でカウンセリングルームを週3回開室していることが不満の減少の一因かもしれない。

2010年度では(4)および(2)がそれぞれ、それまででもっとも高い値の7.9%と7.4%を示し、2011年度では、(4)がそれまででもっとも低い4.8%になった一方で、(2)がそれまででもっとも高い10.5%になった。2012年度では、(4)がさらに低くなり、これまででもっとも低い4.4%になり、(2)も大幅に低くなって2006年度と同率でこれまででもっとも低い3.8%となっている。(2)、(3)、(4)が低くなって不満が解消しているように見えるかもしれないが、2012年度は「1)必要がない」と回答した学生の割合が2011年度に比べて非常に高かったため、相対的に(2)、(3)、(4)の回答者の割合が低くなっているだけなのかもしれないので結果の解釈には注意が必要である。

学年・男女別の回答内訳では、(1)については、学年間の比較では大学2年生が5割半程度、大学3年生が7割程度、大学4年生が7割程度となっている。男女間の比較では、全体では女子が7割程度に対して男子は5割程度を示し、大学2年生では女子6割、男子5割、大学3年生では女子9割、男子5割半、大学4年生では女子7割半、男子6割となっている。2011年度では大学2年生で女子の値が男子よりも高かったことを除けば、女子と男子で大きな差はなかったが、2012年度では、すべての学年で女子の値が男子の値よりも高く、大学3年生では大きな差になっている。(5)については、学年間の比較では大学2年生が3割程度、3年生が2割程度、4年生が1割半程度となっている。男女間の比較では、全体では女子2割、男子3割、大学2年生では女子2割半、男子4割、大学3年生では女子1割、男子3割、大学4年生では女子・男子とも1割から1割半程度である。いずれの学年も(1)と(5)を合わせると8割半から9割程度になるので、カウンセリングルームの存在を知っているが、利用していないし、利用することも考えていない学生の大半は、具体的に何らかの不都合を意識して利用していないのではなく、必要がないので、あるいはカウンセリングというものがどういふものかわからないので利用していないようである。

(3)については、学年間の比較では大学2年生と大学4年生の値が大学3年生の値よりやや高くなっている。男女間の比較では、大学2年生では女子の方が男子より高い値を示しているが、大学3年生、大学4年生では女子より男子の方が高い値を示している。2011年度では大学2年生(2010年度の大学1年生)男子と大学3年生(2010年度の大学2年生)女子が20%近い値を示し、カウンセラーの在室時間が特にこれらのグループの時間割の都合に合わなかったものと思われたが、2012年度では、際立って高い値を示すグループは見られない。2011年度からカウンセラー3名の体制で週3日開室していることも、値が低くなった原因の一つであると考えられるが、全体的に利用したいと考えている学生の割合が小さくなっていることも値が低い原因であると思われる。

(2)については、学年間の比較では大学2年生から大学4年生まで1%台から2%台の値で、2011年度の大学2年生10.8%、大学3年生13.2%、大学4年生7.4%に比較すると大幅に低く

なっている。場所が悪いことを理由にしてカウンセリングルームを利用していない学生の多くは2012年度調査では少数である。

(4)については、学年間の比較では大学2年生が4%台、大学3年生が2%台、大学4年生が6%台で、大学3年生の値がやや低く、大学4年生の値がやや高い。男女間の比較では、全体では女子よりも男子が高い値を示し、大学2年生では女子が5.1%、男子が3.6%であるのに対し、大学3年生では女子が0.0%、男子が4.5%、大学4年生では女子が2.8%、男子が13.0%で、男子の値が高く、特に大学4年生で男女間に大きな差がある。特に4年生男子の値が高いが、2011年度の調査でも当時の大学3年生は12.9%の値を示しており、現在の大学4年生のグループには、カウンセリングルームに行っていることを知られたくないということを理由としてカウンセリングルームの利用を躊躇している学生が多いようである。

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
1 必要がない	71.4%	65.8%	64.6%	66.0%	68.3%	59.7%	62.8%	59.2%	55.9%	49.8%	62.8%
2 場所が悪い	6.3%	6.8%	4.0%	4.4%	3.8%	5.2%	4.9%	7.0%	7.4%	10.5%	3.8%
3 時間帯が悪い	4.8%	4.3%	5.1%	5.4%	3.8%	10.4%	6.7%	5.0%	12.7%	14.0%	6.0%
4 行っていることを他の人に知られたくない	6.3%	3.4%	5.7%	3.0%	6.0%	5.2%	6.7%	6.0%	7.9%	4.8%	4.4%
5 カウンセリングについて、よくわからない	11.1%	19.7%	20.6%	21.2%	18.0%	19.5%	18.0%	22.3%	16.2%	21.0%	23.0%

	2012全体	全体女子	全体男子	2年全体	2年女子	2年男子	3年全体	3年女子	3年男子	4年全体	4年女子	4年男子
1 必要がない	62.8%	71.3%	51.3%	56.7%	61.5%	50.0%	72.1%	90.0%	54.5%	69.5%	75.0%	60.9%
2 場所が悪い	3.8%	1.0%	7.5%	1.5%	0.0%	3.6%	2.3%	0.0%	4.5%	1.7%	0.0%	4.3%
3 時間帯が悪い	6.0%	5.0%	7.5%	6.0%	7.7%	3.6%	4.7%	0.0%	9.1%	6.8%	5.6%	8.7%
4 行っていることを他の人に知られたくない	4.4%	3.0%	6.3%	4.5%	5.1%	3.6%	2.3%	0.0%	4.5%	6.8%	2.8%	13.0%
5 カウンセリングについて、よくわからない	23.0%	19.8%	27.5%	31.3%	25.6%	39.3%	18.6%	10.0%	27.3%	15.3%	16.7%	13.0%

回答数	183	101	80	67	39	28	43	20	22	59	36	23
-----	-----	-----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

「クラス・アドバイザーにはどういうことを相談していいと思いますか? (設問14)」では、「2)学業に関することや、卒業後の進路の問題」が35.0%でもっとも高く、次いで「3)学業、卒業後の進路、個人的な悩みなどどのようなことでも相談してよい」が32.7%になっている。(3)は例年とほぼ同様の値であるが、(2)は2011年度の40.7%からかなり低くなり、これまででもっとも低い値になっている。「1)学業に関することのみ」は12.5%で、2008年度以降は、2007年以前よりもやや高い値を示している。「4)何を相談していいのかわからない」は19.8%で、2011年度の11.4%から大幅に高くなり、これまででもっとも高い値になっている。(2)と(3)の値がかなり高い一方で、設問11では実際にアドバイザーに相談する学生は1.9%で、割合が大きくない。また、(4)の値からアドバイザーの役割がわからない学生も2割近くいることがわかる。

学年・男女別の回答内訳では、(2)については、学年間の比較では大学2年生が34.2%、大学3年生が40.7%、大学4年生が27.5%で、大学3年生の値が高く、大学4年生の値が低い。全学年がほぼ4割程度であった2011年度とはかなり異なっている。男女間の比較では、大学2年生で女子より男子の値の方がやや高く、大学3年生では女子の値の方が男子よりやや高い。大学4年生では女子と男子の値はほぼ同じである。女子の方が男子よりも高い値を示す傾向があった2011年度では大学4年生で女子と男子のあいだに20%以上の差があったがその

ような大きな差は2012年度にはみられない。(3)については、学年間の比較では全学年が3割台前半から半ばの値を示している。しかし、男女間の比較では、学年により女子と男子の値は大きく異なっている。大学2年生では女子40.6%、男子24.0%で女子の値が男子よりはるかに高く、16%以上の差があるが、大学3年生では女子36.0%、男子33.3%で大きな差はなく、大学4年生では女子31.8%、男子44.0%で男子の値が女子よりはるかに高く、12%以上の差がある。女子については、学年が高くなるにつれて、アドバイザーを学業以外のことでの相談相手と考えている学生の割合がやや低くなるが、男子では逆に学年が高くなるにつれて、アドバイザーを学業以外のことでの相談相手と考えている学生の割合が高くなるようである。

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
1 学業に関する事のみ	7.5%	3.3%	8.7%	6.6%	7.9%	8.6%	13.8%	13.3%	15.5%	15.4%	12.5%
2 学業に関することや、卒業後の進路の問題	50.4%	53.3%	49.5%	48.5%	44.1%	50.6%	44.4%	46.3%	45.7%	40.7%	35.0%
3 学業、卒業後の進路、個人的な悩みなどのようなことでも相談してよい	29.3%	33.8%	30.8%	35.0%	35.2%	29.4%	28.4%	27.9%	30.4%	32.5%	32.7%
4 何を相談していいかわからない	12.8%	9.6%	11.0%	9.9%	12.7%	11.4%	13.4%	12.6%	8.4%	11.4%	19.8%

	2012全体	全体女子	全体男子	2年全体	2年女子	2年男子	3年全体	3年女子	3年男子	4年全体	4年女子	4年男子
1 学業に関する事のみ	12.5%	11.1%	13.8%	12.5%	8.7%	18.0%	7.4%	8.0%	7.4%	15.9%	18.2%	12.0%
2 学業に関することや、卒業後の進路の問題	35.0%	34.0%	34.9%	34.2%	31.9%	36.0%	40.7%	40.0%	37.0%	27.5%	27.3%	28.0%
3 学業、卒業後の進路、個人的な悩みなどのようなことでも相談してよい	32.7%	35.4%	30.3%	33.3%	40.6%	24.0%	33.3%	36.0%	33.3%	36.2%	31.8%	44.0%
4 何を相談していいかわからない	19.8%	19.4%	21.1%	20.0%	18.8%	22.0%	18.5%	16.0%	22.2%	20.3%	22.7%	16.0%
回答数	257	144	109	120	69	50	54	25	27	69	44	25

「あなたのアドバイザーとどの程度話をしていますか？（設問15）」では、「1）頻繁に話をしている」、「2）時々話をしている」が合わせて33.0%、「3）相談事があるときだけ話をしている」が22.8%、「4）授業以外では全く話をしていない」、「5）全く話したことがない」が合わせて44.1%であった。(3)については2004年度以降は20%台で推移しており、本年度も例年とほぼ同様の値になっている。(1)、(2)については、2010年度までは年度ごとに高くなる傾向があり、相談事が特になくともアドバイザーと話をする学生が増加していると考えられたが、2011年度、2012年度では、それぞれ前年度よりも値が下がっている。(4)、(5)については2010年度までは年度ごとに低くなる傾向があり、アドバイザーと接する機会を持たない学生は減少していると考えられたが、2011年度では2010年度よりも値が上がり、2012年度も2011年度と同率であった。

学年・男女別の回答内訳では、(1)については、学年間の比較では、大学2年生、大学3年生が7%台であるのに対し、大学4年生が13.4%でより高い値を示している。男女間の比較では、すべての学年で、女子よりも男子の方がかなり高い値を示している。積極的にアドバイザーと話をする学生は男子に多いようである。

(2)については、学年間の比較では大学2年生、大学3年生よりも大学4年生がやや高い値を示しているが、いずれも20%台である。男女間の比較では、大学2年生では女子よりも男子の値が高いが、大学3年生、大学4年生では女子の方が男子よりも高い値を示している。

(4)については、学年間の比較では、大学3年生が25.9%でもっとも高く、大学4年生が17.9%でもっとも低く、大学2年生が中間で21.0%である。男女間の比較では、すべての学年で女子の方が男子よりもかなり高い値を示している。

(5)については、学年間の比較では大学3年生が31.5%でもっとも高く、大学4年生が19.4%でもっとも低く、大学2年生が中間で23.5%である。男女間の比較では、大学2年生では女子と男子はほぼ同じ値であるが、大学3年生と大学4年生では女子よりも男子の方が値がはるかに高い。アドバイザーとほとんど話をしない学生は大学3年生と大学4年生の男子に多いようである。

女子と比較して男子学生はアドバイザーと積極的に話をする学生が多いが、一方で大学3年生と大学4年生の男子には、アドバイザーとほとんど接触しない学生も多いようである。

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
1 頻繁に話をしている	3.0%	4.9%	3.0%	2.5%	3.4%	5.6%	7.3%	8.5%	7.9%	8.4%	10.2%
2 時々話をしている	25.4%	20.0%	23.6%	22.9%	25.4%	32.3%	25.2%	28.5%	29.0%	25.8%	22.8%
3 相談事があるときだけ話をしている	15.7%	15.5%	22.0%	21.8%	25.1%	21.0%	27.1%	24.7%	26.9%	21.6%	22.8%
4 授業以外では全く話をしていない	23.9%	27.8%	27.2%	24.2%	28.5%	29.4%	27.1%	24.7%	22.7%	27.6%	20.5%
5 全く話したことがない	32.1%	31.8%	24.3%	28.7%	17.6%	11.7%	13.4%	13.6%	13.6%	16.5%	23.6%

	2012全体	全体女子	全体男子	2年全体	2年女子	2年男子	3年全体	3年女子	3年男子	4年全体	4年女子	4年男子
1 頻繁に話をしている	10.2%	7.0%	15.0%	7.6%	4.4%	12.0%	7.4%	3.8%	11.5%	13.4%	9.3%	20.8%
2 時々話をしている	22.8%	21.7%	25.2%	21.0%	14.7%	30.0%	20.4%	23.1%	19.2%	26.9%	30.2%	20.8%
3 相談事があるときだけ話をしている	22.8%	24.5%	20.6%	26.9%	29.4%	22.0%	14.8%	11.5%	19.2%	22.4%	25.6%	16.7%
4 授業以外では全く話をしていない	20.5%	25.9%	12.1%	21.0%	27.9%	12.0%	25.9%	34.6%	11.5%	17.9%	20.9%	12.5%
5 全く話したことがない	23.6%	21.0%	27.1%	23.5%	23.5%	24.0%	31.5%	26.9%	38.5%	19.4%	14.0%	29.2%
回答数	254	143	107	119	68	50	54	26	26	67	43	24

「今までにアドバイザーと全く話しをしたことがない人だけ教えてください。なぜ、今までアドバイザーと全く話しをしたことがないのですか？（設問16）」では、「4)特に話す必要がない」が35.6%、「1)話したいと思うが機会がない」が28.0%、「2)自分が消極的なため機会はあるが話すことができない」が20.3%、「3)話したいと思うがアドバイザーが相談にのってくれそうにない」が16.1%であった。2011年度では、(1)、(2)、(4)がほぼ同じ値で、(3)が他の回答より低い値であったが、2012年度では過年度とほぼ同様に(4)>(1)>(2)>(3)の順になっている。これまでの調査では、2010年度を除いては、(4)がもっとも高い値を示しており、2008年度、2010年度、2011年度以外は(1)が2番目、(2)が3番目に高く、2008年度以外は(3)がもっとも低い値（ただし2009年度は(2)と同じ値）を示している。(3)は2011年度の13.0%からやや高くなり、これまでで3番目に高い値を示している。アドバイザーと話さない理由は「必要がない」がおよそ3割半、「機会がない」が3割程度、「消極的で話せない」が2割程度、「相談に乗ってくれそうにない」が1割半程度であり、「機会がない」と「消極的で話せない」の合計が5割程度となるので、アドバイザーとまったく話をしたことがない学生のおよそ半数は、アドバイザーと話したいという気持ちはあるが、内在的あるいは外在的理由で話ができないようである。

(4)については、2002年度から2009年度まで選択肢中でもっとも割合が高かったが、年度ごとに低くなる傾向があり、2010年度では大きく下がって25.4%になり、2011年度も29.5%で過年度よりかなり低かった。しかし、2012年度では35.6%まで回復している。(1)については、2010年度には過去最高の37.3%であったが、2011年度には2009年度以前とほぼ同様の値の28.1%に下がり、2012年度でもほぼ同じ値の28.0%である。(2)については2010年度の19.0%から2011年度では大きく上がり、過去最高の29.5%となったが、2012年度では20%程度まで下がっている。(3)は2008年度以降、2007年度以前よりも際立って高くなった。2011年度は2008年度以降でもっとも低くなったが、2012年度では再び値が高くなっている。アドバイザーの方が相談について消極的であると感じている学生が増えているということが窺える。

学年・男女別の回答内訳では、(4)については、学年間の比較では大学2年生が44.4%で、大学3年生の28.0%、大学4年生の33.3%よりもかなり高い値を示している。男女間の比較では、大学2年生では女子が50.0%、男子が39.3%で、女子の方が高い値を示しているが、大学3年生では女子が20.0%、男子が33.3%で、男子の方が高い値を示しており、大学4年生では、女子が42.9%、男子が23.1%で、女子の方が高い値を示している。2011年度と比較すると、大学2年生男子が22.2%から39.3%になり、大学4年女子が15.0%から42.9%になり、値が大幅に高くなっている。話す必要がないことを理由としてアドバイザーと話さない学生は大学2年生女子および男子、大学4年生女子に多いことがわかる。

(1)については、学年間の比較では大学2年生が22.2%、大学3年生が36.0%、大学4年生22.2%で、大学2年生、大学4年生よりも大学3年生が高い値を示している。男女間の比較では、大学2年生では女子23.1%、男子21.4%で女子と男子の差はわずかであるが、大学3年生では女子50.0%、男子26.7%で女子の方が男子よりもはるかに値が高く、大学4年生では女子14.3%、男子30.8%で女子よりも男子の方が高い値を示している。機会がないことを理由としてアドバイザーと話さない学生は、大学3年生の女子、大学4年生の男子に多いことがわかる。

(2)については、学年間の比較では大学2年生が18.5%、大学3年生が20.0%であるのに対し、大学4年生が29.6%で他の学年より高い値を示している。男女間の比較では、大学2年生では女子が11.5%、男子が25.0%で、男子の方がはるかに高い値を示しているが、大学3年生では女子・男子とも20.0%で差がなく、大学4年生では女子が35.7%、男子が23.1%で、女子がはるかに高い値を示している。男子が全学年を通してそれほど大きく値が変わらないのに対して、女子は学年とともに値が高くなっている。自分が消極的であることを理由としてアドバイザーと話さない学生は大学4年生女子に多いことがわかる。

(3)については、学年間の比較では大学2年生が14.8%、大学3年生が16.0%、大学4年生が14.8%で、学年間の差は小さく、2011年度と同様にいずれの学年も10%台半ばである。男女間の比較では、大学2年生では女子15.4%、男子14.3%で、ほとんど差がないが、大学3年生では女子10.0%、男子20.0%、大学4年生では女子7.1%、男子23.1%で、大きな差があり、女子の値が学年とともに低くなるのに対し、男子の値は学年とともに高くなっている。2011年度でも、全学年で女子よりも男子の値が高く、大学3年生、大学4年生では女子が10%未

満であるのに対して男子は20%を超えており、大きな差があった。アドバイザーが相談の
 ってくれそうにないことを理由としてアドバイザーと話さない学生は、大学3年生と大学4
 年生の男子に多いことがわかる。

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
1 話したいと思うが機会がない	27.1%	22.7%	37.0%	26.6%	27.5%	26.6%	16.7%	30.9%	37.3%	28.1%	28.0%
2 自分が消極的なため機会はあるが話すことができない	20.8%	15.5%	13.0%	18.0%	20.0%	26.6%	24.2%	14.9%	19.0%	23.5%	20.3%
3 話したいと思うがアドバイザーが相談のってくれそうにない	6.3%	6.2%	5.4%	7.9%	6.3%	6.3%	19.7%	14.9%	18.3%	13.0%	16.1%
4 特に話す必要がない	45.8%	55.7%	44.6%	47.5%	46.3%	40.6%	39.4%	39.4%	25.4%	29.5%	35.6%

	2012全体	全体女子	全体男子	2年全体	2年女子	2年男子	3年全体	3年女子	3年男子	4年全体	4年女子	4年男子
1 話したいと思うが機会がない	28.0%	29.6%	27.0%	22.2%	23.1%	21.4%	36.0%	50.0%	26.7%	22.2%	14.3%	30.8%
2 自分が消極的なため機会はあるが話すことができない	20.3%	20.4%	20.6%	18.5%	11.5%	25.0%	20.0%	20.0%	20.0%	29.6%	35.7%	23.1%
3 話したいと思うがアドバイザーが相談のってくれそうにない	16.1%	11.1%	20.6%	14.8%	15.4%	14.3%	16.0%	10.0%	20.0%	14.8%	7.1%	23.1%
4 特に話す必要がない	35.6%	38.9%	31.7%	44.4%	50.0%	39.3%	28.0%	20.0%	33.3%	33.3%	42.9%	23.1%
回答数	118	54	63	54	26	28	25	10	15	27	14	13

D. 喫煙について(17, 18)

「あなたはたばこを吸いますか？（設問17）」では、「1)はい」が19.4%、「2)いいえ」が80.6%で、喫煙者は5人に1人の割合であることがわかる。喫煙者の割合は2006年度以降は年度ごとに低くなる傾向があり、2011年度は喫煙者の割合が2006年度以降でもっとも低い16.7%になったが、2012年度では、再びやや高くなっている。

学年・男女別の回答内訳では、全学年で女子よりも男子で喫煙者の割合が高い。女子では大学2年生が8.8%程度、大学3年生が15.4%、大学4年生が6.8%であり、大学3年生で喫煙者の割合が高い。男子では大学2年生が28.6%、大学3年生が34.6%、大学4年生が47.8%で、大学4年生の喫煙者の割合が他の学年よりも際立って高い。2011年度調査でも、大学2年生が23.4%、大学4年生が18.6%であったのに対し、大学3年生が44.7%であったので、2012年度の大学4年生男子のグループには喫煙者が多いようである。大学2年生全体については、2011年度の13.4%よりも値が高くなっており、4月の調査の時点では大半が20歳未満であると思われるにもかかわらず、16.9%、6人に1人（男子では28.6%、4人に1人以上）がすでに喫煙を始めていることは注意すべき問題である。

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
1 はい	28.4%	23.7%	26.8%	20.7%	28.6%	23.8%	20.2%	19.2%	18.5%	16.7%	19.4%
2 いいえ	71.6%	76.3%	72.9%	79.3%	70.8%	76.2%	79.8%	80.8%	81.5%	83.3%	80.6%

	2012全体	全体女子	全体男子	2年全体	2年女子	2年男子	3年全体	3年女子	3年男子	4年全体	4年女子	4年男子
1 はい	19.4%	9.8%	33.3%	16.9%	8.8%	28.6%	24.5%	15.4%	34.6%	20.9%	6.8%	47.8%
2 いいえ	80.6%	90.2%	66.7%	83.1%	91.2%	71.4%	75.5%	84.6%	65.4%	79.1%	93.2%	52.2%
回答数	248	143	102	118	68	49	53	26	26	67	44	23

「本学の喫煙場所についてどう思いますか？（設問 18）」では、「1)このままでいいと思う」が 48.8%、「2)全館禁煙にすべきだと思う」が 30.6%であった。2011 年度と同様に 30%以上の学生が現在の分煙では不十分と感じている。全館禁煙を希望する学生の割合は年度ごとに高くなる傾向があり、2011 年度はこれまででもっとも高い値の 35.9%を示したが、2012 年度はやや値が低くなっている。

学年・男女別の回答内訳では、大学 2 年生の 28.7%、大学 3 年生の 40.7%、大学 4 年生の 29.0%が全館禁煙を望んでおり、全体では女子の方が男子より全館禁煙を希望する割合が高くなっている。大学 3 年生では女子 44.0%、男子 40.7%で女子と男子の差は小さいが、大学 2 年生では女子 35.8%、男子 17.0%、大学 4 年生では女子 38.6%、男子が 12.0%で、女子の方が男子よりも全館禁煙を望んでいる。設問 17 の回答に見られるように、大学 4 年生男子には喫煙者が多いことが、大学 4 年生男子の (2) の値が他のグループより際立って低い理由であると推測される。

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
1 このままでいいと思う	63.9%	62.3%	61.6%	57.8%	61.2%	56.7%	54.4%	50.7%	50.8%	45.7%	48.8%
2 全館禁煙にすべきだと思う	13.5%	16.6%	19.5%	23.7%	22.1%	25.1%	27.6%	29.4%	31.3%	35.9%	30.6%
3 よくわからない	22.6%	20.6%	18.9%	18.5%	16.7%	18.2%	18.0%	19.9%	17.9%	18.4%	20.6%

	2012全体	全体女子	全体男子	2年全体	2年女子	2年男子	3年全体	3年女子	3年男子	4年全体	4年女子	4年男子
1 このままでいいと思う	48.8%	45.1%	54.7%	50.4%	43.3%	61.7%	44.4%	44.0%	44.4%	49.3%	45.5%	56.0%
2 全館禁煙にすべきだと思う	30.6%	36.6%	21.7%	28.7%	35.8%	17.0%	40.7%	44.0%	40.7%	29.0%	38.6%	12.0%
3 よくわからない	20.6%	18.3%	23.6%	20.9%	20.9%	21.3%	14.8%	12.0%	14.8%	21.7%	15.9%	32.0%
回答数	252	142	106	115	67	47	54	25	27	69	44	25

E. 通学に関して(19~21)

「通学時間はどのくらいですか？（設問 19）」では、「2) 15 分以内」が 37.5%でもっとも高く、次いで「3) 30 分以内」が 29.2%、「4) 約 1 時間」が 17.0%、「5) 1 時間以上」が 8.3%、「1) 5 分以内」が 7.9%になっている。「4) 約 1 時間」、「5) 1 時間以上」は合わせて 25.3%であった。(2) と (3) の値は例年とほぼ同様の値であるが、(1) が 2011 年度の 10.5%からやや低くなり、これまででもっとも低い値になっている一方で、(4) と (5) は 2011 年度のそれぞれ 10.5%と 6.3%から高くなっている。特に(4)は大幅に高くなり、これまででもっとも高い値になっている。

学年・男女別の回答内訳では、(2)については、学年間の比較では大学 2 年生が 38.5%、大学 3 年生が 38.2%であるのに対して、大学 4 年生では 32.8%で大学 4 年生が低い値を示している。男女間の比較では、大学 2 年生では女子 44.1%、男子 31.3%、大学 3 年生では女子 50.0%、男子 25.9%、大学 4 年生では女子 39.5%、男子 20.8%で、全学年で女子の方が男子よりもはるかに高い値を示している。

(3)については、学年間の比較では大学 2 年生が 27.4%、大学 3 年生が 30.9%、大学 4 年生が 31.3%で、全学年が 30%前後の値である。男女間の比較では、大学 2 年生女子 19.1%、男子

39.6%、大学3年生女子19.2%、男子44.4%、大学4年生女子23.3%、男子45.8%で、全学年で女子が20%前後であるのに対し、男子は40%を超えており、男子の方が高い値を示している。女子では大学2年生、大学3年生に比べて大学4年生の値がやや高くなっている。大学2年生、大学3年生は履修する授業科目が多いので、通学のため大学近辺に住んでいるが、大学4年生は、履修する授業科目が少なくなるため、大学から離れているけれども生活上利便性の良い場所でアパートを借りているものと思われる。

(4)、(5)については、学年間の比較では、(4)と(5)の合計を見ると大学2年生26.5%、大学3年生25.5%、大学4年生23.8%で、全学年20%台であり、2011年度の全学年10%台であった値とは大きく異なっている。特に(4)の値が2011年度と比べてすべての学年で高くなっている。男女間の比較では、(4)と(5)の合計は、大学2年生女子26.4%、男子25.0%、大学3年生女子23.1%、男子29.6%、大学4年生女子21.0%、男子29.2%で、大学3年生、大学4年生で女子よりも男子の方が高い値を示している。(4)だけを見ると、大学2年生女子17.6%、男子14.6%、大学3年生女子15.4%、男子25.9%、大学4年生女子7.0%、男子25.0%で、女子は大学2年生、大学3年生よりも大学4年生の値が低く、男子は大学2年生よりも大学3年生、大学4年生の値が高い。(5)だけを見ると、大学2年生女子8.8%、男子10.4%、大学3年生女子7.7%、男子3.7%、大学4年生女子14.0%、男子4.2%で、女子は大学2年生、大学3年生よりも大学4年生の値が高く、男子は大学2年生が大学3年生、大学4年生よりも値が高い。女子では、大学4年生では(4)が減り(5)が増えるようであるが、これは授業科目の履修をほぼ終えて、出席しなくてはならない日数が少なくなるために長崎を離れて保護者宅から通学するようになる学生が増えるためではないかと思われる。男子では、女子とは逆に、大学3年生と大学4年生で(4)が増え、(5)が減るようであるが、これは比較的遠方から自宅通学していた学生が長崎市内にアパートを借りるようになるほかに、バス通学をしていた者がバイク通学をするようになることや、単に2011年度入学者は2010年度、2009年度入学者に比べて遠方から自宅通学をしている者が多いなど、いくつかの可能性が考えられる。

(1)についてはアンペロス寮生の回答が多いと思われるが、大学2年生、大学4年生では男子学生でも(1)を回答した者があり、元村、横尾周辺に居住している学生の他、道ノ尾や横道周辺からバイクで通学する男子学生の回答も含まれているものと思われる。

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
1 5分以内	17.8%	13.8%	13.1%	17.4%	11.0%	15.5%	9.8%	15.5%	11.2%	10.5%	7.9%
2 15分以内	47.4%	39.0%	41.3%	35.9%	36.8%	33.9%	42.6%	39.4%	40.8%	38.1%	37.5%
3 30分以内	20.0%	26.0%	30.8%	29.1%	30.8%	31.1%	26.8%	27.6%	29.6%	34.5%	29.2%
4 約1時間	9.6%	12.6%	10.5%	11.7%	14.5%	11.2%	11.3%	9.8%	11.5%	10.5%	17.0%
5 1時間以上	5.2%	8.5%	4.3%	6.0%	6.9%	8.4%	9.4%	7.7%	6.9%	6.3%	8.3%

	2012全体	全体女子	全体男子	2年全体	2年女子	2年男子	3年全体	3年女子	3年男子	4年全体	4年女子	4年男子
1 5分以内	7.9%	11.2%	2.8%	7.7%	10.3%	4.2%	5.5%	7.7%	0.0%	11.9%	16.3%	4.2%
2 15分以内	37.5%	44.8%	28.3%	38.5%	44.1%	31.3%	38.2%	50.0%	25.9%	32.8%	39.5%	20.8%
3 30分以内	29.2%	21.0%	41.5%	27.4%	19.1%	39.6%	30.9%	19.2%	44.4%	31.3%	23.3%	45.8%
4 約1時間	17.0%	13.3%	20.8%	17.1%	17.6%	14.6%	20.0%	15.4%	25.9%	13.4%	7.0%	25.0%
5 1時間以上	8.3%	9.8%	6.6%	9.4%	8.8%	10.4%	5.5%	7.7%	3.7%	10.4%	14.0%	4.2%

回答数	253	143	106	117	68	48	55	26	27	67	43	24
-----	-----	-----	-----	-----	----	----	----	----	----	----	----	----

「通学手段は次のうちどれですか？（設問 20）」では、「2)バス」が 40.4%でもっとも高く、次いで「1)徒歩」が 28.6%、「6)バイク」が 9.8%になっている。2002 年度、2003 年度では(1)がもっとも高かったが、2004 年度からは 30%前後で推移している。(2)も例年 30%程度であったが、2010 年度は 40%を超え、2011 年度もほぼ同様の値で、2012 年度は 2010 年度の値をわずかに超えて、これまででもっとも高い値になっている。(6)は 2005 年度、2006 年度では 20%を超えていたが、2008 年度、2009 年度では 10%台半ばまで下がり、2010 年度ではこれまででもっとも低い値 7.7%になった。2011 年度では 2010 年度よりもやや値が高くなったが 2012 年度では再び低くなり、2010 年度に次いでこれまでで 2 番目に低い値になっている。

学年・男女別の回答内訳では、(2)については、大学 2 年生が 46.6%、大学 3 年生が 40.7%、大学 4 年生が 30.4%で学年進行とともに値が低くなっている。女子では大学 2 年生が 47.1%、大学 3 年生が 34.6%、大学 4 年生が 31.8%で、大学 2 年生の値が大学 3 年生、大学 4 年生よりも高くなっている。男子では大学 2 年生が 44.9%、大学 3 年生が 42.3%、大学 4 年生が 28.0%で、大学 2 年生、大学 3 年生よりも大学 4 年生の値が低くなっている。女子では大学 2 年生の半数近く、大学 3 年生、大学 4 年生の 3 割あまりがバス通学をしており、男子では大学 2 年生、大学 3 年生の 4 割あまり、大学 4 年生の 3 割近くがバスで通学していることがわかる。

(1)については、大学 2 年生が 27.1%、大学 3 年生が 16.7%、大学 4 年生が 40.6%で、大学 3 年生の値が低く、大学 4 年生の値が高い。女子では大学 2 年生が 38.2%、大学 3 年生が 34.6%、大学 4 年生が 47.7%で、大学 4 年生の値が高く、女子全体の 41.0%が徒歩通学をしている。男子では大学 2 年生が 12.2%、大学 3 年生が 0.0%、大学 4 年生が 28.0%で、大学 3 年生の値が低く、大学 4 年生の値が高く、全体の 13.1%が徒歩通学をしている。徒歩で通学する学生は多くがアンペロス寮の女子学生であると思われ、おそらくは大学 4 年生では寮を退寮してアパートを借りる学生が増えるため、例年は大学 4 年生の女子で値が低くなる傾向があったが、2012 年度では大学 2 年生、大学 3 年生よりも大学 4 年生の値が高かった。男子でも大学 4 年生が例年よりはるかに高い値を示している。女子では寮を退寮してアパートを借りる学生が例年よりも少なく、男子では横尾、元村、打坂、道ノ尾付近の徒歩通学圏内にアパートを借りている学生が例年よりも多いのではないと思われる。

(6)については、大学 2 年生が 7.6%、大学 3 年生が 18.5%、大学 4 年生が 8.7%で、大学 3 年生の値が他の学年よりも高くなっている。女子では大学 2 年生が 1.5%、大学 3 年生が 11.5%、大学 4 年生が 2.3%で、大学 3 年生の値が高い。男子でも大学 2 年生が 16.3%、大学 3 年生が 26.9%、大学 4 年生が 20.0%であり、大学 3 年生の値が高い。すべての学年で女子よりも男子の値が高い。2011 年度では、大学 4 年生の男子の 4 割程がバイクで通学していたが、2012 年度では大幅に低くなって 20.0%になっている。

設問 20. 通学手段は次のうちどれですか？

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
1 徒歩	53.0%	41.5%	31.6%	30.2%	28.9%	30.8%	29.6%	28.8%	33.2%	29.0%	28.6%
2 バス	25.4%	30.1%	34.9%	32.7%	29.9%	31.2%	34.6%	32.2%	40.3%	39.6%	40.4%
3 JRとバス	2.2%	2.4%	2.3%	1.9%	4.4%	5.2%	6.5%	6.4%	5.2%	4.2%	5.5%
4 電車とバス	2.2%	3.7%	2.3%	4.9%	6.3%	6.4%	5.0%	4.7%	4.0%	4.8%	4.3%
5 自家用車	3.7%	10.2%	12.8%	7.4%	6.0%	6.0%	7.3%	5.8%	6.2%	5.7%	9.4%
6 バイク	11.2%	10.2%	14.5%	21.2%	21.7%	18.8%	15.4%	16.9%	7.7%	11.8%	9.8%
7 自転車	2.2%	2.0%	1.6%	1.6%	2.2%	1.6%	1.5%	5.1%	3.4%	4.8%	2.0%

設問20. 通学手段は次のうちどれですか？													
	2012全体	全体女子	全体男子	2年全体	2年女子	2年男子	3年全体	3年女子	3年男子	4年全体	4年女子	4年男子	
1 徒歩	28.6%	41.0%	13.1%	27.1%	38.2%	12.2%	16.7%	34.6%	0.0%	40.6%	47.7%	28.0%	
2 バス	40.4%	39.6%	40.2%	46.6%	47.1%	44.9%	40.7%	34.6%	42.3%	30.4%	31.8%	28.0%	
3 JRとバス	5.5%	4.2%	7.5%	5.1%	1.5%	10.2%	3.7%	3.8%	3.8%	7.2%	9.1%	4.0%	
4 電車とバス	4.3%	4.9%	3.7%	3.4%	5.9%	0.0%	7.4%	7.7%	7.7%	2.9%	2.3%	4.0%	
5 自家用車	3.4%	6.3%	13.1%	7.6%	4.4%	12.2%	11.1%	7.7%	15.4%	10.1%	6.8%	16.0%	
6 バイク	9.8%	3.5%	18.7%	7.6%	1.5%	16.3%	18.5%	11.5%	26.9%	8.7%	2.3%	20.0%	
7 自転車	2.0%	0.7%	3.7%	2.5%	1.5%	4.1%	1.9%	0.0%	3.8%	0.0%	0.0%	0.0%	
回答数	255	144	107	118	68	49	54	26	26	69	44	25	

「自家用車、または、バイクで通学している人への質問です。自家用車やバイクで通学をする場合、学校から許可を受けなければいけません。あなたは、許可を受けていますか？（設問21）」では、「1)受けている」が34.9%、「2)知らなかったので受けていない」と「3)知っていたが、許可は受けていない」が同率で32.6%になっている。(1)については、年度間で値が10%ほど変化することがあるが、2006年度以降、2007年度以外は40%前後の比較的低い値で推移していた。2011年度ではさらに10%ほど低くなってこれまででもっとも低い値になり、2012年度では2011年度よりやや高くなったが30%台前半でこれまでで2番目に低い値である。(2)については2003年度以降、年度ごとに値が高くなり、2009年度には35.5%に達した。2010年度は少し低くなったが、2011年度には再び高くなり、それまででもっとも高い値の36.8%を示した。2012年度はやや低くなり32.6%になった。(3)については、2009年度、2010年度は22.6%の同率でこれまででもっとも低い値になっていたが、2011年度はかなり高くなって30%を超え、2012年度もほぼ同様の値になっている。許可を受けて自動車・バイク通学をしている学生が減り、無許可で自動車・バイク通学をしている学生が、許可制度を知っている者も、知らない者もともに増えている。

学年・男女別の回答内訳では、(1)については、大学2年生が44.1%、大学3年生が33.3%、大学4年生が25.0%で、本来学年進行とともに高くなってしかるべきである値が学年進行とともに低くなっている。もっとも割合が高い大学2年生でも自動車・バイク通学している者の半数に達せず、特に大学4年生では自動車・バイク通学者の1/4しか許可を受けていないことは問題である。しかし、これは最近の入学者ほど、規則を遵守する割合が次第に高くなっている結果であると解釈することもできる。女子では大学2年生が27.3%、大学3年生が33.3%、大学4年生は33.3%で、全学年でおよそ1/3しか許可を受けていない。男子では大学2年生が52.2%、大学3年生が33.3%、大学4年生が21.4%で、大学2年生が半数、大学3年生が1/3、大学4年生が1/5しか許可を受けていない。(2)については、大学2年生が20.6%、大学3年生が38.1%、大学4年生が40.0%で、学年進行とともに値が高くなっている。女子では、大学2年生が45.5%、大学3年生が33.3%、大学4年生が50.0%で、大学2年生と大学4年生の自動車・バイク通学者の半数、大学3年生の自動車・バイク通学者の1/3が規則を知らなかったと回答している。男子では、大学2年生が8.7%、大学3年生が40.0%、大学4年生が35.7%で、大学2年生の自動車・バイク通学者には規則を知らなかった者は少ないが、大学3年生と大学4年生の自動車・バイク通学者の2/5から1/3あまりが規則を知らなかったと回答している。大学2年生が規則を知らなかったと答えるのは、入学時のオリエンテーション時の注意を聞き逃し、気付かずにいたのであろうと思われるが、毎年、意識調査でこ

の質問に回答しているのであれば、大学3年生、4年生は規則を知っていてしかるべきであり、大学3年生で女子33.3%、男子40.0%、大学4年生でも女子50.0%、男子35.7%が知らなかったと答えているのは妙である。無許可で自家用車・バイクを通学に使用している学生は、自家用車・バイクでの通学の許可を受ける規則についてほとんど注意を払っていないことが推測できる。(3)については大学2年生が35.3%、大学3年生が28.6%、大学4年生が35.0%で、全学年で自家用車・バイク通学者の3割前後が規則を知っているのに許可を受けようとしていない。女子では大学2年生が27.3%、大学3年生が33.3%、大学4年生が16.7%で、大学2年生と大学3年生の自家用車・バイク通学者の3割程度、大学4年生では自家用車・バイク通学者の1/6が規則を知っていながら許可を受けていない。男子では大学2年生が39.1%、大学3年生が26.7%、大学4年生が42.1%で、大学2年生と大学4年生の自家用車・バイク通学者の4割、大学3年生の自家用車・バイク通学者の1/4あまりが規則を知っていながら許可を受けていない。

設問21. 自家用車、または、バイクで通学している人への質問です。自家用車やバイクで通学をする場合、学校から許可を受けなければいけません。あなたは、許可を受けていますか？

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
1 受けている	45.0%	58.5%	45.1%	53.8%	40.6%	49.4%	40.3%	41.9%	43.4%	32.5%	34.9%
2 知らなかったので受けていない	25.0%	5.7%	12.1%	15.4%	21.9%	23.5%	28.6%	35.5%	34.0%	36.8%	32.6%
3 知っていたが、許可は受けていない	30.0%	35.8%	42.9%	30.8%	37.5%	27.2%	31.2%	22.6%	22.6%	30.7%	32.6%

設問21. 自家用車、または、バイクで通学している人への質問です。自家用車やバイクで通学をする場合、学校から許可を受けなければいけません。あなたは、許可を受けていますか？

	2012全体	全体女子	全体男子	2年全体	2年女子	2年男子	3年全体	3年女子	3年男子	4年全体	4年女子	4年男子
1 受けている	34.9%	33.3%	35.6%	44.1%	27.3%	52.2%	33.3%	33.3%	33.3%	25.0%	33.3%	21.4%
2 知らなかったので受けていない	32.6%	40.7%	28.8%	20.6%	45.5%	8.7%	38.1%	33.3%	40.0%	40.0%	50.0%	35.7%
3 知っていたが、許可は受けていない	32.6%	25.9%	35.6%	35.3%	27.3%	39.1%	28.6%	33.3%	26.7%	35.0%	16.7%	42.9%
回答数	86	27	59	34	11	23	21	6	15	20	6	14

F. 自由時間の過ごし方(22)

「勉強をしていない時は、自由時間をどのように過ごしていますか？（設問22）」では、「4）友達とおしゃべりをしたり、外出したりしている」が25.3%でもっとも高く、次いで「7）アルバイトをしている」が24.5%、「2）テレビをみる」が16.5%になっている。(4)、(7)、(2)は例年上位の3つの回答であるが、(4)についてはこれまででもっとも高い値を示した2010年度より低く、2011年度および例年とほぼ同様の値、(7)についてはほぼ例年と同様の値、(2)については2011年度の13.7%から高くなり、2007年度以前の15%台から17%台の値と同様の比較的高い値になっている。

学年・男女別の回答内訳では、(4)については、女子と男子の間で大きな差が見られ、女子では大学2年生が28.8%、大学3年生が30.8%、大学4年生が32.6%であるのに対し、男子では大学2年生が14.9%、大学3年生が23.1%、大学4年生が20.0%で、女子の値が男子よりも高い。女子はすべての学年で3割前後であるのに対し、男子は学年とともにやや値が上がるが、もっとも高い値を示した大学4年生でも20.0%である。友人との会話を楽しむという余暇の過ごし方は女子学生に顕著な行動様式であると言える。

(7)については、全体では女子と男子の間の差はそれほど大きくないが、学年によって男女間に差が見られる。女子では大学2年生が24.2%、大学3年生が42.3%、大学4年生が25.6%で、大学3年生の値が高く、大学2年生と大学4年生の1/4、大学3年生の2/5がアルバイトをしている。男子では、大学2年生が17.0%、大学3年生が19.2%、大学4年生が32.0%で、大学4年生の値が高く、大学2年生と大学3年生では1/6から1/5程度、大学4年生では1/3程度がアルバイトをしている。大学2年生と大学3年生では女子の方が男子より値が高いが、大学4年生では女子よりも男子の方が値が高い。大学4年生男子で値が高くなるのは、科目履修や就職活動をほぼ終えて自由な時間が増えるためにアルバイトをする学生が増えるものと考えられるが、大学3年生女子にアルバイトをする学生が多いのは自由時間が多いからではなく、経済的な必要性によるものではないかと思われる。大学2年生、大学4年生では、男子は(7)の方が(4)よりも高い値を示し、女子は(4)の方が(7)よりも高い値を示しているので、アルバイトに自由時間を費やすのは男子学生に見られる傾向がある行動様式であると思われるが、大学3年生では逆転して、女子は(7)が(4)を上回り、男子は(4)が(7)を上回っており、大学3年生は他の学年とは傾向が異なるようである。

(2)については、学年によっては女子と男子の間に大きな差が見られる。女子では大学2年生が16.7%、大学3年生が3.8%、大学4年生が9.3%で、学年間に大きな差があり、大学2年生が高く、大学3年生が低い。男子では大学2年生が17.0%、大学3年生が19.2%、大学4年生が24.0%で、大学2年生、大学3年生よりは大学4年生の値が高いが、学年間の差はそれほど大きくない。大学2年生では男女間の差はわずかであるが、大学3年生と大学4年生では、女子よりも男子の値ははるかに高い。

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
1 なにもせず、ただボーッと過ごしている	5.3%	6.9%	6.2%	3.3%	4.4%	6.4%	8.7%	6.5%	8.4%	8.2%	3.2%
2 テレビをみる	15.9%	17.6%	17.4%	17.3%	15.6%	17.7%	12.3%	12.7%	12.1%	13.7%	16.5%
3 スポーツ	9.8%	5.7%	4.3%	3.6%	5.1%	4.0%	3.6%	5.8%	5.0%	5.2%	6.0%
4 友達とおしゃべりをしたり、外出したりしている	27.3%	29.0%	24.3%	27.2%	26.3%	29.3%	28.6%	27.1%	32.0%	26.4%	25.3%
5 授業に関係のない本を読む	2.3%	3.7%	7.2%	8.2%	4.8%	4.4%	5.6%	5.2%	5.9%	5.2%	4.0%
6 寝ている	6.8%	4.9%	4.6%	3.0%	4.4%	2.8%	2.8%	5.2%	3.1%	5.5%	6.8%
7 アルバイトをしている	22.7%	22.4%	26.2%	25.0%	22.9%	25.3%	22.6%	25.1%	24.2%	23.4%	24.5%
8 デートをしている	1.5%	1.2%	1.6%	1.6%	2.9%	3.2%	3.6%	1.0%	1.2%	2.1%	1.6%
9 その他	8.3%	8.6%	8.2%	10.7%	13.7%	6.8%	12.3%	11.3%	8.1%	10.3%	12.0%

	2012全体	全体女子	全体男子	2年全体	2年女子	2年男子	3年全体	3年女子	3年男子	4年全体	4年女子	4年男子
1 なにもせず、ただボーッと過ごしている	3.2%	2.8%	3.8%	2.7%	4.5%	0.0%	3.7%	0.0%	7.7%	2.9%	2.3%	4.0%
2 テレビをみる	16.5%	12.1%	21.9%	16.8%	16.7%	17.0%	13.0%	3.8%	19.2%	14.7%	9.3%	24.0%
3 スポーツ	6.0%	2.1%	9.5%	8.0%	4.5%	12.8%	5.6%	0.0%	7.7%	1.5%	0.0%	4.0%
4 友達とおしゃべりをしたり、外出したりしている	25.3%	31.9%	17.1%	23.0%	28.8%	14.9%	25.9%	30.8%	23.1%	27.9%	32.6%	20.0%
5 授業に関係のない本を読む	4.0%	5.7%	1.9%	2.7%	1.5%	4.3%	1.9%	3.8%	0.0%	8.8%	14.0%	0.0%
6 寝ている	6.8%	7.1%	6.7%	9.7%	3.1%	10.6%	5.6%	7.7%	3.8%	4.4%	4.7%	4.0%
7 アルバイトをしている	24.5%	27.7%	21.0%	21.2%	24.2%	17.0%	29.6%	42.3%	19.2%	27.9%	25.6%	32.0%
8 デートをしている	1.6%	0.7%	2.9%	2.7%	1.5%	4.3%	1.9%	0.0%	3.8%	0.0%	0.0%	0.0%
9 その他	12.0%	9.9%	15.2%	13.3%	9.1%	19.1%	13.0%	11.5%	15.4%	11.8%	11.6%	12.0%

回答数	249	141	105	113	66	47	54	26	26	68	43	25
-----	-----	-----	-----	-----	----	----	----	----	----	----	----	----

G. アルバイトについて(23～27)

「アルバイトをしていますか？（設問 23）」では、「1)はい」が62.4%、「2)いいえ」が37.6%であり、6割以上の学生がアルバイトを行っている。アルバイトを行っている学生の割合は2011年度の55.5%から高くなっており、2004年度の62.8%に次いでこれまでで2番目に高い値になっている。

学年・男女別の回答内訳では、アルバイトを行っている学生の割合は大学2年生が61.1%、大学3年生70.6%、大学4年生が60.3%で、全学年で60%以上であり、3年生では70%を越えている。男女間では学年により値に差があり、大学2年生では女子よりも男子の方が10%近く高い値を示しているが、大学3年生では、設問22の回答にも現れているように、女子の方が男子よりも10%以上高い値を示している。大学4年生では男女間の差はほとんどない。

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
1 はい	59.5%	54.5%	62.8%	56.8%	52.4%	57.7%	57.5%	60.4%	55.0%	55.5%	62.4%
2 いいえ	40.5%	45.5%	37.2%	43.2%	47.6%	42.3%	42.5%	39.6%	45.0%	44.5%	37.6%

	2012全体	全体女子	全体男子	2年全体	2年女子	2年男子	3年全体	3年女子	3年男子	4年全体	4年女子	4年男子
1 はい	62.4%	61.8%	64.9%	61.1%	56.9%	66.0%	70.6%	79.2%	68.0%	60.3%	59.5%	61.9%
2 いいえ	37.6%	38.2%	35.1%	38.9%	43.1%	34.0%	29.4%	20.8%	32.0%	39.7%	40.5%	38.1%
回答数	237	136	97	113	65	47	51	24	25	63	42	21

「週にどのくらいアルバイトをしていますか？（設問 24）」では、「2)週に3、4日授業が終わって」が56.9%でもっとも高く、次いで「3)週末のみ」が23.6%、「1)毎日授業が終わって」が9.8%、「5)夜間のみ3、4日」と「6)夜間のみ1、2日」が同率で3.4%、「4)夜間のみ毎日」が2.9%になっている。(2)については年度間で10%以上の変化が見られることもあるが、2009年度、2010年度の50%台から2011年度にはこれまででもっとも低い40%台半ばまで低くなった。しかし、2012年度再び50%台半ばまで高くなっている。(3)は2009年度、2010年度の20%台前半から2011年度にはこれまででもっとも高い30%を超える値まで高くなったが、2012年度では再び20%台前半まで低くなっている。(1)については例年の7%～9%に比べて2011年度はやや高くなり、これまででもっとも高い12.3%の値を示した。しかし、2012年度はこれまでで2番目に高い値ではあるが、10%未満まで低くなっている。(5)については2009年度、2010年度の7%～9%から2011年度はそれまででもっとも低かった4.6%まで下がった。2012年度はさらに低くなり、3.4%になり、これまででもっとも低い値になっている。(6)および(4)はほぼ例年同様の値である。2011年度よりも週末のみアルバイトをする学生、毎日授業後アルバイトをする学生が減っている一方で、週3、4日授業後の夕方にアルバイトをする学生は増加している。学生の多くはアルバイトを週末と夕方に行っているが、夜間のアルバイトを行っている学生もあり、例年(4)、(5)、(6)の合計は10%前後から10%台半ばを示している。2012年度では2011年度の11.0%より多少低くなって9.7%であった。（実際には「授業が終わって」あるいは「週末」とされている回答にも深夜アルバイトが含まれてい

る可能性がある。設問 25 の分析参照。) また、「4) 夜間のみ毎日」の回答が 2010 年度の 0.5% から 2011 年度は 2.7% になり、2012 年度も 2.9% で、夜間アルバイトを恒常的に行う学生が増えていることは注意をしなければならぬ。経済的理由でやむを得ずアルバイトを行っている学生が多いと思われるが、夜間アルバイトは学業に影響を与える恐れがあるので、大学 1 年生の学生支援部オリエンテーションでは夜間アルバイトを行わないように指導している。大学 2 年生以上についても学年別オリエンテーションで繰り返し指導して、深夜アルバイトを行う学生を減らしていくべきである。

学年・男女別の回答内訳では、(2) については、大学 2 年生が 50.6%、大学 3 年生が 62.5%、大学 4 年生が 59.1% で大学 2 年生よりも大学 3 年生、大学 4 年生の値が高い。女子では大学 2 年生が 47.6%、大学 3 年生が 71.4%、大学 4 年生が 66.7% で、大学 3 年生と大学 4 年生の値が高いが、男子では、大学 2 年生が 52.8%、大学 3 年生が 50.0%、大学 4 年生が 47.1% で、全学年が 50% 前後である。大学 3 年生と大学 4 年生では女子の方が男子よりも値が高くなっている。(3) については、大学 2 年生が 27.8%、大学 3 年生が 10.0%、大学 4 年生が 27.3% で、大学 3 年生の値が他の学年よりも低い。女子では大学 2 年生が 33.3%、大学 3 年生が 4.8%、大学 4 年生が 29.6% で、大学 3 年生の値が低くなっている。男子では、大学 2 年生が 22.2%、大学 3 年生が 16.7%、大学 4 年生が 23.5% で、大学 3 年生の値が他の学年よりもやや低いものの、学年間の差は小さい。(1) については、大学 2 年生が 8.9%、大学 3 年生が 15.0%、大学 4 年生が 9.1% で、大学 3 年生が他の学年よりもやや高い値を示している。女子では、大学 2 年生が 7.1%、大学 3 年生が 14.3%、大学 4 年生が 0.0% で、大学 3 年生の値が高い。男子では、大学 2 年生が 11.1%、大学 3 年生が 16.7%、大学 4 年生が 23.5% で、大学 4 年生の値が高い。すべての学年で女子よりも男子の方が高い値を示しており、特に大学 4 年生では大きな差がある。(5) については、大学 2 年生が 3.8%、大学 3 年生が 5.0%、大学 4 年生が 2.3% で、学年間では大きな差はない。女子では、大学 2 年生が 4.8%、大学 3 年生が 4.8%、大学 4 年生 0.0% で大学 2 年生、大学 3 年生の値が大学 4 年生より高い。男子では、大学 2 年生が 2.8%、大学 3 年生が 5.6%、大学 4 年生 5.9% で、大学 2 年生より大学 3 年生、大学 4 年生の値がやや高い。大学 2 年生では女子の方が男子よりもやや高い値を示しているが、大学 3 年生、大学 4 年生では女子よりも男子の方がやや高い値を示している。

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
1 毎日授業が終わって	7.6%	8.1%	7.9%	6.6%	8.8%	8.7%	9.4%	8.6%	8.7%	12.3%	9.8%
2 週に3、4日授業が終わって	62.0%	64.4%	57.1%	61.8%	59.5%	56.4%	63.5%	52.3%	55.8%	46.6%	56.9%
3 週末のみ	16.5%	18.5%	17.8%	17.9%	22.9%	17.4%	17.6%	22.8%	24.0%	30.1%	23.6%
4 夜間のみ毎日	2.5%	0.0%	2.1%	3.3%	1.8%	2.7%	1.3%	1.5%	0.5%	2.7%	2.9%
5 夜間のみ3、4日	7.6%	5.2%	10.5%	7.1%	7.6%	8.1%	5.0%	8.6%	7.7%	4.6%	3.4%
6 夜間のみ1、2日	3.8%	3.7%	4.7%	3.3%	5.3%	6.7%	3.1%	6.1%	3.4%	3.7%	3.4%

	2012全体	全体女子	全体男子	2年全体	2年女子	2年男子	3年全体	3年女子	3年男子	4年全体	4年女子	4年男子
1 毎日授業が終わって	9.8%	6.3%	14.3%	8.9%	7.1%	11.1%	15.0%	14.3%	16.7%	9.1%	0.0%	23.5%
2 週に3、4日授業が終わって	56.9%	60.0%	51.9%	50.6%	47.6%	52.8%	62.5%	71.4%	50.0%	59.1%	66.7%	47.1%
3 週末のみ	23.6%	25.3%	22.1%	27.8%	33.3%	22.2%	10.0%	4.8%	16.7%	27.3%	29.6%	23.5%
4 夜間のみ毎日	2.9%	3.2%	2.6%	3.8%	4.8%	2.8%	5.0%	4.8%	5.6%	0.0%	0.0%	0.0%
5 夜間のみ3、4日	3.4%	3.2%	3.9%	3.8%	4.8%	2.8%	5.0%	4.8%	5.6%	2.3%	0.0%	5.9%
6 夜間のみ1、2日	3.4%	2.1%	5.2%	5.1%	2.4%	8.3%	2.5%	0.0%	5.6%	2.3%	3.7%	0.0%
回答数	174	95	77	79	42	36	40	21	18	44	27	17

「現在あなたがしているアルバイトの職種は次のうちどれにあたりますか？（設問 25）」では、「2）ウエートレス、ウエーター」が 25.3%でもっとも高く、次いで「3）コンビニ、スーパーやデパートでの販売、レジ係り」が 22.4%、「4）その他の販売」が 16.7%、「9）夜間の飲食店（居酒屋、スナック等を含む）」が 16.1%、「1）ファーストフード店での販売」が 9.8%になっている。（2）、（3）は例年上位の 2 つの回答で、例年とほぼ同様の値を示している。（4）は 2004 年度以降は、2007 年度と 2008 年度以外は（9）より値が低かったが、2012 年では（9）より値が高くなり、2007 年度の 18.2%に次いで、2002 年度と同率でこれまでで 2 番目に高い値になっている。（9）は 2011 年度よりもやや高い値で、2009 年度の 19.4%、2004 年度と 2010 年度の 17.2%に次いで、これまでで 3 番目に高い値になっている。設問 24 の回答では（4）、（5）、（6）の合計が 9.7%であったが、設問 25 では（9）が 16.1%になっているので、設問 23 の回答（1）、（2）、（3）の中にも夜間アルバイトが含まれていることが推測される。

学年・男女別の回答内訳では、（2）については、大学 2 年生、大学 3 年生では女子の方が男子よりもはるかに値が高いが、大学 4 年生では男女間の差はほとんどない。女子では大学 2 年生が 46.5%、大学 3 年生が 33.3%、大学 4 年生が 18.5%、男子学生では大学 2 年生が 10.8%、大学 3 年生が 11.8%、大学 4 年生が 18.8%である。アルバイトをしている学生の 1/4 はウエートレス・ウエーターをしており、この職種には女子が多いことがわかる。（3）については、女子では大学 2 年生が 18.6%、大学 3 年生が 19.0%、大学 4 年生が 11.1%で、大学 2 年生、大学 3 年生の値が大学 4 年生よりも高い。男子では大学 2 年生が 27.0%、大学 3 年生が 35.3%、大学 4 年生が 31.3%で、全学年が 30%前後の値で学年間の差はそれほど大きくはない。アルバイトをしている学生の 1/5 以上が量販店・コンビニエンスストアの販売・レジ係をしており、この職種には男子が多いことがわかる。（4）については、女子では大学 2 年生が 9.3%、大学 3 年生が 14.3%、大学 4 年生が 33.3%で、大学 2 年生、大学 3 年生よりも大学 4 年生の値が高い。男子では大学 2 年生が 13.5%、大学 3 年生が 11.8%、大学 4 年生が 6.3%で、大学 2 年生、大学 3 年生の値が大学 4 年生よりも高い。この職種には大学 4 年生の女子が多い。（9）については、女子では大学 2 年生が 18.6%、大学 3 年生が 23.8%、大学 4 年生が 7.4%で、大学 2 年生、大学 3 年生の値が大学 4 年生よりも高い。男子では大学 2 年生が 27.0%、大学 3 年生が 11.8%、大学 4 年生が 6.3%で、大学 2 年生の値が大学 3 年生、大学 4 年生よりも高い。大学 2 年生では女子よりも男子の値が高く、大学 3 年生では女子の値が男子よりも高く、大学 4 年生では男女の差はわずかである。女子・男子ともに、大学 4 年生では値が低くなる傾向がある。厨房での皿洗い等の作業の他、給仕等の仕事をしているものと考えられる。この職種には、大学 2 年生の女子・男子、大学 3 年生の女子が多い。

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
1 ファーストフード店での販売	12.8%	9.2%	8.3%	5.9%	9.0%	10.8%	5.6%	8.4%	12.8%	12.6%	9.8%
2 ウエートレス、ウエーター	26.9%	22.9%	22.9%	26.2%	24.6%	20.9%	28.1%	24.1%	25.6%	24.2%	25.3%
3 コンビニ、スーパーやデパートでの販売、レジ係り	19.2%	24.4%	17.7%	25.7%	20.4%	22.3%	19.4%	27.2%	23.2%	23.3%	22.4%
4 その他の販売	16.7%	13.7%	14.6%	9.4%	10.8%	18.2%	15.6%	9.9%	11.3%	14.4%	16.7%
5 家庭教師又は塾の講師	6.4%	5.3%	10.9%	11.9%	6.0%	4.7%	5.6%	4.7%	3.0%	3.3%	2.9%
6 軽作業	5.1%	9.9%	8.3%	5.9%	10.8%	8.8%	6.9%	4.2%	5.4%	3.7%	4.6%
7 事務	1.3%	3.8%	0.0%	3.0%	3.0%	2.0%	3.1%	1.6%	0.5%	2.3%	2.3%
8 夜間のコンビニエンスストア	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.2%	0.0%	0.0%	0.5%	1.0%	0.5%	0.0%
9 夜間の飲食店（居酒屋、スナック等を含む）	11.5%	10.7%	17.2%	11.9%	14.4%	12.2%	15.6%	19.4%	17.2%	15.8%	16.1%

設問25. 現在あなたがしているアルバイトの職種は次のうちどれに当てはまりますか？													
	2012全体	全体女子	全体男子	2年全体	2年女子	2年男子	3年全体	3年女子	3年男子	4年全体	4年女子	4年男子	
1 ファーストフード店での販売	9.8%	6.3%	13.2%	8.6%	7.0%	10.8%	5.1%	0.0%	5.9%	18.6%	11.1%	31.3%	
2 ウェートレス、ウエーター	25.3%	34.4%	14.5%	29.6%	46.5%	10.8%	23.1%	33.3%	11.8%	18.6%	18.5%	18.8%	
3 コンビニ、スーパーやデパートでの販売、レジ係り	22.4%	16.7%	28.9%	23.5%	18.6%	27.0%	25.6%	19.0%	35.3%	18.6%	11.1%	31.3%	
4 その他の販売	16.7%	18.8%	14.5%	11.1%	9.3%	13.5%	12.8%	14.3%	11.8%	23.3%	33.3%	6.3%	
5 家庭教師又は塾の講師	2.9%	3.1%	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	5.1%	4.8%	5.9%	7.0%	7.4%	6.3%	
6 軽作業	4.6%	2.1%	7.9%	3.7%	0.0%	8.1%	7.7%	0.0%	17.6%	2.3%	3.7%	0.0%	
7 事務	2.3%	3.1%	1.3%	1.2%	0.0%	2.7%	2.6%	4.8%	0.0%	4.7%	7.4%	0.0%	
8 夜間のコンビニエンスストア	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
9 夜間の飲食店（居酒屋、スナック等を含む）	16.1%	15.6%	17.1%	22.2%	18.6%	27.0%	17.9%	23.8%	11.8%	7.0%	7.4%	6.3%	
回答数	174	96	76	81	43	37	39	21	17	43	27	16	

「アルバイトが原因で授業を休んだことがありますか？（設問 26）」では、「1）たびたびある」「2）時々ある」が合わせて 24.7%、「3）めったにない」、「4）一度もない」が合わせて 75.3%になっている。2010 年度では(1)、(2)の合計が 17.4%、(3)、(4)の合計が 82.5%であり、2011 年度には(1)、(2)の合計が 24.8%、(3)、(4)の合計が 75.3%になって、アルバイトを原因とした欠席が増えたが、2012 年度も 2011 年度とほぼ同じ値になっている。また、(1)と(2)、(3)と(4)の内訳を見ると、2011 年度に比べて(2)と(4)が減り、(1)と(3)が増えている。特に(4)は 10%以上減り、(3)がその分増えている。(1)はこれまででもっとも高い値になっており、逆に(4)はこれまででもっとも低い値になっている。2009 年度、2010 年度では、アルバイトがある程度授業出席に影響を与えている学生の割合が、設問 25 の(8)、(9)の回答率合計に近いことから、おそらくは夜間・深夜アルバイトが原因で午前中の授業を休んだ学生が、(1)または(2)を回答したのではないかと思われたが、2011 年度および 2012 年度の結果では設問 25 の(8)、(9)の回答率合計よりも設問 26 の(1)、(2)の合計の方が高い値を示しているため、夜間アルバイトのみがアルバイトによる授業欠席の理由ではないようである。(1)、(2)の回答の合計は年度ごとに高くなる傾向があり、2009 年度は 21.2%で、それまでもっとも高い値となったが、2011 年度はそれを超えて、これまででもっとも高い値の 24.8%になり、2012 年度もほぼ同率の 24.7%であり、かつ、2011 年度よりも(1)の値が高くなっている。逆に(3)、(4)の回答の合計は低くなる傾向があり、特に(4)については 2009 年度に 56.7%で、それまでもっとも低い値を示したが、2011 年度は 2009 年度に次いで 2 番目に低い値の 59.6%を示し、2012 年度ではさらに大きく下がって、これまででもっとも低い値の 49.5%になった。アルバイトが学生の授業出席に悪い影響を与える状況が次第に悪化しているようである。

学年・男女別の回答内訳では、(1)、(2)の合計については、女子では大学 2 年生が 22.2%、大学 3 年生が 13.6%、大学 4 年生が 17.8%で、大学 2 年生で値が高く、大学 3 年生で値が低い。ただし、学年間の比較においてはもっとも値が低い大学 3 年生でも 13.6%であり、低い値であるとはいえない。2010 年度では大学 2 年生女子が 12.7%、大学 3 年生女子が 9.5%、大学 4 年生女子が 3.4%であり、2011 年度では大学 2 年生女子が 21.2%、大学 3 年生女子が 21.3%、大学 4 年生女子が 15.4%であったので、大学 3 年生で 2011 年度の値より低くなったのを除いて、すべての学年で値が増加してきている。男子では、(1)、(2)の合計は大学 2 年生が 22.2%、大学 3 年生が 40.0%、大学 4 年生が 41.1%で、大学 3 年生と大学 4 年生で値が高い。2011 年度では、大学 2 年生男子が 28.2%、大学 3 年生男子が 37.5%、大学 4 年生男子が 31.3%であっ

たので、大学2年生の値はやや低くなっているが、大学3年生と大学4年生の値はより高くなっており、特に大学4年生は2011年度より10%近く高い値を示している。

大学2年生では女子と男子の値が同じであるが、大学3年生と大学4年生では女子よりも男子が高い値を示し、男子で値がもっとも低い大学2年生男子は、女子でもっとも値が高い大学2年生女子と同率である。(1)と(2)を別々に見ても、(1)では大学2年生女子の値が大学2年生男子よりわずかに高いのを除いては、女子よりも男子の値が高く、(2)でもすべての学年で女子よりも男子の値が高い。大学3年生男子と大学4年生男子では、アルバイトをしている学生の4割以上が、授業出席においてアルバイトの影響を受けており、大学4年生男子の5人に1人以上がたびたび授業を欠席している。

大学2年生については、女子および男子の2割にアルバイトによる出席への影響が出ているが、大学2年生の回答は、大学1年生のときの出席状況に基づいたものであるため、大学1年次から授業出席にアルバイトの影響が出ていることが窺える。女子学生、男子学生ともに、1年生のアドバイザーは夜間アルバイトを行っている学生の出席状況に注意を払い、適切な指導を行う必要がある。

設問26. アルバイトが原因で授業を休んだことがありますか？

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
1 たびたびある	4.6%	3.2%	4.2%	2.9%	4.2%	7.1%	6.2%	7.4%	6.4%	9.6%	10.4%
2 時々ある	9.2%	12.7%	13.6%	11.6%	12.5%	12.4%	10.1%	13.8%	11.0%	15.2%	14.3%
3 めったにない	16.1%	14.0%	20.1%	18.2%	17.3%	17.8%	18.0%	22.2%	18.3%	15.7%	25.8%
4 一度もない	70.1%	70.1%	62.1%	67.4%	66.1%	62.7%	65.7%	56.7%	64.2%	59.6%	49.5%

設問26. アルバイトが原因で授業を休んだことがありますか？

	2012全体	全体女子	全体男子	2年全体	2年女子	2年男子	3年全体	3年女子	3年男子	4年全体	4年女子	4年男子
1 たびたびある	10.4%	8.0%	13.8%	8.5%	8.9%	8.3%	9.3%	4.5%	15.0%	13.3%	7.1%	23.5%
2 時々ある	14.3%	11.0%	17.5%	13.4%	13.3%	13.9%	18.6%	9.1%	25.0%	13.3%	10.7%	17.6%
3 めったにない	25.8%	24.0%	28.8%	23.2%	20.0%	27.8%	23.3%	31.8%	15.0%	31.1%	25.0%	41.2%
4 一度もない	49.5%	57.0%	40.0%	54.9%	57.8%	50.0%	48.8%	54.5%	45.0%	42.2%	57.1%	17.6%
回答数	182	100	80	82	45	36	43	22	20	45	28	17

「なぜアルバイトをしているのですか？(設問27)」では、「1)生活費の補助にするため」が54.8%でもっとも高く、次いで「4)社会勉強のため」が13.6%、「2)欲しいものを買うため」が12.4%、「3)将来の夢のため」が10.2%になっている。(1)は2010年度の61.1%よりかなり低く2011年度の53.1%とほぼ同じ値で、2003年度以降の50%台の例年の値とほぼ同様である。(4)は2010年度は16.7%、2011年度は11.4%でやや低くなったが、2012年度も2011年度とほぼ同じ値であり、10%台前半から10%台半ばの値で変化していきながら例年の値と同様である。(2)は2005年以降、2007年度を除いて2010年度までは10%台前半で推移してきた。2011年度には20%台になり、これまででもっとも高い値になったが2012年度は10%台前半の値に戻った。(3)は2010年度の6.5%から2011年度はやや高い10.1%になったが、2012年度も2011年度とほぼ同じ値で、10%前後で推移してきている例年の値とほぼ同様の値である。

学年・男女別の回答内訳では、(1)については、学年間の比較では大学2年生が53.7%、大学3年生が64.1%、大学4年生が50.0%で、大学2年生、大学4年生よりも大学3年生の値が高い。男女間の比較では大学2年生では女子54.5%、男子54.1%で男女間の差はわずかであるが、大学3年生では女子76.2%、男子52.9%で女子の値が高く20%以上の差がある。大学4年

生では女子 42.9%、男子 62.5%で、女子よりも男子の方がほぼ 20%高い値を示している。女子・男子ともアルバイトをしている学生の半数以上は生活費のためにアルバイトをしているが、特に大学3年生女子と大学4年生男子に、生活費のためにアルバイトをしている学生が多い。

(4)については、学年間の比較では、大学2年生が 15.9%、大学3年生が 7.7%、大学4年生が 11.4%で、大学2年生の値が高く、大学3年生の値が低い。男女間の比較では、全体では女子が 13.3%、男子が 13.0%で大きな差がないが、学年によって男女間に大きな差がある。女子は大学2年生が 15.9%、大学3年生が 0.0%、大学4年生が 17.9%で、大学3年生が極端に低い値を示しているが、男子は大学2年生が 13.5%、大学3年生が 17.6%、大学4年生 0.0%で、大学4年生が極端に低い値を示している。大学3年生女子と大学4年生男子は(1)の回答率が高いグループであるので、これらのグループはキャリア形成を意識してアルバイトをする余裕がなく、生活費を稼ぐという実生活上の問題を解決するためにアルバイトをしている者が多いようである。

(2)については、学年間の比較では、大学2年生が 11.0%、大学3年生が 5.1%、大学4年生が 20.5%で、大学3年生の値が低く、大学4年生の値が高い。男女間の比較では、大学2年生では女子が 11.4%、男子が 10.8%で男女の差はわずかであるが、大学3年生では女子が 9.5%、男子が 0.0%、大学4年生では女子が 25.0%、男子が 12.5%で、女子の方が男子よりもはるかに大きな値を示している。欲しい物を買うためにアルバイトをする学生は大学4年生女子に多く、大学3年生男子には少ないことがわかる。

(3)については、学年間の比較では大学2年生が 6.1%、大学3年生が 12.8%、大学4年生が 15.9%で、学年進行とともに値が高くなっている。男女間の比較では、大学2年生では女子が 2.3%、男子が 10.8%、大学3年生では女子が 9.5%、男子が 11.8%、大学4年生では女子が 10.7%、男子が 25.0%で、大学3年生では男女間の差は小さいが、すべての学年で女子よりも男子の方が高い値を示している。回答者が何を「将来の夢」と考えているかはわからないが、キャリアゴールに関係した就業体験や、「将来の夢」のための出費に備えた貯蓄を目的としているのではないかと考えられる。

設問27. なぜアルバイトをしているのですか？

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
1 生活費の補助にすため	40.2%	55.2%	56.4%	56.5%	64.8%	57.5%	58.3%	52.7%	61.1%	53.1%	54.8%
2 欲しいものを買うため	25.6%	17.9%	19.1%	13.5%	11.5%	20.9%	13.5%	14.9%	12.0%	21.5%	12.4%
3 将来の夢のため	11.0%	12.4%	9.3%	9.0%	8.5%	6.5%	10.4%	10.0%	6.5%	10.1%	10.2%
4 社会勉強のため	15.9%	13.1%	10.3%	14.3%	11.5%	10.5%	13.5%	15.4%	16.7%	11.4%	13.6%
5 友達をっくるため	1.2%	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%	0.7%	0.0%	2.5%	0.0%	0.9%	0.6%
6 レジャーや旅行のため	2.4%	0.0%	1.5%	2.2%	1.2%	2.6%	1.8%	3.0%	0.9%	1.3%	6.2%
7 別に理由はない	3.7%	1.4%	3.4%	3.6%	2.4%	1.3%	2.5%	1.5%	2.8%	1.8%	2.3%

設問27. なぜアルバイトをしているのですか？

	2012全体	全体女子	全体男子	2年全体	2年女子	2年男子	3年全体	3年女子	3年男子	4年全体	4年女子	4年男子
1 生活費の補助にすため	54.8%	56.1%	54.5%	53.7%	54.5%	54.1%	64.1%	76.2%	52.9%	50.0%	42.9%	62.5%
2 欲しいものを買うため	12.4%	15.3%	9.1%	11.0%	11.4%	10.8%	5.1%	9.5%	0.0%	20.5%	25.0%	12.5%
3 将来の夢のため	10.2%	6.1%	14.3%	6.1%	2.3%	10.8%	12.8%	9.5%	11.8%	15.9%	10.7%	25.0%
4 社会勉強のため	13.6%	13.3%	13.0%	15.9%	15.9%	13.5%	7.7%	0.0%	17.6%	11.4%	17.9%	0.0%
5 友達をっくるため	0.6%	1.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.3%	3.6%	0.0%
6 レジャーや旅行のため	6.2%	7.1%	5.2%	9.8%	13.6%	5.4%	7.7%	4.8%	11.8%	0.0%	0.0%	0.0%
7 別に理由はない	2.3%	1.0%	3.9%	3.7%	2.3%	5.4%	2.6%	0.0%	5.9%	0.0%	0.0%	0.0%

回答数	177	98	77	82	44	37	39	21	17	44	28	16
-----	-----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

H. 学内施設の利用等(28～32)

「学内の施設で改善して欲しいものがありますか？（設問 28）」では、「2) 食堂」が 34.8%でもっとも高く、次いで「3) トイレ」が 25.8%、「7) 売店」が 20.6%になっている。(2)、(3)、(7)は、年度によって順位が入れ替わることがあるが、例年もっとも値が高い回答である。これまでの調査での値の推移を見ると、2002 年度では(2)がもっとも高く、次いで(7)、2003 年度から 2008 年度までは(7)がもっとも高く、次いで(2)、2005 年度以降は(3)の値が高くなり 2009 年度には(2)を凌いで(7)>(3)>(2)の順位になった。2010 年度は(7)が大きく下がり、(2)が大きく上がって(2)>(3)>(7)の順位となり、2011 年度では(3)が(2)を凌いで(3)>(2)>(7)の順位となった。2012 年度では(3)がやや下がり、(2)と(7)がやや上がって、(2)>(3)>(7)の順位になっている。(2)については 2002 年度に次いでこれまでで 2 番目に高い値になっており、(3)についても 2011 年度に次いでこれまでで 2 番目に高い値になっている。

図書館、メディアセンター、教室など、授業や学習に関わる施設については、大きな値になっていないが、回答を 1 つしか選ぶことができないため、学生はもっとも不満をもっているものを選択すると思われるので、値が少ない選択肢についても、不満がないというわけではないと思われる。売店、食堂など学生の福利厚生に関わる施設については、値からわかる通り、もっとも不満を感じるものとして選択する学生の割合が大きいので、かなり不満があるようである。前年度と比較して値が低くなっているものについては、かならずしも状況が改善したわけではなく、他により不満を感じるものが現れたために、そちらを選択する回答者が増えた結果、値が下がっているにすぎない場合が多いと思われる。

(7)については 2003 年度の 51.7%がもっとも高く、それ以降も 30%以上の値に留まり、例年、設問 27 の選択肢中でもっとも高い値の回答になっていたが、2010 年度では初めて 10%台になり、2011 年度ではさらに低くなって、これまででもっとも低い値になった。しかし、2012 年度はやや高くなっている。(2)については、2010 年度には(2)が 32.7%で選択肢中もっとも高い値の回答となり、2011 年度も、2010 年度よりは値は低くなったが、2009 年度以前と比べて際立って高い値を維持していた。2012 年度は値が高くなり、2010 年度の値を超えてこれまででもっとも高い値であり、また、2012 年度の選択肢中でもっとも高い値を示している。(3)については、2005 年度以降、値が高くなってきており、2011 年度はこれまででもっとも高い値になり、回答選択肢中で、初めてもっとも高い値の回答となった。2012 年度はやや低くなったが、選択肢中では(2)に次いで 2 番目に高い値を示している。

(7)については売店の品揃えの貧弱さ、営業時間帯の短さなど、高い値の要因は容易に想像できる。2010 年度に値が激減し、2011 年度、2012 年度に値が 2009 年度以前より低く留まっている理由は、上述の通り回答が一つしか選択できないので、(2)、(3)を選択する回答者が増えたために相対的に減少したのではないかと思われる。(2)については、2005 年度以降、10%台後半から 20%台前半で推移してきたが、2010 年度になぜ突然 30%を超す値になり、2011 年度もほぼ同様の値に、そして 2012 年度にはさらに高い値になったのかよくわからない。2009 年度から食堂の業者が交代したことが原因の候補の一つとして考えられるが、他にも留学生の増加に伴って食堂の収容力が利用者数に対応できなくなっていることなども考えられ

る。食堂の混雑の状況、営業時間、メニューなど、不満の原因がどこにあるのか調査する必要がある。(2012年度初頭に行われた食堂の新メニュー試食会に参加した学生の一部からは、メニューが少ない、量が少ない、すぐ売り切れる、メニューに出ている販売されているのを見たことがない料理がある、第2校時終了直後は非常に込み合い、座ることができないなどの意見が出されていた。) (3)についても、最近6年間で不満が大きくなってきており、2011年度では回答中でもっとも高い値を示す選択肢となり、2012年度も高い値を示している。学生がトイレのどのような点について改善を求めているかを調査する必要がある。

学年・男女別の回答内訳では、(2)については、学年間の比較では大学2年生が40.7%、大学3年生が19.1%、大学4年生が32.8%で、大学2年生がもっとも高い値を示している。2011年度の大学2年生が22.9%、大学3年生が31.5%であり、それぞれ2012年度の大学3年生19.1%、大学4年生32.8%に近い値であるので、2012年度の大学3年生、大学4年生のグループは2011年度とほぼ同様の回答をしていると思われる。特に高い値は2011年度入学の大学2年生に見られる。男女間の比較では、全学年で女子よりも男子が高い値を示しており、男子に食堂についての不満が多いようである。2011年度では大学3年生男子が40.0%の非常に高い値を示していたが2012年度でも大学4年生男子が43.5%の値を示しており、このグループでは2011年度から不満が多かったようである。大学2年生については男子が43.5%で大学4年生男子と同じ値であり、女子も37.7%で他のグループと比べて際立って高い値を示している。

(3)については、学年間の比較では、大学2年生が23.1%、大学3年生が34.0%、大学4年生が25.0%で、大学3年生に不満が多い。男女間の比較では、女子は大学2年生が36.1%、大学3年生が59.1%、大学4年生が29.3%で、全学年で3割近く以上、特に大学3年生では6割近くが改善を求めている。男子は大学2年生が6.5%、大学3年生が12.5%、大学4年生が17.4%で学年進行とともに値が高くなっているが、もっとも値が高い大学4年生男子でも、女子でもっとも低い値であった大学4年生女子の値よりもはるかに低い値である。(3)については特に女子に不満が多く、特に大学3年生女子に不満が多い。

(7)については、学年間の比較では大学2年生が17.6%、大学3年生が25.5%、大学4年生が23.4%であり、大学2年生よりも大学3年生、大学4年生の値が高い。男女間の比較では、大学2年生が女子11.5%、男子26.1%、大学3年生が女子9.1%、男子37.5%、大学4年生が女子24.4%、男子21.7%で、大学2年生、大学3年生では女子よりも男子の方がはるかに高い値を示している。大学4年生では女子の方が男子よりも高い値を示しているが、差は小さい。売店に不満を持っている学生は、大学2年生男子、大学3年生男子、大学4年生女子および男子に多い。女子よりも男子の方が売店に対して不満を持つ傾向があるようである。

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
1 ラウンジ	5.4%	9.3%	9.6%	7.7%	8.8%	7.1%	9.0%	9.2%	8.7%	12.0%	3.9%
2 食堂	50.0%	16.5%	32.5%	20.0%	23.3%	19.5%	23.5%	18.1%	32.7%	26.9%	34.8%
3 トイレ	3.1%	3.4%	2.1%	10.0%	8.1%	17.3%	14.9%	18.5%	21.2%	29.4%	25.8%
4 図書館	3.8%	8.9%	5.8%	12.3%	17.9%	11.1%	12.7%	7.4%	8.7%	8.2%	5.2%
5 メディアセンター	0.8%	1.3%	1.7%	1.7%	1.4%	2.2%	1.4%	1.5%	2.6%	0.3%	2.1%
6 教室	3.8%	3.8%	4.8%	4.6%	2.4%	3.1%	2.3%	3.0%	3.8%	2.8%	3.0%
7 売店	24.6%	51.7%	37.0%	40.3%	33.8%	35.0%	31.7%	35.4%	16.3%	15.5%	20.6%
8 その他	8.5%	5.1%	6.5%	3.4%	4.4%	4.9%	4.5%	7.0%	6.1%	4.7%	4.7%

	2012全体	全体女子	全体男子	2年全体	2年女子	2年男子	3年全体	3年女子	3年男子	4年全体	4年女子	4年男子
1 ラウンジ	3.9%	3.8%	4.0%	4.6%	4.9%	4.3%	4.3%	9.1%	0.0%	3.1%	0.0%	8.7%
2 食堂	34.8%	30.8%	40.0%	40.7%	37.7%	43.5%	19.1%	13.6%	25.0%	32.8%	26.8%	43.5%
3 トイレ	25.8%	36.9%	12.0%	23.1%	36.1%	6.5%	34.0%	59.1%	12.5%	25.0%	29.3%	17.4%
4 図書館	5.2%	4.6%	6.0%	4.6%	3.3%	6.5%	8.5%	4.5%	12.5%	4.7%	7.3%	0.0%
5 メディアセンター	2.1%	3.8%	0.0%	0.9%	1.6%	0.0%	2.1%	4.5%	0.0%	4.7%	7.3%	0.0%
6 教室	3.0%	0.8%	6.0%	4.6%	1.6%	8.7%	2.1%	0.0%	4.2%	1.6%	0.0%	4.3%
7 売店	20.6%	15.4%	26.0%	17.6%	11.5%	26.1%	25.5%	9.1%	37.5%	23.4%	24.4%	21.7%
8 その他	4.7%	3.8%	6.0%	3.7%	3.3%	4.3%	4.3%	0.0%	8.3%	4.7%	4.9%	4.3%
回答数	233	130	100	108	61	46	47	22	24	64	41	23

「図書館はどのくらいの頻度で利用しますか？（設問 29）」では「2）週に数度は利用する」が 34.8%、「1）ほとんど毎日利用する」が 24.6%、「3）週に 1、2 度は利用する」が 17.6%、「4）たまに利用する」が 16.8%になっている。(1)と(2)は 2011 年度の値よりやや低くなり、(1)は 2002 年度に次いでこれまでで 2 番目に低い値になっている。(3)と(4)は 2011 年度の値よりやや高くなっている。(1)、(2)から、学生の 59.4%が図書館を積極的に利用しているようである。しかし、「4）たまに利用する」、「5）めったに利用しない」、「6）行ったことがない」は合わせて 23.1%であり、5 人に 1 人は図書館を利用していないことがわかる。(1)、(2)、(3)の合計の割合は 2008 年度までは年度ごとに高くなっていたが、2009 年度 (78.4%) は 2008 年度 (83.2%) に比べて低くなった。2010 年度 (82.2%) はやや回復したが 2011 年度 (80.3%) は再び低くなり、2012 年度もさらに低くなって 77.0%になっている。

学年・男女別の回答内訳では、(1)、(2)、(3)の合計は女子では大学 2 年生が 76.4%、大学 3 年生が 65.4%、大学 4 年生が 88.7%で、大学 3 年生の値が低く、大学 4 年生の値が高い。男子では大学 2 年生が 77.5%、大学 3 年生が 62.9%、大学 4 年生が 76.0%で、大学 2 年生と大学 4 年生の値が高く、大学 3 年生の値が低い。大学 2 年生、大学 3 年生では女子と男子の差は小さいが、大学 4 年生では女子の方が男子よりも高い値を示している。2012 年度の調査では男女間では大学 4 年生以外では大きな差は見られないが、大学 3 年生では男女とも他の学年よりも図書館を積極的に利用している学生の割合が低い。全体では男女とも図書館をほとんど利用しない学生は少数派ではあるが、女子で 5 人に 1 人、男子で 4 人に 1 人は図書館をほとんど利用していないことがわかる。

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
1 ほとんど毎日利用する	8.3%	25.6%	27.0%	35.0%	31.2%	43.8%	35.1%	32.1%	30.8%	29.4%	24.6%
2 週に数度は利用する	30.1%	36.6%	38.8%	29.8%	37.9%	29.1%	39.3%	31.1%	40.2%	36.1%	34.8%
3 週に1、2度は利用する	20.3%	11.0%	11.5%	12.0%	12.6%	10.0%	8.8%	15.2%	11.2%	14.8%	17.6%
4 たまに利用する	33.1%	19.9%	17.8%	17.5%	12.6%	14.3%	14.1%	13.9%	13.9%	14.8%	16.8%
5 めったに利用しない	7.5%	6.1%	3.6%	5.5%	5.7%	2.8%	2.7%	7.4%	3.3%	3.9%	5.9%
6 行ったことがない	0.8%	0.8%	1.3%	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.3%	0.6%	0.9%	0.4%

	2012全体	全体女子	全体男子	2年全体	2年女子	2年男子	3年全体	3年女子	3年男子	4年全体	4年女子	4年男子
1 ほとんど毎日利用する	24.6%	22.9%	26.9%	20.3%	19.1%	22.4%	18.2%	11.5%	25.9%	36.2%	36.4%	36.0%
2 週に数度は利用する	34.8%	41.7%	26.9%	39.0%	42.6%	34.7%	30.9%	38.5%	25.9%	31.9%	40.9%	16.0%
3 週に1、2度は利用する	17.6%	14.6%	21.3%	17.8%	14.7%	20.4%	12.7%	15.4%	11.1%	15.9%	11.4%	24.0%
4 たまに利用する	16.8%	16.7%	17.6%	18.6%	20.6%	16.3%	21.8%	23.1%	22.2%	13.0%	9.1%	20.0%
5 めったに利用しない	5.9%	3.5%	7.4%	3.4%	1.5%	6.1%	16.4%	11.5%	14.8%	2.9%	2.3%	4.0%
6 行ったことがない	0.4%	0.7%	0.0%	0.8%	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
回答数	256	144	108	118	68	49	55	26	27	69	44	25

「図書館では何をすることが一番多いですか？（設問 30）」では、「2）予習、復習」が 54.3%でもっとも高く、次いで「1）図書の閲覧、貸し出し、読書」が 27.6%になっており、過半数の学生は授業の合間や授業後に勉強する場所として図書館を利用していることがわかる。「3）新聞、雑誌などを閲覧する」は 7.5%で、あまり新聞を読む学生は多くないようである。「4）ビデオをみる」は 3.1%で、視聴覚メディアを利用する学生も多くないようである。(2)については 2003 年度と 2005 年度以外は 50%を超えており、2012 年度も例年とほぼ同様の値である。(1)については年度ごとに高くなる傾向があり、2012 年度は 2010 年度に次いでこれまでで 2 番目に高い値になっている。

学年・男女別の回答内訳では、(2)については、学年間の比較では大学 2 年生が 58.1%、大学 3 年生が 40.0%、大学 4 年生が 55.9%で、大学 3 年生が大学 2 年生、大学 4 年生よりも低い値を示している。男女間の比較では、女子は大学 2 年生が 57.4%、大学 3 年生が 57.7%、大学 4 年生が 58.1%で、全学年で 50%台後半である。男子では大学 2 年生が 60.4%、大学 3 年生が 25.9%、大学 4 年生が 52.0%で、大学 3 年生が大学 2 年生、大学 4 年生よりも大幅に低い値を示している。大学 2 年生では女子よりも男子の方が高い値を示し、大学 4 年生では女子の方が男子よりも高い値を示しているが、男女間の差は小さい。大学 3 年生では男子の方が際立って低く、女子の値が男子よりも 30%以上高い。大学 3 年生男子以外は 50%以上が、そして全学年の女子と大学 2 年生男子は 60%近くが、図書館を予習・復習をする場所として利用している。

(1)については、学年間の比較では大学 2 年生が 24.8%、大学 3 年生が 29.1%、大学 4 年生が 30.9%で、大学 2 年生が大学 3 年生、大学 4 年生よりもやや低い値を示している。男女間の比較では、女子では大学 2 年生が 30.9%、大学 3 年生が 19.2%、大学 4 年生が 32.6%で、大学 2 年生、大学 4 年生より大学 3 年生の値が低くなっている。男子では大学 2 年生が 16.7%、大学 3 年生が 37.0%、大学 4 年生が 28.0%で、大学 2 年生の値が低く、大学 3 年生の値が高い。大学 2 年生では女子の方が男子より 10%以上値が高く、大学 3 年生では逆に女子よりも男子の方が 20%近く値が高い。大学 4 年生では男女の差はわずかである。大学 2 年生男子と大学 3 年生女子は値が低いが、主に「5）その他」や「4）ビデオを見る」の値が比較的高い分、図書館を主に図書の閲覧・貸出・読書のために使う者の割合が小さくなっている。

(3)については、学年間の比較では大学 2 年生が 6.0%、大学 3 年生が 12.7%、大学 4 年生が 7.4%で、大学 2 年生、大学 4 年生よりも大学 3 年生の値が高い。男女間の比較では、女子では大学 2 年生が 2.9%、大学 3 年生が 7.7%、大学 4 年生が 2.3%で、大学 2 年生、大学 4 年生よりも大学 3 年生の値がやや高いが、全体として値は高くない。男子では大学 2 年生が 10.4%、大学 3 年生が 18.5%、大学 4 年生が 16.0%で大学 2 年生よりも大学 3 年生、大学 4 年生の値がやや高い。すべての学年で女子よりも男子の方が高い値を示している。

図書館を主に新聞・雑誌の閲覧のために使う者は女子よりも男子に多い。学生は前学年での図書館の利用経験を基にして回答しているので、まだ語学・教養科目しか履修していない大学 2 年生よりも、専門科目の授業をすでに履修している大学 3 年生、大学 4 年生で、図書の利用が増えることが期待されるが、大学 3 年生女子・大学 4 年生女子は期待される図書利用がそれほど伸びていない。

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
1 圖書の閲覧、貸し出し、読書	15.9%	12.3%	17.7%	16.7%	19.8%	22.3%	20.7%	27.1%	30.2%	27.5%	27.6%
2 予習、復習	53.0%	45.9%	52.8%	48.5%	52.8%	58.2%	66.8%	56.6%	57.4%	54.1%	54.3%
3 新聞、雑誌などを閲覧する	22.0%	16.4%	12.1%	13.4%	11.3%	6.4%	4.7%	5.1%	5.2%	8.5%	7.5%
4 ビデオをみる	1.5%	15.6%	8.2%	10.7%	6.3%	2.8%	2.0%	4.4%	4.0%	3.6%	3.1%
5 その他	7.6%	9.8%	9.2%	10.7%	9.7%	10.4%	5.9%	6.8%	3.1%	6.3%	7.5%

	2012全体	全体女子	全体男子	2年全体	2年女子	2年男子	3年全体	3年女子	3年男子	4年全体	4年女子	4年男子
1 圖書の閲覧、貸し出し、読書	27.6%	29.4%	25.2%	24.8%	30.9%	16.7%	29.1%	19.2%	37.0%	30.9%	32.6%	28.0%
2 予習、復習	54.3%	58.0%	50.5%	58.1%	57.4%	60.4%	40.0%	57.7%	25.9%	55.9%	58.1%	52.0%
3 新聞、雑誌などを閲覧する	7.5%	3.5%	13.1%	6.0%	2.9%	10.4%	12.7%	7.7%	18.5%	7.4%	2.3%	16.0%
4 ビデオをみる	3.1%	4.2%	0.9%	2.6%	4.4%	0.0%	5.5%	7.7%	0.0%	2.9%	2.3%	4.0%
5 その他	7.5%	4.9%	10.3%	8.5%	4.4%	12.5%	12.7%	7.7%	18.5%	2.9%	4.7%	0.0%
回答数	254	143	107	117	68	48	55	26	27	68	43	25

「メディアセンターの自習室はどのくらい利用しますか？（設問 31）」では、「1）よく足を運ぶ」、「2）ときどき行く」が合わせて 34.8%、「3）あまり行かない」、「4）めったに行かない」、「5）行ったことがない」が合わせて 65.2%であった。特に（4）と（5）だけでも 43.9%で、学生の 4 割以上がメディアセンターの自習室をほとんど利用していないということがわかる。積極的に利用しているのは（1）の 8.7%にとどまる。メディアセンター自習室があまり利用されていないことは残念であるが、収容人数が限られていることや、自習室で利用可能な学習資料や音声・映像・情報機器が種類・数ともに限られていることが制約になっているのではないと思われる。経年変化を見ると、（1）、（2）の合計は年度ごとに高くなる傾向があり、2011 年度はこれまででもっとも高い値になったが、2012 年度では低くなり、これまでで 3 番目に高い値ではあるが、2009 年度、2010 年度とほぼ同じ値である。

学年・男女別の回答内訳では、（1）、（2）の合計は、大学 2 年生が 27.3%、大学 3 年生が 38.2%、大学 4 年生が 41.1%で、大学 2 年生よりも大学 3 年生、大学 4 年生が高い値を示している。大学 2 年生では女子 27.9%、男子 27.1%、大学 3 年生では女子 42.3%、男子 29.6%、大学 4 年生では女子 37.3%、男子 48.0%で、大学 2 年生では男女間の差はわずかであるが、大学 3 年生では女子の方が男子よりも 10%以上高い値を示し、大学 4 年生では女子よりも男子の方が 10%以上高い値を示している。大学 3 年生女子、大学 4 年生女子および男子が比較的頻繁にメディアセンター自習室を利用しているようである。

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
1 よく足を運ぶ	6.8%	9.3%	6.9%	6.4%	6.9%	6.7%	10.2%	7.1%	7.0%	10.5%	8.7%
2 ときどき行く	20.5%	20.6%	20.3%	24.6%	18.4%	19.8%	21.2%	26.6%	29.5%	31.1%	26.1%
3 あまり行かない	20.5%	20.2%	18.0%	19.6%	16.6%	17.9%	17.8%	20.9%	26.7%	17.7%	21.3%
4 めったに行かない	29.5%	27.5%	32.5%	31.8%	34.4%	32.9%	27.3%	25.6%	19.5%	21.9%	24.5%
5 行ったことがない22	22.7%	22.3%	22.3%	17.7%	23.8%	22.6%	23.5%	19.9%	17.3%	18.9%	19.4%

	2012全体	全体女子	全体男子	2年全体	2年女子	2年男子	3年全体	3年女子	3年男子	4年全体	4年女子	4年男子
1 よく足を運ぶ	8.7%	7.0%	8.5%	6.8%	8.8%	4.2%	9.1%	7.7%	3.7%	10.3%	4.7%	20.0%
2 ときどき行く	26.1%	26.6%	26.4%	20.5%	19.1%	22.9%	29.1%	34.6%	25.9%	30.9%	32.6%	28.0%
3 あまり行かない	21.3%	19.6%	24.5%	28.2%	25.0%	33.3%	14.5%	15.4%	14.8%	16.2%	16.3%	16.0%
4 めったに行かない	24.5%	25.9%	22.6%	22.2%	25.0%	16.7%	32.7%	30.8%	37.0%	23.5%	23.9%	24.0%
5 行ったことがない22	19.4%	21.0%	17.9%	22.2%	22.1%	22.9%	14.5%	11.5%	18.5%	19.1%	23.3%	12.0%
回答数	253	143	106	117	68	48	55	26	27	68	43	25

「メディアセンターで、インターネット、e-mailをどのくらい利用しますか？（設問32）」では、「1)良く利用する」、「2)ときどき利用する」が合わせて35.3%、「3)あまり利用しない」、「4)めったに利用しない」、「5)利用したことがない」が合わせて64.6%になっており、インターネットやe-mailを利用している学生は全体の1/3程度であることがわかる。(1)、(2)の合計は2002年度の調査開始以来、年度ごとに低くなる傾向があり、2011年度は2010年度よりやや高くなったが2012年度は再び低くなり、これまででもっとも低い値になっている。メディアセンターでのe-mailの利用が減少しているのは、携帯電話の機能向上により、大きな不自由なくe-mailの送受信ができるようになり、e-mailの通信にはほとんど携帯電話を用いる学生が多くなったことや、アンペロス寮やアパートでのブロードバンド接続ができるようになったため、大学でネットワーク環境を利用する必要性が減少したことなどが理由ではないかと思われる。

学年・男女別の回答内訳では、学年間の比較では(1)、(2)の合計は学年ごとに高くなり、大学2年生が30.7%、大学3年生が35.2%、大学4年生が40.3%になっている。大学4年生の値が高いのは、就職活動などのために、キャンパスにいるときにインターネットを利用しなければならないことが多くなることが一つの原因と考えられるが、若い学年ほど寮やアパートでインターネットを利用できる環境が整っており、メディアセンターを利用する必要がない学生の割合が高いのかもしれない。2011年度では大学2年生が35.1%、大学3年生が45.7%、大学4年生が52.8%であったので、すべての学年で2011年度に比べて5%~10%以上値が低くなっている。2011年度の大学2年生の値と2012年度の大学3年生の値がほぼ同じであり、2011年度の大学3年生の値と2012年度の大学4年生の値がそれほど大きく異なることから、最近の入学者ほどメディアセンターでインターネットやe-mailを利用することが少ない傾向があるために、学年進行に伴って、下級生ほど利用率が低い（上級生ほど利用率が高い）パターンが生じていると考えられる。

男女間の比較では、(1)、(2)の合計は、女子では大学2年生が22.0%、大学3年生が44.0%、大学4年生が40.5%で、大学2年生が大学3年生、大学4年生よりも低い値を示している。男子では大学2年生が43.7%、大学3年生が25.9%、大学4年生が40.0%で、大学3年生が大学2年生、大学3年生よりも低い値を示している。大学2年生では女子よりも男子の方が20%以上値が高く、大学3年生では逆に女子の方が男子よりも20%近く値が高い。大学4年生では男女間の差はほとんどない。大学4年生は男女ともメディアセンターでインターネットやe-mailを利用する学生が比較的多いが、大学2年生では男子、大学3年生では女子の方がより多くメディアセンターでインターネットやe-mailを利用しているようである。

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
1 よく利用する	24.6%	33.2%	31.4%	24.8%	17.6%	17.5%	15.5%	10.5%	10.6%	11.2%	9.9%
2 ときどき利用する	40.3%	28.3%	31.0%	32.0%	34.8%	30.6%	26.9%	28.0%	29.1%	32.5%	25.4%
3 あまり利用しない	7.5%	8.1%	12.7%	13.2%	12.5%	13.9%	15.5%	15.5%	21.8%	18.2%	22.2%
4 めったに利用しない	14.9%	18.6%	15.7%	19.0%	18.8%	17.1%	18.9%	20.9%	14.8%	17.3%	19.8%
5 利用したことがない	12.7%	11.7%	9.2%	11.0%	16.3%	21.0%	23.1%	25.0%	23.6%	20.7%	22.6%

設問32. メディアセンターで、インターネット、e-mailをどのくらい利用しますか？

	2012全体	全体女子	全体男子	2年全体	2年女子	2年男子	3年全体	3年女子	3年男子	4年全体	4年女子	4年男子
1 よく利用する	9.9%	7.1%	12.1%	5.1%	2.9%	8.3%	7.4%	8.0%	3.7%	17.9%	14.3%	24.0%
2 ときどき利用する	25.4%	24.8%	27.1%	25.6%	19.1%	35.4%	27.8%	36.0%	22.2%	22.4%	26.2%	16.0%
3 あまり利用しない	22.2%	24.1%	19.6%	19.7%	25.0%	12.5%	24.1%	20.0%	25.9%	25.4%	26.2%	24.0%
4 めったに利用しない	19.8%	19.1%	20.6%	23.1%	25.0%	18.8%	22.2%	24.0%	22.2%	13.4%	7.1%	24.0%
5 利用したことがない	22.6%	24.8%	20.6%	26.5%	27.9%	25.0%	18.5%	12.0%	25.9%	20.9%	26.2%	12.0%
回答数	252	141	107	117	68	48	54	25	27	67	42	25

I. キャリア支援室の利用(33)

「キャリア支援室へは、どのくらいの頻度で行きますか？（設問 33）」では、「1）よく足を運ぶ」、「2）ときどき行く」が合わせて 29.4%、「3）あまり行かない」、「4）めったに行かない」、「5）行ったことがない」が合わせて 70.6%になっている。(1)、(2)の合計は、大学 2 年生から 4 年生までがそろった 2004 年度以降は 20%前半から 20%台後半で推移してきており、2011 年度は初めて 30%台に達し、40%近い値になったが、2012 年度では 20%台後半の値に戻っている。キャリア支援室の利用は就職活動を行っている大学 3 年生（4 月の調査時点での大学 4 年生）によるものがほとんどであるため、学年別データが提供されている 2005 年度以降の調査での大学 4 年生のみの回答の経年変化を見ると、(1)、(2)の合計は 2005 年度が 38.9%、2006 年度が 37.6%、2007 年度が 48.9%、2008 年度が 52.2%、2009 年度が 37.1%、2010 年度が 38.9%、2011 年度が 51.8%、2012 年度が 60.3%になっている。2008 年度までは年度ごとに前年度より利用が大きく伸びてきていたことが分かるが、2009 年度はキャリア支援室を利用する大学 3 年生（4 月の調査時点での大学 4 年生）の割合が 2007 年度、2008 年度よりもかなり低くなり、2010 年度でも多少回復してはいるものの、2005 年度・2006 年度のレベルになっていた。2011 年度は、2008 年度のレベルまで回復して、これまでで 2 番目に高い値になり、2012 年度はこれまででもっとも高い値になっている。全体では 2011 年度より(1)と(2)の合計の値が低くなっているが、大学 4 年生だけを見ると 2011 年度よりも 10%近く高くなっているのがわかる。

学年・男女別の回答内訳では、(1)、(2)の合計は大学 2 年生が 17.0%、大学 3 年生が 18.2%、大学 4 年生は 60.3%で、キャリア支援室を利用する学生は前年度の大学 3 年生（4 月の調査時点での大学 4 年生）が多い。2011 年度では、大学 2 年生が 25.8%、大学 3 年生が 42.0%、大学 4 年生が 51.8%であったので、大学 2 年生は 2011 年度より 9%ほど低い値、大学 3 年生は 2011 年度より 20%以上低い値を示しているのに対し、大学 4 年生は前述の通り 10%ほど高い値を示している。2011 年度には、前年度の大学 2 年生（4 月の調査時点での大学 3 年生）の 40%以上が利用していたが、2012 年度では 20%未満である。大学 4 年生では、(1)、(2)の合計が、女子では 62.8%、男子では 56.0%であり、2011 年度の女子 51.6%、男子 52.3%、2010 年度の女子 34.7%、男子 46.2 に比べて女子、男子ともに利用が伸びており、特に女子の利用が改善していることがわかる。しかしながら、もっとも高い値を示している大学 4 年生女子でも、キャリア支援室を利用している学生は 6 割に留まっており、さらなる改善が望まれる。就職活動結果の大勢は大学 3 年次秋学期で決まるので、大学 3 年生アドバイザーは特に学生に対してキャリア支援室を積極的に利用するように指導すべきである。

設問33. キャリア支援室へは、どのくらいの頻度で行きますか？												
	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	
1 よく足を運ぶ	0.0%	2.0%	6.2%	4.4%	3.5%	5.6%	8.0%	11.0%	8.2%	12.0%	9.4%	
2 ときどき行く	2.2%	7.3%	17.0%	14.3%	16.0%	15.9%	19.0%	14.8%	20.7%	27.1%	20.0%	
3 あまり行かない	8.2%	10.5%	17.7%	18.2%	19.2%	13.5%	14.4%	17.2%	21.6%	18.1%	21.2%	
4 めったに行かない	19.4%	19.4%	18.7%	20.4%	27.0%	14.3%	13.7%	16.5%	19.8%	19.3%	25.1%	
5 行ったことがない	70.1%	60.7%	41.0%	42.7%	34.3%	50.6%	44.9%	40.5%	29.8%	23.5%	24.3%	

設問33. キャリア支援室へは、どのくらいの頻度で行きますか？（4年生の回答のみ）									
	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	
1 よく足を運ぶ	9.5%	8.0%	19.8%	18.3%	17.1%	13.9%	22.7%	27.9%	
2 ときどき行く	29.4%	29.6%	29.1%	33.9%	20.0%	25.0%	29.1%	32.4%	
3 あまり行かない	25.4%	26.4%	33.7%	21.1%	26.4%	25.0%	22.7%	17.6%	
4 めったに行かない	18.3%	22.4%	14.0%	15.6%	18.6%	23.6%	16.4%	14.7%	
5 行ったことがない	17.5%	13.6%	3.5%	11.0%	17.9%	12.5%	9.1%	7.4%	

設問33. キャリア支援室へは、どのくらいの頻度で行きますか？												
	2012全体	全体女子	全体男子	2年全体	2年女子	2年男子	3年全体	3年女子	3年男子	4年全体	4年女子	4年男子
1 よく足を運ぶ	9.4%	11.2%	7.4%	3.4%	2.9%	4.1%	1.8%	0.0%	3.7%	27.9%	32.6%	20.0%
2 ときどき行く	20.0%	18.2%	22.2%	13.6%	11.8%	16.3%	16.4%	19.2%	11.1%	32.4%	30.2%	36.0%
3 あまり行かない	21.2%	18.2%	25.0%	20.3%	16.2%	26.5%	20.0%	19.2%	22.2%	17.6%	14.0%	24.0%
4 めったに行かない	25.1%	27.3%	22.2%	30.5%	33.8%	24.5%	29.1%	30.8%	29.6%	14.7%	16.3%	12.0%
5 行ったことがない	24.3%	25.2%	23.1%	32.2%	35.3%	28.6%	32.7%	30.8%	33.3%	7.4%	7.0%	8.0%
回答数	255	143	108	118	68	49	55	26	27	68	43	25

J. 掲示板・学生要覧について(34, 35)

「掲示板について（設問 34）」では、「1)毎日くまなく見る」が15.4%、「2)毎日決まったところだけは見る」が23.2%、「3)学校に来たときには見る」が39.4%、「4)週に何度かは見る」が15.0%で、2011年度と比較して(1)が10%ほど低くなり、(4)が5%ほど高くなっている。掲示板をすべて毎日確認する学生は6人に1人になっているが、自分に関係のありそうな掲示については少なくとも1週間に1度は確認する学生が90%以上になっている。(1)は2003年度以降、20%台前半で推移してきたが、2012年度は2011年度の24.8%から大幅に下がって15.4%になり、2002年度に次いで2番目にもっとも低い値になっている。(4)、(5)はそれぞれこれまででもっとも高い値になっており、また、「5)あまり見ない」、「6)ほとんど見ない」は合わせて7.1%で、(5)、(6)の合計の値もこれまででもっとも高い値になっている。

学年・男女別の回答内訳では、(1)については大学2年生が17.9%、大学3年生が9.1%、大学4年生が11.8%になっており、大学2年生については他の学年よりも比較的多くの学生が掲示板を毎日すべて確認しているようであるが、それでも2割に達していない。大学3年生、大学4年生については、毎日すべて確認している学生は10人に1人ぐらいしかいない。2011年度では、大学2年生が19.0%、大学3年生が29.0%、大学4年生が24.8%であったので、大学3年生では20%、大学4年生では10%以上値が低くなっている。(5)、(6)の合計は大学2年生が4.3%、大学3年生が14.6%、大学4年生が7.4%になっており、(1)とは逆のパターンで、ほとんど掲示板を見ない学生は大学2年生よりも大学3年生、大学4年生に多く、特に大学3年生に多い。2011年度では、大学2年生が5.1%、大学3年生が2.2%、大学4年生が

4.6%であったので、大学3年生の値が10%以上高くなっているのがわかる。それぞれの学年の回答は前年度の掲示板確認の実態を反映した回答と思われるが、大学初年次の1年生（4月調査時点での大学2年生）や就職活動を始める大学3年生（4月調査時点での大学4年生）があまり掲示板を確認していないのは問題がある。大学1年生については、新入生オリエンテーションだけでなく基礎演習の授業などを通して、掲示板を確認するよう頻繁に指導していく必要がある。大学3年生についても、学年・学期開始時のオリエンテーションやキャリアプランニングの授業などを通して、頻繁に指導を繰り返す必要があると思われる。

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
1 毎日くまなく見る	14.9%	24.3%	24.8%	22.3%	20.1%	21.5%	22.9%	23.8%	29.6%	24.8%	15.4%
2 毎日決まったところだけは見る	18.7%	21.1%	22.9%	23.1%	23.2%	29.1%	21.4%	20.1%	22.9%	23.6%	23.2%
3 学校に来たときには見る	45.5%	42.1%	41.8%	42.1%	38.6%	31.1%	34.7%	36.2%	31.4%	37.8%	39.4%
4 週に何度かは見る	14.2%	8.9%	6.2%	8.0%	11.9%	14.3%	14.1%	14.4%	10.4%	9.7%	15.0%
5 あまり見ない	5.2%	2.4%	2.6%	3.6%	5.3%	3.6%	4.6%	3.4%	4.3%	3.3%	5.9%
6 ほとんど見ない	1.5%	1.2%	1.6%	0.8%	0.9%	0.4%	2.3%	2.0%	1.5%	0.9%	1.2%

	2012全体	全体女子	全体男子	2年全体	2年女子	2年男子	3年全体	3年女子	3年男子	4年全体	4年女子	4年男子
1 毎日くまなく見る	15.4%	13.3%	17.8%	17.9%	14.7%	22.9%	9.1%	7.7%	11.1%	11.8%	9.3%	16.0%
2 毎日決まったところだけは見る	23.2%	20.3%	27.1%	26.5%	23.5%	31.3%	25.5%	19.2%	29.6%	19.1%	18.6%	20.0%
3 学校に来たときには見る	39.4%	44.8%	32.7%	35.0%	41.2%	25.0%	30.3%	34.6%	29.6%	50.0%	55.8%	40.0%
4 週に何度かは見る	15.0%	16.1%	13.1%	16.2%	19.1%	12.5%	20.0%	23.1%	14.8%	11.8%	9.3%	16.0%
5 あまり見ない	5.9%	4.9%	7.5%	4.3%	1.5%	8.3%	9.1%	11.5%	7.4%	7.4%	7.0%	8.0%
6 ほとんど見ない	1.2%	0.7%	1.9%	0.0%	0.0%	0.0%	5.5%	3.8%	7.4%	0.0%	0.0%	0.0%
回答数	254	143	107	117	68	48	55	26	27	68	43	25

「学生要覧について（設問35）」では、「1）よく参考にする」が7.5%、「2）必要なときには参考にする」が45.8%、「3）ときおり参考にする」が28.1%、「4）まったくみない」が18.6%で、81.4%の学生は、自分に関係のある事項については学生要覧を読んで確認するようである。2003年度以降、例年(1)、(2)、(3)の合計は90%前後、(4)は10%前後で推移してきたが、2012年度では、(1)、(2)、(3)の合計が80%程度で、これまででもっとも低い値、(4)は10%台後半で、これまででもっとも高い値になっている。また(1)も2007年度以降は10%以上であったが、2012年度は7.5%で、これまでで3番目に低い値になっている。学生要覧をあまり読まない学生が増えているようである。

学年・男女別の回答内訳では、(4)については大学2年生が19.5%、大学3年生が18.2%、大学4年生が19.4%で、全学年で2割程度の学生が学生便覧を読まない。2011年度では、大学2年生が10.3%、大学3年生が10.8%、大学4年生が14.7%であったので、大学2年生で10%近く、大学3年生で7%程度、大学4年生で5%程度値が高くなっている。大学2年生では女子19.1%、男子20.4%、大学3年生では女子19.2%、男子18.5%、大学4年生では女子19.0%、男子20.0%で、全学年で男女間の差はほとんどない。

2011年度では、大学2年生、大学3年生のグループは(4)が10%前後であったが、2012年度には大学3年生、大学4年生のグループは(4)が20%近くになっているところから見て、同じグループでも学年進行とともに(4)の値が高くなる傾向があるものと思われる。2012年度の大学2年生のグループはすでに(4)の値が20%近くになっていることから、今後学年が進む

につれてさらに(4)の値が高くなることが予想される。前述の掲示板を見ない学生の増加で、大学や教員から学生への連絡・指示が行き届かなくなることに加え、学生要覧を読まない、したがって規則を知らない、知ろうとしない学生が増え、大学生としての責任を果たしながら自律的な学生生活をする事ができない学生が増加することが懸念される。

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
1 よく参考にする	2.3%	6.5%	8.5%	11.6%	8.8%	11.6%	11.1%	11.4%	16.7%	13.3%	7.5%
2 必要なときには参考にする	48.1%	63.0%	58.8%	55.4%	59.1%	49.0%	59.9%	50.7%	50.6%	47.1%	45.8%
3 ときおり参考にする	33.1%	21.5%	24.5%	23.5%	19.8%	29.3%	21.0%	27.6%	23.8%	27.5%	28.1%
4 まったくみない	16.5%	8.9%	8.2%	9.4%	12.3%	10.0%	8.0%	10.3%	9.0%	12.1%	18.6%

	2012全体	全体女子	全体男子	2年全体	2年女子	2年男子	3年全体	3年女子	3年男子	4年全体	4年女子	4年男子
1 よく参考にする	7.5%	3.5%	12.1%	8.5%	4.4%	14.3%	5.5%	0.0%	11.1%	7.5%	4.8%	12.0%
2 必要なときには参考にする	45.8%	46.5%	44.9%	43.2%	39.7%	46.9%	52.7%	57.7%	48.1%	44.8%	47.6%	40.0%
3 ときおり参考にする	28.1%	31.0%	24.3%	28.8%	36.8%	18.4%	23.6%	23.1%	22.2%	28.4%	28.6%	28.0%
4 まったくみない	18.6%	19.0%	18.7%	19.5%	19.1%	20.4%	18.2%	19.2%	18.5%	19.4%	19.0%	20.0%
回答数	253	142	107	118	68	49	55	26	27	67	42	25

K. 職業観・進路・理想的な生き方(36～39)

「あなたの職業観にもっともよくあてはまると思われる項目を、以下の選択肢の中から一つ選んで回答してください。(設問36)」では、「3)大学で学んだことを生かせる職業を選びたい」が38.0%でもっとも高く、次いで、「2)収入や知名度などよりも、社会への貢献性を重視して職業を選びたい」は21.2%、「1)収入が少なくても興味を持てる仕事より、興味を持てなくても収入の多い仕事を選びたい」が19.2%であった。(3)は2002年度以来、毎年1位の回答である。2011年度は2004年度、2010年度の値を下回って、これまででもっとも低い値になったが、2012年度はやや高くなり、2009年度以降ではもっとも高い値になった。(2)は2004年度以降、2009年度以外は10%台後半から20%台前半で推移してきており、2012年度も例年とほぼ同様の値である。(1)は年度ごとに高くなる傾向があり、2010年度には20%台後半になり、2011年度はもっとも高い値になったが、2012年度は10%台後半まで下がっている。

「5)これからの社会は学歴よりも実力だと思う」は、2007年度以外は2009年度まで10%台後半から20%台前半で推移してきたが、2010年度は10.1%となり、2011年度は初めて10%未満の8.9%となり、これまででもっとも低い値になった。2012年度では、値がより高くなり14.4%になっている。「4)やりたい仕事が見つかるまでは就職をしなくてもよい」はこれまでのところ5%～8%の値が多いが、2011年度は11.0%に上昇した。2012年度は例年と同様の値に戻り7.2%であった。

2011年年度と比較して、(3)が高くなり、(1)が低くなっていることから、昨年度ほどは、職種にこだわらず、安定した生活を営むことができる職業を選択しようとする傾向は弱まっていることが窺える。2011年度では、(4)が例年に比べて高い値を示していたことから、モラトリアムを求める方向に傾いている学生が増えてきているのではないかと思われたが、2012年度は(4)が10%未満で、過年度に比べて高くはない。

学年・男女別の回答内訳では、(3)については、2年生が32.2%、3年生が48.1%、4年生が38.8%になっている。学生は卒業が近づくにつれて職業選択において現実的になるため、学年とともに値が低くなることが予想されるが、2012年度では予想とは異なり、大学2年生よりも大学3年生、4年生で値が高くなっている。大学3年生は値がもっとも高いが、2011年度では大学2年生が48.2%であったので、このグループは2012年度もほぼ同じ値を示しているようである。2011年度では、大学3年生の値が29.0%であったが、2012年度では大学4年生が38.3%であるので、このグループは(3)の傾向がより強まったように見える。また、男女間の比較では、大学2年生が女子32.4%、男子32.7%、大学3年生が女子70.8%、男子30.8%、大学4年生が女子37.2%、男子41.7%で、大学2年生、大学4年生においては、男女の差は小さいが、大学3年生では女子の方が男子よりもはるかに高い値を示しており、大学3年生全体の値を高めている。2011年度では、大学2年生女子が55.4%、男子が38.3%であったので、このグループの女子はもともと(3)の傾向が強かったようであるが、2012年度調査では男子の値が低くなった一方で、女子の値は高くなっており、(3)の傾向がより強まっている。

(2)については、大学2年生が17.8%、大学3年生が19.2%、大学4年生が25.4%になっており、大学2年生、大学3年生よりも大学4年生の値がやや高い。卒業時期が近づくと職業選択においてより現実的になることが予想されるが、2012年度の大学4年生は、予想に反して大学2年生、大学3年生よりも理想主義的な職業選択を行っているように見える。2010年度では大学4年生の値は16.7%であり、2011年度では大幅に高くなって28.7%になった。2012年度ではやや低くなっているが25%を超える値である。男女間の比較では、大学2年生が女子17.6%、男子16.3%、大学3年生が女子8.3%、男子26.9%、大学4年生が女子25.6%、男子25.0%で、大学2年生と大学4年生では男女間の差はわずかであるが、大学3年生では女子の値が非常に低く、男女間で大きな差がある。大学3年生女子では(3)を選択した者が非常に多かったために他の選択肢を選択した者が必然的に少数になっている。大学4年生女子は、2010年度では4.4%であったが、2011年度は大幅に高くなって26.6%になり、2012年度も25.6%でほぼ同様の値を保っている。

(1)については、大学2年生が21.2%、大学3年生が15.4%、大学4年生が19.4%になっており、大学3年生には他の学年よりも収入を優先する現実的選択を行う学生が少ないようである。男女間の比較では、大学2年生が女子20.6%、男子22.4%、大学3年生が女子4.2%、男子26.9%、大学4年生が女子16.3%、男子25.0%で、大学2年生では男女間の差は小さいが、大学3年生、大学4年生では女子よりも男子の方がはるかに高い値を示している。現実的な職業選択を志向する学生は大学3年生、大学4年生の男子学生に多いようである。

(4)については、大学2年生が9.3%、大学3年生が1.9%、大学4年生が9.0%であった。2010年度の大学2年生3.1%、大学3年生6.2%、大学4年生8.3%、2011年度の大学2年生6.3%、大学3年生8.6%、大学4年生18.5%に比べると、大学2年生の値が高くなってきている。大学3年生は2010年度、2011年よりも非常に低い値を示しており、就職の必要性について厳しい見方を持っているようである。大学3年生はアルバイトをしている学生が多いことから考えて、おそらくは経済的理由により、就職しなくてはならない事情があるものと思われる。大学4年生は2011年度には18.5%という高い値を示したが、2012年度には2010年度とほぼ

同様の値まで低くなっている。男女間の比較では、大学2年生女子8.8%、男子10.2%、大学3年生女子0.0%、男子3.8%、大学4年生女子11.6%、男子4.2%で、大学2年生、大学3年生では男女間の差が小さいが、大学4年生では女子の方が男子よりも値がかなり高い。2010年度では大学4年生女子2.2%、男子18.5%、2011年度では大学4年生女子20.3%、男子15.9%であり、2011年度は前年度に比べて女子の値が非常に高くなったことが大学4年生全体の値を高めた理由であった。2012年度では、2011年度に比べて男女とも値が10%程度低くなっているが、男子が5%未満になったのに対し、女子は10%台の値に留まっている。(4)を回答した学生には、就職活動での困難を経験または予期してモラトリアムを求めようとしている者が含まれていると思われるが、2011年度以降、大学4年生女子の値が高くなっているのには、現在の就職状況では女子の就職が困難であることを反映したものであるかもしれない。一方で、卒業時の正規雇用の機会を逃すと、女子では男子に比べて正規雇用の機会がより少なくなるという危機感をあまり持っていないという可能性もある。

設問36. あなたの職業観にもっともよくあてはまると思われる項目を、以下の選択肢の中から一つ選んで回答してください。

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
1 収入が少なくても興味を持てる仕事より、興味が持たなくても収入の多い仕事を選びたい	9.0%	5.3%	11.2%	10.7%	10.1%	12.4%	15.2%	18.9%	26.4%	26.7%	19.2%
2 収入や知名度などよりも、社会への貢献性を重視して職業を選びたい	6.0%	13.0%	18.1%	17.0%	18.9%	20.1%	22.0%	14.9%	21.8%	19.9%	21.2%
3 大学で学んだことを生かせる職業を選びたい	52.6%	53.7%	36.5%	44.2%	45.7%	49.4%	40.2%	36.8%	36.5%	33.4%	38.0%
4 やりたい仕事が見つかるまでは就職をしなくてもよい	11.3%	5.7%	6.9%	8.5%	7.6%	6.0%	5.3%	9.8%	5.2%	11.0%	7.2%
5 これからの社会は学歴よりも実力だと思う	21.1%	22.4%	27.3%	19.5%	17.7%	12.0%	17.4%	19.6%	10.1%	8.9%	14.4%

設問36. あなたの職業観にもっともよくあてはまると思われる項目を、以下の選択肢の中から一つ選んで回答してください。

	2012全体	全体女子	全体男子	2年全体	2年女子	2年男子	3年全体	3年女子	3年男子	4年全体	4年女子	4年男子
1 収入が少なくても興味を持てる仕事より、興味が持たなくても収入の多い仕事を選びたい	19.2%	16.3%	23.6%	21.2%	20.6%	22.4%	15.4%	4.2%	26.9%	19.4%	16.3%	25.0%
2 収入や知名度などよりも、社会への貢献性を重視して職業を選びたい	21.2%	18.4%	23.6%	17.8%	17.6%	16.3%	19.2%	8.3%	26.9%	25.4%	25.6%	25.0%
3 大学で学んだことを生かせる職業を選びたい	38.0%	41.8%	34.0%	32.2%	32.4%	32.7%	48.1%	70.8%	30.8%	38.8%	37.2%	41.7%
4 やりたい仕事が見つかるまでは就職をしなくてもよい	7.2%	7.8%	6.6%	9.3%	8.8%	10.2%	1.9%	0.0%	3.8%	9.0%	11.6%	4.2%
5 これからの社会は学歴よりも実力だと思う	14.4%	15.6%	12.3%	19.5%	20.6%	18.4%	15.4%	16.7%	11.5%	7.5%	9.3%	4.2%
回答数	250	141	106	118	68	49	52	24	26	67	43	24

「卒業後の進路について考えていますか? (設問 37) では、「1) 考えている」が 80.3%、「2) 考えていない」が 19.7%になっている。4年生が調査対象に加わった 2004 年度以降では、2004 年度に (1) が 89.1%であったのを除いては、80%台前半で推移しており、2012 年度も例年とほぼ同様の値である。

学年・男女別の回答内訳では、(1)については大学2年生が76.5%、大学3年生が78.8%、大学4年生が91.9%になっており、大学2年生、大学3年生に比べて大学4年生の値が高くなっている。男女間の比較では、大学2年生が女子74.2%、男子79.2%、大学3年生が女子76.0%、男子80.8%、大学4年生が女子95.0%、男子86.4%で、大学2年生、大学3年生では女子より男子の方がやや高い値を示しているが、大学4年生では女子の方が男子よりかなり高い値を示している。設問 37 では大学4年生女子の95.0%が(1)を回答しているので、設問 36 で(4)を回答した大学4年生女子の11.6%の一部は、この設問 37 の(1)を回答しているものと思われる。これらの学生は就職以外の進路を選択しているものと考えられる。卒業が近づ

くにつれて進路について真剣に考える学生の割合が高くなっているが、女子の方が男子よりも進路について真剣に考えているようである。

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
1 考えている	71.8%	78.1%	89.1%	84.6%	82.1%	83.5%	80.5%	82.1%	82.3%	80.6%	80.3%
2 考えていない	28.2%	21.5%	10.9%	15.4%	17.9%	16.5%	19.5%	17.9%	17.7%	19.4%	19.7%

	2012全体	全体女子	全体男子	2年全体	2年女子	2年男子	3年全体	3年女子	3年男子	4年全体	4年女子	4年男子
1 考えている	80.3%	80.1%	80.0%	76.5%	74.2%	79.2%	78.8%	76.0%	80.8%	91.9%	95.0%	86.4%
2 考えていない	19.7%	19.9%	20.0%	23.5%	25.8%	20.8%	21.2%	24.0%	19.2%	8.1%	5.0%	13.6%
回答数	238	136	100	115	66	48	52	25	26	62	40	22

「37で『考えている』と答えた人は、具体的に次のなかから選んでください（設問38）」では、「1)企業への就職」が64.1%でもっとも高く、次いで「2)大学院への進学」が13.9%、「3)海外の大学、語学学校への留学」が12.1%になっている。(1)については2008年度の78.4%と2010年度の56.6%を除いては60%台で推移してきており、2012年度は例年とほぼ同様の値である。(2)については、2005年度を除いて2008年度までは一桁台で推移していたが、2009年度では18.0%、2010年度では26.2%、2011年度では24.3%になり、急激に高くなった。しかし、2012年度は大幅に下がって13.9%である。日本人学生の現状では、現実的に大学院進学に向けて準備をしている学生はごくわずかしかないように思われる。大学院進学を希望する学生は留学生に多いが、(2)の値が2009年度から2011年度まで高い値を示していたのは留学生の増加が原因ではないかと思われる。2012年度は、設問1の分析で示した通り、大学2年生には40人近くの留学生の回答者が含まれているが、大学3年生、大学4年生では留学生の回答者がごく少数しかいない。2012年度では進学希望者の割合が小さくなっているのは留学生の回答者が減少したためではないかと思われる。(3)は2005年度以降10%未満で推移してきており、2010年度、2011年度は一桁台半ばであったが、2012年度はかなり値が高くなり、10%を超え2004年度に次いでこれまでで2番目に高い値になっている。(3)を回答した者はほとんどが日本人学生であると思われるが、実際に卒業後に留学する卒業生は少数であり、10人に1人以上が留学しているとは思われない。(3)を回答した学生の少なくとも一部は、企業就職が困難であるので単にモラトリアムを求めているだけなのかもしれない。

学年・男女別の回答内訳では、(1)については、大学2年生が56.3%、大学3年生が70.2%、大学4年生が77.6%になっており、大学2年生よりも大学3年生、大学4年生の値が高い。就職活動期が近づき、あるいは就職活動期を迎えて、大学3年生、大学4年生はより現実的な進路選択をしているようである。2011年度では大学2年生が59.4%、大学3年生が56.5%、大学4年生が68.0%であったので、大学3年生と大学4年生の値が高くなっているのがわかる。特に大学3年生の値が高いのは、おそらくは経済的理由で就職希望の学生が多いためであると思われる。男女間の比較では、大学2年生が女子64.3%、男子43.6%、大学3年生が女子81.0%、男子62.5%、大学4年生が女子83.7%、男子66.7%で、全学年で女子の方が男子よりも値はるかに高い。

(2)については、大学2年生が16.7%、大学3年生が14.9%、大学4年生が6.0%になっている。大学2年生、大学3年生よりも大学4年生の値がかなり低い。2011年度では大学2年生が14.6%、大学3年生が34.1%、大学4年生が22.3%であったので、大学3年生と大学4年生の値が大幅に低くなっているのがわかる。おそらくは留学生の回答者が減少したことが原因と思われる。男女間の比較では、大学2年生が女子8.9%、男子28.2%、大学3年生が女子4.8%、男子20.8%、大学4年生が女子4.7%、男子8.3%で、全学年で女子よりも男子の値が高く、特に大学2年生と大学3年生では男女の差が大きい。

(3)については、大学2年生が14.6%、大学3年生が8.5%、大学4年生が9.0%になっている。大学2年生の値が大学3年生、大学4年生よりもやや高い。大学3年生、大学4年生は自分の進路についてより真剣に考えるようになるので、現実的な進路選択をするようになるものと思われるが、就職活動期を迎えている大学4年生でも、ほぼ10人に1人が留学を考えているのは問題がある。(実現するのは非現実的である。)男女間の比較では、大学2年生が女子12.5%、男子17.9%、大学3年生が女子9.5%、男子8.3%、大学4年生が女子2.3%、男子20.8%となっている。大学2年生では女子よりも男子の値がやや高く、大学3年生では男女間の差はわずかである。大学4年生では女子よりも男子の値はるかに高い。大学4年生女子では(3)を回答したものはごく少数であるが、大学4年生男子では5人に1人が回答している。卒業生男子の5人に1人が留学することはまずありえないので、大学4年生男子には、進路を真剣に考えていない、あるいはアンケートに真剣に回答していない学生が相当数いることも考えられるが、大学4年生男子の回答者総数が24人であったため、たまたま留学を真剣に考えていた5人がアンケートに回答したのかもしれない。

設問38. 37で「考えている」と答えた人は、具体的に次のなかから選んでください

	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
1 企業への就職	62.4%	63.6%	66.7%	64.3%	65.2%	66.2%	78.4%	62.4%	56.6%	60.5%	64.1%
2 大学院への進学	5.0%	4.1%	5.1%	12.1%	7.0%	7.3%	8.6%	18.0%	26.2%	24.3%	13.9%
3 海外の大学、語学学校への留学	10.9%	10.3%	12.7%	6.1%	7.8%	8.7%	3.6%	6.7%	5.5%	4.7%	12.1%
4 家業手伝い	1.0%	0.0%	0.7%	1.0%	0.0%	0.9%	0.9%	1.2%	2.1%	2.0%	0.9%
5 その他	20.8%	22.1%	14.9%	16.6%	20.0%	16.9%	8.6%	11.8%	9.7%	8.4%	9.0%

設問38. 37で「考えている」と答えた人は、具体的に次のなかから選んでください

	2012全体	全体女子	全体男子	2年全体	2年女子	2年男子	3年全体	3年女子	3年男子	4年全体	4年女子	4年男子
1 企業への就職	64.1%	73.0%	52.1%	56.3%	64.3%	43.6%	70.2%	81.0%	62.5%	77.6%	83.7%	66.7%
2 大学院への進学	13.9%	7.1%	22.3%	16.7%	8.9%	28.2%	14.9%	4.8%	20.8%	6.0%	4.7%	8.3%
3 海外の大学、語学学校への留学	12.1%	8.7%	17.0%	14.6%	12.5%	17.9%	8.5%	9.5%	8.3%	9.0%	2.3%	20.8%
4 家業手伝い	0.9%	0.8%	1.1%	1.0%	1.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
5 その他	9.0%	10.3%	7.4%	11.5%	12.5%	10.3%	6.4%	4.8%	8.3%	7.5%	9.3%	4.2%

回答数	223	126	94	96	56	39	47	21	5	67	43	24
-----	-----	-----	----	----	----	----	----	----	---	----	----	----

「理想的な生き方はどれですか? (設問39)」では、1)仕事も家庭も大切に、社会の役に立つ」が30.3%でもっとも高く、次いで「5)健康で毎日楽しい生活を送る」が15.6%、「7)自分自身を充実させる生き方をする」が11.1%、「4)目標に向かって前進する」が10.7%になっている。(1)は2002年度を除いては例年選択肢中でもっとも高い値を示す回答で、(5)、(7)も多く、2番目または3番目に高い値を示す回答である。(1)については、年度ごとに値が高くなってきている。2011年度は2010年度よりもやや低い値になったが、2012年度は

再び高くなり、これまででもっとも高い値になっている。(5)については、2009年に22.9%であったのを除いては、これまで10%台前半から半ばで推移してきており、2012年度も例年とほぼ同様の値である。(7)は2002年度に27.1%であったが、その後年度ごとに低くなる傾向があり、2007年度以降は10%台前半の値を示す年度が多く、2012年度も例年とほぼ同様の値である。(4)は2004年度から2007年度までは10%前後の値を示していたが、2008年度から2010年度までは少し低くなり、10%未満であった。2011年度には10.8%になり、2012年度もほぼ同じ値になっている。「6)悔いのないよう、毎日を大切にす」は2007年度までは10%台前半から半ばであったが、2008年度以降は10%未満で推移している。

学年・男女別の回答内訳では、(1)については、大学2年生が27.0%、大学3年生が28.3%、大学4年生が35.8%になっており、大学2年生、大学3年生よりも大学4年生が高い値を示している。2011年度では、大学2年生が25.5%、大学3年生が20.7%、大学4年生が30.9%であったので、大学3年生と大学4年生で値が高くなっているのがわかる。男女間の比較では、大学2年生が女子22.6%、男子31.3%、大学3年生が女子20.8%、男子37.0%、大学4年生が女子37.2%、男子33.3%で、大学2年生、大学3年生では女子よりも男子の方がかなり高い値を示しているが、大学4年生では女子の方が男子よりも高い値を示している。女子では大学2年生と大学3年生の差が小さいが大学4年生は大学2年生、大学3年生よりもはるかに高い値を示している。男子では女子ほど大きな学年間の差はない。女子は大学4年生になると、卒業を前にして、就職や卒業後の生活についての意識がそれまでとは変わるのではないかと思われる。

(5)については、大学2年生が18.9%、大学3年生が11.3%、大学4年生が16.4%になっており、大学2年生、大学4年生よりも大学3年生の値がやや低い。男女間の比較では、大学2年生が女子21.0%、男子16.7%、大学3年生が女子8.3%、男子14.8%、大学4年生が女子20.9%、男子8.3%で、大学2年生と大学4年生では女子の方が男子よりも値が高く、特に大学4年生では男女間の差が10%以上である。大学3年生では女子よりも男子の値が高い。女子では、大学2年生、大学4年生よりも大学3年生の値がかなり低く、男子では大学2年生、大学3年生よりも大学4年生の値がやや低い。全体では、女子が17.8%、男子が13.2%で、男女間で意識の違いがある。女子は苦労や不安のない生活を希求する傾向があると思われる。

(7)については、大学2年生が9.0%、大学3年生が15.1%、大学4年生が13.4%になっており、大学2年生よりも大学3年生、大学4年生がやや高い値を示している。男女間の比較では、大学2年生が女子8.1%、男子10.4%、大学3年生が女子25.0%、男子7.4%、大学4年生が女子18.6%、男子4.2%で、大学2年生では女子より男子の値が高く、差は小さいが、大学3年生、大学4年生では女子の方が男子よりも値が高く大きな差がある。女子の方が男子よりも自己充足を重視する傾向があるように思われる。

(1)、(5)、(7)の結果から、4年生になると女子の方が男子よりも家族の生活を守ることや社会貢献に意識を向け、苦痛・不安のない生活を送り、自分を満足させることを重視する傾向があるように思われる。

設問39. 理想的な生き方はどれですか？											
	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
1 仕事も家庭も大切にし、社会の役に立つ	13.5%	23.4%	20.3%	20.4%	22.2%	23.7%	25.6%	27.4%	27.6%	25.9%	30.3%
2 何事にもベストを尽くす	11.3%	8.2%	8.6%	5.8%	8.3%	8.0%	10.6%	8.9%	15.8%	11.1%	8.6%
3 人間らしい自然な生き方をする	4.5%	4.9%	4.3%	5.8%	7.0%	5.6%	9.1%	6.5%	8.7%	10.5%	9.8%
4 目標に向かって前進する	7.5%	8.2%	10.3%	12.1%	9.2%	12.4%	5.9%	8.9%	7.8%	10.8%	10.7%
5 健康で毎日楽しい生活を送る	12.8%	13.5%	12.6%	17.9%	16.8%	14.1%	15.7%	22.9%	14.6%	15.4%	15.6%
6 悔いのないよう、毎日を大切にす	13.5%	14.3%	15.6%	12.7%	11.4%	16.9%	9.4%	6.8%	7.1%	6.5%	8.6%
7 自分自身を充実させる生き方をする	27.1%	19.7%	18.9%	18.5%	16.8%	13.3%	15.7%	12.0%	10.2%	12.7%	11.1%
8 自己に忠実に信念をもった生き方をする	6.8%	7.0%	8.0%	5.2%	6.0%	5.6%	6.3%	5.1%	4.7%	3.4%	1.6%
9 平凡な生き方をする	3.0%	0.8%	1.3%	1.7%	2.2%	0.4%	1.6%	1.4%	3.4%	3.7%	3.7%

設問39. 理想的な生き方はどれですか？													
	2012全体	全体女子	全体男子	2年全体	2年女子	2年男子	3年全体	3年女子	3年男子	4年全体	4年女子	4年男子	
1 仕事も家庭も大切にし、社会の役に立つ	30.3%	27.4%	34.0%	27.0%	22.6%	31.3%	28.3%	20.8%	37.0%	35.8%	37.2%	33.3%	
2 何事にもベストを尽くす	8.6%	10.4%	5.7%	9.9%	14.5%	4.2%	11.3%	12.5%	7.4%	6.0%	4.7%	9.3%	
3 人間らしい自然な生き方をする	9.8%	5.2%	16.0%	9.0%	6.5%	12.5%	7.5%	8.3%	7.4%	9.0%	0.0%	25.0%	
4 目標に向かって前進する	10.7%	10.4%	11.3%	11.7%	11.3%	12.5%	7.5%	4.2%	11.1%	9.0%	9.3%	8.3%	
5 健康で毎日楽しい生活を送る	15.6%	17.8%	13.2%	18.9%	21.0%	16.7%	11.3%	8.3%	14.8%	16.4%	20.9%	8.3%	
6 悔いのないよう、毎日を大切にす	8.6%	11.9%	3.8%	9.0%	14.5%	2.1%	9.4%	12.5%	3.7%	7.5%	7.0%	9.3%	
7 自分自身を充実させる生き方をする	11.1%	14.1%	7.5%	9.0%	8.1%	10.4%	15.1%	25.0%	7.4%	13.4%	18.6%	4.2%	
8 自己に忠実に信念をもった生き方をする	1.6%	0.7%	2.8%	0.9%	0.0%	2.1%	3.8%	4.2%	3.7%	1.5%	0.0%	4.2%	
9 平凡な生き方をする	3.7%	2.2%	5.7%	4.5%	1.6%	8.3%	5.7%	4.2%	7.4%	1.5%	2.3%	0.0%	
回答数	244	135	106	111	62	48	53	24	27	67	43	24	

Ⅱ 学習について

A. 学習一般(40～43)

「自分は学ぼうという意欲や気力があるか」という設問に対し、全体として見れば、昨年と比較すれば、「当てはまる」と答えた者が1.2ポイントの微増である。しかし、「どちらともいえない」も同様であることから、3割強の者は学習への意欲・気力が低い学生生活を送っているといえる。特に留学生は「当てはまる」と答えた者は56.0%であり、日本人学生(67.2%)よりもかなり低いといえる。

(設問 40)

設問 40. 自分は学ぼうという意欲や気力がある。(昨年度との比較)		
	2011 年度	2012 年度
当てはまる	63.7	64.9
どちらともいえない	28.4	29.3
当てはまらない	7.8	5.9
計	100	100

「自分の考えを他人に分かりやすく話すことができるか」との質問に「当てはまる」と答えた者は、昨年より1.7ポイントの微増であるが、この数値は低いといえよう。また、「どちらともいえない」と答えた者は50%弱である。興味深い点は、留学生は「あてはまる」と答えた者は43.6%であるが、日本人学生は36.2%であった。日本人学生の方が母語による表現能力及びコミュニケーション能力に自信がないといえる。卒業後、日本人学生が日本社会で生きていくという観点から、教育機関としてはこの結果を重く受け止めるべきであろう。

(設問 41)

設問 41. 自分の考えを他の人にわかりやすく話すことができる。(昨年度との比較)		
	2011 年度	2012 年度
当てはまる	36.1	37.8
どちらともいえない	44.6	47.0
当てはまらない	19.3	15.1
計	100	100

「不明なこと、理解できないことを納得できるまで追及する」との質問に「当てはまる」と答えた者は半数に達している。昨年より微増ではあるが、自ら調べ学んでいく姿勢が学生の間浸透しつつあるといえよう。

(設問 42)

設問 42. 不明なこと、理解できないことを納得できるまで追及する。(昨年度との比較)		
	2011 年度	2012 年度
当てはまる	47.0	50.0
どちらともいえない	43.8	42.9
当てはまらない	9.2	7.1
計	100	100

「他人と協力しながら学習や作業を進めることができる」という問いについても、「当てはまる」と答えた者が 1.5 ポイントの微増である。日本人学生は 66.0%ではあるが、留学生は 48.1%と低い数値である。文化的な違いが考えられるが、日本留学の良さである協調性の教育をどのように行うかが今後の課題といえよう。

(設問 43)

設問 43. 他人と協力しながら学習や作業を進めることができる。(昨年度との比較)		
	2011 年度	2012 年度
当てはまる	60.7	62.2
どちらともいえない	31.3	30.3
当てはまらない	8.0	7.6
計	100	100

B. 自己と他者(44~45)

奉仕精神を問う設問に対し、「当てはまる」と答えた者は、昨年より 4.3 ポイント減少した。「どちらともいえない」と「当てはまらない」と答えた者が半数以上である。「当てはまる」と答えた日本人学生は 46.7%、留学生は 40.7%であり、共に半数以下であり、特に留学生は低いといえる。本学の教育理念から、奉仕精神に対する意識向上のための教育が必要であろう。

(設問 44)

設問 44. 奉仕的精神を持って、人間や社会に働きかける。(昨年度との比較)		
	2011 年度	2012 年度
当てはまる	49.7	45.4
どちらともいえない	39.1	43.4
当てはまらない	11.2	11.2
計	100	100

「自己の欠点を確認し、常に改善の努力を続ける」という質問に対し、「当てはまる」と答えた者は昨年より 7.1 ポイント減少し、半数に満たなかった。また、同様の答えは、日本人学生が 49.2%、留学生が 48.1%と差は左程ない。社会は、自己を知り改善をしていく者を求めている限り、教育機関として対応をしなければならぬといえよう。

(設問 45)

設問 45. 自分の欠点を自覚し、常に改善の努力を続ける。(昨年度との比較)		
	2011 年度	2012 年度
当てはまる	56.1	49.0
どちらともいえない	35.8	42.2
当てはまらない	8.1	8.8
計	100	100

C. 知識と教養(46~52)

「幅広い知識や教養を身につけようとしている(設問 46)」に対しては「当てはまる」と答えた者は 62.5%であり、「当てはまらない」が 5.2%であった。経年変化をみると、「当てはまる」は 60%~70%を推移している。日本人学生と留学生の結果を比較すると「当てはまる」と答えた学生が日本人学生 65.2%、留学生が 52.8%であり、日本人のほうがやや高い結果となった。

設問 46. 幅広い知識や教養を身につけようとしている (全体) (%)											
年度	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
当てはまる	63.0	67.8	70.7	76.2	69.4	70.5	70.4	66.2	63.3	64.4	62.5
どちらともいえない	27.4	27.8	24.9	20.2	26.4	25.2	23.5	28.2	29.4	29.8	32.3
当てはまらない	9.6	4.5	4.4	3.6	4.1	4.3	6.2	5.6	7.3	5.7	5.2
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

設問 46. 幅広い知識や教養を身につけようとしている。(日本人・留学生別) (%)		
	日本人学生	留学生
当てはまる	65.2	52.8
どちらともいえない	30.8	37.7
当てはまらない	4.0	9.4
計	100.0	100.0

「物事を筋道立てて論理的に考察することができる(設問 47)」に対して、「当てはまる」が 37.7%、「どちらともいえない」が 46.4%、「当てはまらない」が 15.9%となり、「ど

「どちらともいえない」が最も多くなった。経年変化をみると「当てはまる」がやや増加し（2002年度から2012年度は8.6ポイント増加）、「当てはまらない」がわずかに減少しているが（2002年度から2012年度は6.5ポイント減少）、過去10年間で大きな変化はないと考えられる。日本人学生と留学生の結果を比較すると、「当てはまる」と答えた日本人学生が34.5%、留学生が49.1%と、留学生の方が14.6ポイント高い結果となった。

設問 47. 物事を筋道立てて論理的に考察することができる (%)											
年度	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
当てはまる	29.1	32.7	34.1	34.8	35.7	40.9	37.1	37.2	42.6	44.7	37.7
どちらともいえない	48.5	44.1	44.6	48.3	45.9	45.1	47.9	49.3	42.0	40.6	46.4
当てはまらない	22.4	23.3	21.3	16.9	18.5	14.0	15.1	13.5	15.5	14.7	15.9
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

設問 47. 物事を筋道立てて論理的に考察することができる（日本人・留学生別） (%)		
	日本人学生	留学生
当てはまる	34.5	49.1
どちらともいえない	49.7	34.5
当てはまらない	15.7	16.4
計	100.0	100.0

「自分の考えを文章を用いて正確に表現することができる（設問 48）」に対して、「当てはまる」が33.3%、「どちらともいえない」が47.2%、「当てはまらない」が19.4%であった。経年変化をみると「当てはまる」がわずかに増加している（2002年度から2012年度に6.4ポイント増加）一方で、「当てはまらない」9.5ポイント減少している。また日本人学生と留学生の結果に大きな差異はみられない。

設問 48. 自分の考えを文章を用いて正確に表現することができる (%)											
年度	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
当てはまる	26.9	29.4	29.6	32.0	32.8	26.1	34.5	30.7	39.2	38.8	33.3
どちらともいえない	44.8	44.1	46.5	44.7	44.9	49.1	43.8	43.4	44.9	43.3	47.2
当てはまらない	28.4	26.5	23.9	23.3	22.3	24.8	21.7	25.9	15.9	17.9	19.4
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

設問 48. 自分の考えを文章を用いて正確に表現することができる (日本人・留学生別) (%)		
	日本人学生	留学生
当てはまる	32.3	37.0
どちらともいえない	48.0	44.4
当てはまらない	19.7	18.5
計	100.0	100.0

「書物を読む習慣が身についている (設問 49)」に対して「当てはまる」が 37.1%、「どちらともいえない」が 39.0%、「当てはまらない」が 23.9%であった。経年変化をみると、「当てはまらない」は 2004 年度以降 30%以上を示し緩やかに増加傾向がある。「当てはまらない」は 2002 年度から 2012 年度には 19.4 ポイント減少しており、漸減傾向が確認できる。日本人学生と留学生の結果を比較すると、「当てはまる」にはほぼ差はないが、「どちらともいえない」は 11.6 ポイント留学生が高く、「当てはまらない」は 11.6 ポイント日本人学生が高い。

設問 49. 書物を読む習慣が身についている (%)											
年度	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
当てはまる	26.9	28.2	33.9	35.0	35.0	32.8	35.9	33.9	45.1	38.5	37.1
どちらともいえない	29.9	29.4	33.9	27.7	31.8	28.5	32.8	36.3	34.1	31.5	39.0
当てはまらない	43.3	42.4	32.2	37.3	33.1	38.7	31.3	29.8	20.8	29.9	23.9
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

設問 49. 書物を読む習慣が身についている (日本人・留学生別) (%)		
	日本人学生	留学生
当てはまる	37.1	37.0
どちらともいえない	36.5	48.1
当てはまらない	26.4	14.8
計	100.0	100.0

「すでに確立されている知見にとらわれず、自分の頭で考えることができる (設問 50)」に対して、「当てはまる」が 43.6%、「どちらともいえない」が 48.8%、「当てはまらない」が 7.6%であった。経年変化をみると、「当てはまる」が増加傾向にあり、「どちらともいえない」「当てはまらない」が減少傾向にある。日本人学生と留学生の結果を比較すると、「当てはまる」の回答に 16.5 ポイントの差があり、日本人学生よりも留学生の方が高い数値を示している。

設問 50. すでに確立されている知見にとらわれず、自分の頭で考えることができる (%)											
年度	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
当てはまる	33.3	35.1	37.7	43.8	41.1	41.5	44.0	42.8	53.7	53.7	43.6
どちらともいえない	53.3	51.8	51.2	46.6	47.8	47.9	45.2	44.5	39.7	39.7	48.8
当てはまらない	13.3	13.1	11.1	9.6	11.1	10.6	10.8	12.8	6.7	6.7	7.6
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

設問 50. すでに確立されている知見にとらわれず、自分の頭で考えることができる (日本人・留学生別) (%)		
	日本人学生	留学生
当てはまる	40.1	56.6
どちらともいえない	50.8	41.5
当てはまらない	9.1	1.9
計	100.0	100.0

「パソコンなどの新しい機械の操作や新しい技術の習得に心理的な抵抗がない(設問 51)」に対して、「当てはまる」が 55.6%、「どちらともいえない」が 32.4%、「当てはまらない」が 12.0%であった。経年変化をみると、「当てはまる」が緩やかに増加傾向にある一方で「当てはまらない」も緩やかに減少傾向にある。日本人学生と留学生の結果にも大きな差異がみられない。

設問 51. パソコンなどの新しい機械の操作や新しい技術の習得に心理的な抵抗がない (%)											
年度	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
当てはまる	47.8	59.6	58.9	60.7	58.3	60.4	58.5	54.0	61.9	53.7	55.6
どちらともいえない	32.1	24.1	27.9	26.3	28.2	24.7	26.9	30.0	28.9	39.7	32.4
当てはまらない	20.1	16.3	13.1	13.0	13.5	14.9	14.6	16.0	9.2	6.7	12.0
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

設問 51. パソコンなどの新しい機械の操作や新しい技術の習得に心理的な抵抗がない (日本人・留学生別) (%)		
	日本人学生	留学生
当てはまる	56.4	52.7
どちらともいえない	32.8	30.9
当てはまらない	10.8	16.4
計	100.0	100.0

「社会問題に関心がある(設問 52)」に対して、「当てはまる」が 52.0%、「どちらともいえない」が 40.1%、「当てはまらない」が 7.9%であった。経年変化をみると、「当ては

まる」は2008年度の65.1%をピークに漸減している。日本人学生と留学生の結果では大きな差異はみられない。

問 52. 社会問題に関心がある (%)											
年度	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
当てはまる	47.4	62.4	64.3	64.8	65.0	64.3	65.1	58.7	58.6	58.6	52.0
どちらともいえない	41.5	32.2	29.3	30.7	26.8	29.4	27.9	31.3	36.9	33.1	40.1
当てはまらない	11.1	5.3	6.4	4.5	8.3	6.4	7.0	10.1	4.5	9.0	7.9
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

設問 52. 社会問題に関心がある (日本人・留学生別) (%)		
	日本人学生	留学生
当てはまる	53.8	45.5
どちらともいえない	38.1	47.3
当てはまらない	8.1	7.3
計	100.0	100.0

D. 授業選択(53～59)

設問 53 から 59 は授業選択に関する設問である。「学問的に興味があるかないか(設問 53)」に対して、「重視する」が74.2%、「どちらともいえない」が21.4%、「重視しない」が4.4%であった。経年変化をみると、「重視する」「重視しない」がともに減少傾向にあり、「どちらでもない」が増加している。日本人学生と留学生の結果を比較すると、「重視する」が日本人学生は77.8%、留学生が61.1%となり日本人学生の数値が高くなっている。これは留学生の授業選択においては学問的関心よりもその他の要因(日本語能力など)がより強く影響を与えていることが原因かもしれない。

設問 53. 学問的に興味があるかないか (%)											
年度	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
重視する	80.0	81.6	77.8	83.9	77.7	81.2	81.9	71.7	76.7	77.5	74.2
どちらともいえない	9.6	12.2	16.5	13.5	15.6	13.2	14.3	23.4	19.5	17.7	21.4
重視しない	10.4	6.1	5.7	2.5	6.7	5.6	3.9	4.8	3.8	4.8	4.4
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

設問 53. 学問的に興味があるかないか (日本人・留学生別) (%)		
	日本人学生	留学生
重視する	77.8	61.1
どちらともいえない	18.7	31.5
重視しない	3.5	7.4
計	100.0	100.0

「課題の量の多少(設問 54)」に対しては、「重視する」が 50.4%、「どちらともいえない」が 34.0%、「重視しない」が 15.6%であり、半分以上の学生が課題の量を授業選択において考慮していることが明らかになった。経年変化をみると、「重視する」が過去 10 年間で増加傾向にあり、2002 年度と 2012 年度を比較すると 27.4 ポイント増加している。一方で「重視しない」は減少しており、2002 年度と 2012 年度の差は 16.3 ポイントで半減している。このことより年々授業選択において課題量を重視する傾向が強まっていることが確認できる。日本人学生と留学生の結果を比較すると、留学生の方が「重視する」の回答が 10.3 ポイント日本人学生より高い。

設問 54. 課題の量の多少 (%)											
年度	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
重視する	23.0	32.2	34.3	38.0	36.3	34.2	44.4	50.7	58.6	51.8	50.4
どちらともいえない	45.2	44.1	37.0	44.8	47.1	50.4	42.5	39.9	32.2	34.7	34.0
重視しない	31.9	23.7	28.6	17.2	16.6	15.4	13.1	9.4	9.2	13.5	15.6
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100	100.0

設問 54. 課題の量の多少 (日本人・留学生別) (%)		
	日本人学生	留学生
重視する	48.2	58.5
どちらともいえない	36.0	26.4
重視しない	15.7	15.1
計	100.0	100.0

「単位の取りやすさ(設問 55)」に対して、「重視する」が 63.2%、「どちらともいえない」が 24.8%、「重視しない」が 12.0%であった。経年変化をみると「重視する」が増加傾向にあり、2012 年度は 2002 年度より 21.8 ポイント高い数値になっている。一方で「重視しない」は減少傾向にあり、2012 年度の数値は 2002 年度より 11.0 ポイント下がっている。これらのことより、授業選択においては単位取得の容易さを重視する傾向が増加していることが確認できる。また、日本人学生と留学生の結果に大きな差異は見られない。

設問 55. 単位の取りやすさ											(%)
年度	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
重視する	41.4	46.5	47.1	57.3	55.1	60.0	64.1	62.2	69.6	67.2	63.2
どちらともいえない	35.3	36.3	28.8	32.3	29.6	27.2	24.7	28.5	25.3	25.7	24.8
重視しない	23.3	17.1	24.1	10.4	15.3	12.8	11.2	9.4	5.1	7.1	12.0
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

設問 55. 単位の取りやすさ (日本人・留学生別比較)			(%)
	日本人学生	留学生	
重視する	61.7	68.5	
どちらともいえない	26.0	20.4	
重視しない	12.2	11.1	
計	100.0	100.0	

「先生の成績のつけ方（出席を加味する、レポートの提出がある等）（設問 56）」に対し、「重視する」が 62.4%、「どちらともいえない」が 24.4%、「重視しない」が 13.2%であった。経年変化をみると、「重視する」が増加傾向にあり（2012 年度は 2002 年度より 19.9 ポイント増加）、「重視しない」が減少傾向にあることがわかり（2012 年度は 2002 年度より 15.9 ポイント減少）、成績のつけ方を授業選択時に重視する学生が増加していることがわかる。日本人学生と留学生の結果を比較すると、「重視する」と答えた日本人学生が 58.4%、留学生が 77.4%であり、日本人学生よりも留学生の方が授業選択においては成績のつけ方を重視していることが窺える。

設問 56. 先生の成績のつけ方（出席を加味する、レポートの提出がある等）											(%)
年度	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
重視する	42.5	53.5	49.5	57.6	58.5	51.7	60.2	63.1	73.5	66.0	62.4
どちらともいえない	28.4	29.4	25.3	27.8	30.4	31.2	29.3	25.8	21.4	22.0	24.4
重視しない	29.1	17.1	25.3	14.6	11.2	17.1	10.4	11.1	5.1	12.0	13.2
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

設問 56. 先生の成績のつけ方（出席を加味する、レポートの提出がある等）			(日本人・留学生別) (%)
	日本人学生	留学生	
重視する	58.4	77.4	
どちらともいえない	28.4	9.4	
重視しない	13.2	13.2	
計	100.0	100.0	

「時間割の都合（設問 57）」に対して、「重視する」が 78.9%、「どちらともいえない」が 16.2%、「重視しない」が 4.9%であった。経年変化をみると、「重視する」が増加傾向を示しており、2012 年度は 2002 年度より 19.9 ポイント増加している。一方で「重視しない」は減少傾向を示しており、2012 年度は 2002 年度より 15.2 ポイント減少している。過去 10 年間を通じて授業選択には時間割の都合を考慮する学生が増加していることがわかる。日本人学生と留学生の結果を比較すると、「重視する」と回答した日本人学生は 82.0%、留学生は 67.9%であり日本人学生のほうが授業選択においては時間割の都合を重視する傾向があることがわかる。

年度	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
重視する	59.0	66.5	70.6	72.2	72.2	77.6	78.9	77.4	81.4	76.4	78.9
どちらともいえない	20.9	21.2	17.2	17.6	18.6	14.5	14.5	17.7	15.0	15.4	16.2
重視しない	20.1	12.2	12.2	10.2	9.2	7.9	6.6	4.9	3.6	8.2	4.9
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

	日本人学生	留学生
重視する	82.0	67.9
どちらともいえない	14.4	22.6
重視しない	3.6	9.4
計	100.0	100.0

「将来の仕事に役に立つか（設問 58）」に対して、「重視する」が 58.9%、「どちらともいえない」が 26.8%、「重視しない」が 14.2%であった。経年変化をみると、「重視する」「どちらともいえない」「重視しない」は毎年多少の増減があるが、過去 10 年間を通じて大きな変化はみられない。日本人学生と留学生の結果を比較すると、「重視する」と答えた日本人学生が 56.5%、留学生が 67.9%であり、「重視しない」と答えた日本人学生が 16.1%、留学生が 7.5%であった。授業選択においては比較的留学生の方が日本人よりも将来の仕事との関連性を重視している割合が多いことがいえる。

年度	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
重視する	63.7	61.6	49.8	57.2	54.4	60.7	64.3	58.1	66.2	58.8	58.9
どちらともいえない	23.0	28.6	29.3	30.1	31.3	25.3	25.9	28.5	23.9	28.1	26.8
重視しない	13.3	9.8	20.9	12.7	14.3	14.0	9.8	13.4	9.8	13.1	14.2
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

設問 58. 将来の仕事に役に立つか (日本人・留学生別比較) (%)		
	日本人学生	留学生
重視する	56.5	67.9
どちらともいえない	27.5	24.5
重視しない	16.1	7.5
計	100.0	100.0

「先生の授業のやり方、教え方(設問 59)」に対して、「重視する」が 68.8%、「どちらともいえない」が 24.3%、「重視しない」が 6.9%であった。経年変化をみると、「重視する」は 2002 年度より 60~70%台を推移している。一方で「どちらともいえない」が漸増し、「重視しない」は 10%以下を推移している。日本人学生と留学生の結果に大きな差は見られない。

設問 59. 先生の授業のやり方、教え方 (%)											
年度	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
重視する	77.6	73.1	67.9	64.2	66.8	71.2	75.4	72.8	79.3	79.3	68.8
どちらともいえない	16.4	20.0	24.3	28.7	25.7	20.1	21.1	22.6	16.7	16.7	24.3
重視しない	6.0	6.9	7.8	7.0	7.5	8.7	3.5	4.6	3.9	3.9	6.9
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

設問 59. 先生の授業のやり方、教え方 (日本人・留学生別) (%)		
	日本人学生	留学生
重視する	68.6	69.8
どちらともいえない	24.7	22.6
重視しない	6.7	7.5
計	100.0	100.0

E. 受講の実態(60~66)

授業満足度に関する質問(設問 60)では、学生全体の統計において「満足している」が 4.4 ポイント減退している。2010 年度(「満足している」が 42.3%)の調査を最高値として満足度が次第に低下しており、憂慮すべき傾向である。しかし「満足していない」が 0.8 ポイント上昇にとどまったのに対し、「どちらとも言えない」の数値が 3.6 ポイント上昇しているところから推測すると、授業によって満足度の差が以前より拡大したために、全体像を判断し辛くなったのかもしれない。より詳細な調査分析が必要な個所である。日本人学生と留学生の見解に大きな差異は見られない。

設問 60. 授業には満足していますか。(学生全体：昨年度との比較)		
	2011 年度	2012 年度
満足している	37.7%	33.3%
どちらともいえない	46.2%	49.8%
満足していない	16.1%	16.9%

設問 60. 授業には満足していますか。(日本人学生・留学生別比較)		
	2012 年度日本人学生	2012 年度留学生
満足している	33.3%	33.3%
どちらともいえない	50.3%	47.9%
満足していない	16.4%	18.8%

授業に対する理解度(設問 61)は、「理解している」の割合が、2002 年度以来最高の値を示している。ただし「理解していない」がわずかながら上昇していることから、理解度の二極化が進まないよう留意せねばならない。日本人学生と留学生の見解には、明らかな差がある。留学生の「理解していない」割合が日本人学生よりも倍近く高く、原因を特定すべきである。

設問 61. 授業の内容を理解していますか。(学生全体：昨年度との比較)		
	2011 年度	2012 年度
理解している	52.3%	55.0%
どちらともいえない	41.8%	37.3%
理解していない	5.9%	7.6%

設問 61. 授業の内容を理解していますか。(日本人学生・留学生別比較)		
	2012 年度日本人学生	2012 年度留学生
理解している	58.7%	41.5%
どちらともいえない	34.7%	47.2%
理解していない	6.6%	11.3%

授業で不明な点に対してどのような対処をしているかを問うた設問 62 では、「教員に直接質問する」割合が 4.5 ポイント減少したのに対し、「参考書やインターネット、図書館等を利用して自分で調べる」が 6.5 ポイント上昇している。インターネットを介した情報収集の簡便化が反映されていると思われるが、その反面で、教員との直接的コミュニケーションの機会が少なくなっている点は問題である。日本人学生と留学生の数値を比較すると、「友人に質問して教えてもらう」割合に差異が認められる。

設問 62. 授業で不明な点はどのように解決していますか。(学生全体：昨年度との比較)		
	2011 年度	2012 年度
教員に直接質問する	41.3%	36.8%
友人に質問して教えてもらう	42.6%	41.3%
参考書やインターネット、図書館等を利用して自分で調べる	12.9%	19.4%
わからないままにしておく	3.3%	2.4%

設問 62. 授業で不明な点はどのように解決していますか。(日本人学生・留学生別比較)		
	2012 年度日本人学生	2012 年度留学生
教員に直接質問する	37.4%	34.6%
友人に質問して教えてもらう	40.5%	44.2%
参考書やインターネット、図書館等を利用して自分で調べる	19.5%	19.2%
わからないままにしておく	2.6%	1.9%

設問 63 授業の出席率は、全体的に改善傾向にある。しかし出席率 60%未満の学生が依然として多く、問題である。出席率 60%未満の割合を日本人学生と留学生で比較すると、日本人学生 33.6%、留学生 37.2%であり、両者とも同じような状況にあるものと思われる。引き続き、出席率を高める有効な対策が望まれる。

設問 63. 授業への出席率はどれくらいですか。例：80%なら⑤をマーク (学生全体：昨年度との比較)		
	2011 年度	2012 年度
20%未満	12.8%	9.0%
20%以上 40%未満	11.8%	7.8%
40%以上 60%未満	7.2%	9.8%
60%以上 80%未満	15.4%	18.8%
80%以上	52.8%	54.7%

設問 63. 授業への出席率はどれくらいですか。例：80%なら⑤をマーク (日本人学生・留学生別比較)		
	2012 年度日本人学生	2012 年度留学生
20%未満	17.7%	13.7%
20%以上 40%未満	8.2%	5.9%
40%以上 60%未満	7.7%	17.6%
60%以上 80%未満	19.6%	15.7
80%以上	56.7%	47.1%

では授業を欠席する原因は何だろうか(設問 64)。授業の難易度や学習意欲、病気が原因となっているケースは減少しているが、「朝寝坊」と「その他」の数値が上昇している。な

ぜ欠席するのか、その理由が自分でも特定できないケースが増えているのは、大変由々しき事態である。特にこの傾向は、日本人学生に顕著にみられる。「病気」や「朝寝坊」は、睡眠不足や生活時間の乱れが主因となっているのであろうが、いずれにせよ、大学生活の中心は授業であり、授業に欠かさず出席しなければならない、という意識が低いのではないか。日本人学生の「その他」の内訳を分析するとともに、「朝寝坊」の防止策など基本的な生活態度の改善が必要である。また、留学生において「授業の内容がやさしすぎるから」の解答が非常に多いことも看過できない。授業レベルの設定に改善が必要ではないか。

設問 64. あなたが授業を欠席する主な理由は何ですか。（学生全体：昨年度との比較）		
	2011 年度	2012 年度
授業の内容が難しすぎるから	12.3%	8.0%
授業の内容がやさしすぎるから	11.6%	8.4%
学ぶ意欲がわからないから	15.1%	13.9%
病気のため	28.8%	24.8%
アルバイトが忙しいから	3.1%	3.4%
朝寝坊のため	22.6%	26.5%
その他	6.5%	15.1%

設問 64. あなたが授業を欠席する主な理由は何ですか。（日本人学生・留学生別比較）		
	2012 年度日本人学生	2012 年度留学生
授業の内容が難しすぎるから	7.5%	9.8%
授業の内容がやさしすぎるから	5.3%	19.6%
学ぶ意欲がわからないから	13.4%	13.9%
病気のため	24.6%	15.7%
アルバイトが忙しいから	2.1%	7.8%
朝寝坊のため	32.1%	15.7%
その他	15.5%	0.0%

自宅学習の時間（設問 65）は、昨年 2012 年度に減少したが、今年度はやや回復した。2002 年度からの統計数値と比較しても、比較的良好な結果と判断される。この設問に関しては、日本人学生と留学生との間に大きな差異が認められる。すなわち 2 時間以上自主学習を行っている割合が、日本人学生が 1 割程度に対して、留学生は約 3 割に上る。学習時間が長いほど良いというわけではないが、設問 64 の結果と考え合わせると、日本人学生において学習習慣の未定着と生活リズムの乱れが推測されよう。ともかく「朝寝坊」の多さと自主（家庭）学習の長さの間には、因果関係が認められない。日本人学生が学習以外に多くのエネルギーを浪費しているのであれば、課題を増やすなど、より積極的に学習時間を増やす工夫を凝らし、学習中心の生活に改めねばならない。

設問 65. 自由時間には、1日どれくらい勉強していますか。例=2時間なら④をマーク（学生全体：昨年度との比較）		
	2011年度	2012年度
0時間	18.2%	13.8%
1時間未満	35.4%	36.4%
1時間以上2時間未満	30.5%	36.4%
2時間以上3時間未満	12.3%	8.9%
3時間以上	3.6%	4.5%

設問 65. 自由時間には、1日どれくらい勉強していますか。例=2時間なら④をマーク（日本人学生・留学生別比較）		
	2012年度日本人学生	2012年度留学生
0時間	13.3%	15.4%
1時間未満	39.5%	25.0%
1時間以上2時間未満	37.9%	30.8%
2時間以上3時間未満	6.2%	19.2%
3時間以上	3.1%	9.6%

自主学習の内容を問うた設問 66 では「授業の予習復習だけ」と答えた学生が最も多く、昨年度と比べても 2.8 ポイント増加している。また「授業のための自主的な勉強」も同じく 5.1 ポイント増加しており、授業対策を中心とした学習の傾向が強まっている。大学で提供される授業が自主学習の指針を与えているとするならば、肯定的に評価すべき結果であろう。しかし仮に学生が「予習復習」に追われている、あるいは「予習復習」のみで満足しているのであれば、自主学習の指導が必要になると思われる。自主学習においては、授業で学習することを十分に理解し、定着させるのが主眼であるが、もう一段高度な学習態度、すなわち授業で学んだ／学ぶ事柄をそれぞれが自分の視点でとらえなおし、敷衍応用する積極性も大学教育においては重要ではないか。「資格や将来のための自主的な勉強」の割合が減少しているところにも、学生の受動的姿勢が伺える。昨今の厳しい就職事情に鑑みて、貪欲にスキルアップを図る意欲は不可欠である。日本人学生、留学生とも、何のために学習しているのかを自覚させることで、積極的自主学習への意欲を掻き立てねばならない。

設問 66. 自由時間には、どのようなことを主に勉強していますか。（学生全体：昨年度との比較）		
	2011年度	2012年度
授業の予習復習だけ	37.4%	40.2%
資格や将来のための自主的な勉強	33.8%	28.9%
授業のための自主的な勉強	9.5%	14.6%
授業のためとそれ以外の自主的な勉強	12.8%	13.4%
その他	6.6%	2.8%

設問 66. 自由時間には、どのようなことを主に勉強していますか。（日本人学生・留学生別比較）		
	2012 年度日本人学生	2012 年度留学生
授業の予習復習だけ	41.5%	35.8%
資格や将来のための自主的な勉強	29.0%	28.3%
授業のための自主的な勉強	13.5%	18.9%
授業のためとそれ以外の自主的な勉強	14.5%	9.4%
その他	1.6%	9.6%

F. コース選択(67～71)

学生が所属しているコースの授業の満足度は、2010 年度から減退し続けている。設問 67 で「当てはまる」と答えた学生が毎年約 5 ポイントずつ減っており、由々しき事態である。しかし「当てはまらない」の増加がわずか 1.3 ポイントであることから、興味・関心と授業内容のミスマッチを、学生が明確かつ具体的に意識しているとは考えられない。一方「どちらともいえない」の回答は 2002 年以来最高値を示している。これらの要素を考え合わせると、学生の学習目的が不明確になってきたことが、コース選択の満足度が低下した主因と推測される。したがって、授業が学生の要求に応えられていないというよりも、授業への期待値が低下していることのほうが問題なのではないか。

なお日本人学生と留学生の間に有意差は認められない。

設問 67. コースの授業は自分の興味・関心にあっている。（全学生：昨年度との比較）		
	2011 年度	2012 年度
当てはまる	69.2%	64.9%
どちらともいえない	25.2%	28.2%
当てはまらない	5.6%	6.9%

設問 67. コースの授業は自分の興味・関心にあっている。（日本人学生・留学生別比較）		
	2012 年度日本人学生	2012 年度留学生
当てはまる	64.9%	64.8%
どちらともいえない	27.8%	29.6%
当てはまらない	7.2%	5.6%

コース選択の満足度は、自分の能力を生かすことができるかという設問 68 と密接に関わる。この問いにおいても設問 67 と同様の傾向が認められ、2010 年度以降、「当てはまる」の回答が著しく減少していると同時に、「どちらとも言えない」が急増している。この数値変動と比するに、「当てはまらない」の変動はわずかであり、しかも本年度は 2.7 ポイント

減少している。この問いにおける日本人学生と留学生との意識の差異はきわめて示唆的である。両者の「当てはまる」と「どちらとも言えない」の割合は正反対なのだが、これは「自分の能力」が何かを把握していない日本人学生が多いことを表しているのではないか。学生全体の統計において「当てはまる」が減少したのは、日本人学生において自己認識が薄れてきたことに起因していると思われる。

設問 68. 自分の能力を生かすことができる。(全学生：昨年度との比較)		
	2011 年度	2012 年度
当てはまる	53.9%	43.3%
どちらともいえない	36.8%	50.2%
当てはまらない	9.2%	6.5%

設問 68. 自分の能力を生かすことができる。(日本人学生・留学生別比較)		
	2012 年度日本人学生	2012 年度留学生
当てはまる	37.8%	64.7%
どちらともいえない	55.6%	29.4%
当てはまらない	6.6%	5.9%

ただし自己認識が希薄化した現象は、学生ばかりに責がある問題ではないのではないかと。つまり現在の社会状況を背景としている可能性も否定できない。設問 69「希望する職業につくことにむすびつきそうである」を見ると、ここでも設問 67、68 と同じく「当てはまる」と「当てはまらない」が減少し、「どちらとも言えない」が増加している。この結果が示しているのは、学生が、大学での学習と就職との因果関係を見いだせていない、ということである。つまり将来自分がどのような職を得て、どのような人物となるのかが、現在の大学生活からは見えてこないのである。自分の将来像が捉えづらい状況にあることが、現在における自己の認識を困難にしているのではないかと。将来設計が不確実であれば、学習目的を見いだすことも、やはり難しい。

現実として、大学の授業に勤勉に取り組むことが、希望の職に就くことと直結しているとは言いがたい。大学の授業とはある程度切り離されたかたちで就職活動を行わねばならないのであるから、大学での学問、特に文科系、教養系の学問が将来の職業に結びつくかと問われれば、「どちらとも言えない」と答えるのはむしろ好意的である。大学が単なる就職予備校ではない限り、就職ばかりに照準をあわせて授業構成を行うのはナンセンスであるが、すべての授業においてそのポリシーをはっきりと提示し、大学での学びの意義を学生に認識させるひつようがあるだろう。また積極的なアプローチで、自分に何が向いているのか、何に興味があるのかを自覚させるプロセスも、効果的な大学生活と将来設計を実現するために不可欠と思われる。

設問 69. 希望する職業につくことにむすびつきそうである。(全学生：昨年度との比較)		
	2011 年度	2012 年度
当てはまる	50.0%	43.9%
どちらともいえない	36.3%	45.1%
当てはまらない	13.7%	11.0%

設問 69. 希望する職業につくことにむすびつきそうである。(日本人学生・留学生別比較)		
	2012 年度日本人学生	2012 年度留学生
当てはまる	43.0%	47.2%
どちらともいえない	43.5%	50.9%
当てはまらない	13.3%	1.9%

コースの先生と気が合うかどうかという設問に対して(設問 69)、「当てはまる」と答えた学生は昨年度比で 4.1 ポイント減少しているものの、「当てはまらない」微増にとどまっている。「どちらとも言えない」はここでもやはり、各教員に対する評価が不均質であることを示しているのであろう。今後は、「当てはまらない」の割合が増加しないよう、教員と学生のコミュニケーションをはかる体制を組織的に構築せねばならないだろう。

設問 70. そのコースの先生方と気が合う。(全学生：昨年度との比較)		
	2011 年度	2012 年度
当てはまる	48.0%	43.9%
どちらともいえない	42.2%	46.3%
当てはまらない	9.6%	9.8%

設問 70. そのコースの先生方と気が合う。(日本人学生・留学生別比較)		
	2012 年度日本人学生	2012 年度留学生
当てはまる	40.9%	54.7%
どちらともいえない	48.7%	37.7%
当てはまらない	10.4%	7.5%

クラスメートと気が合うかどうかという設問に対しては(設問 71)、「当てはまる」と答えた学生が 2010 年度から減少傾向にある(今年度は 6.6 ポイント減)。逆に「当てはまらない」が 3.1 ポイント増加、特に日本人学生の数値が高いことが気になる。授業内外でのコミュニケーションが希薄化することは、外国語大学という我が校の特質に鑑みて大変問題である。「どちらとも言えない」の回答は、決まった学生同士での付き合いばかりで、広く不特定多数の学生との付き合いが少ないことを示しているであろうか。個人としての自立と、仲間とのコラボレーションを促す教育で、切磋琢磨できる人間関係を醸成してゆきたい。

設問 71. クラスメート達と気が合う。(全学生：昨年度との比較)		
	2011 年度	2012 年度
当てはまる	61.8%	55.2%
どちらともいえない	32.4%	36.0%
当てはまらない	5.7%	8.8%

設問 71. クラスメート達と気が合う。(日本人学生・留学生別比較)		
	2012 年度日本人学生	2012 年度留学生
当てはまる	55.3%	54.9%
どちらともいえない	35.1%	39.2%
当てはまらない	9.6%	5.9%

III 学生生活と学習について（自由回答）

設問 72: 学生生活と学習について感じる事があれば、別途記述欄に自由に書いてください。

設問 72 は、選択肢から回答を選ぶ形式では把握しにくい問題点や意見・要望を自由に記述させることで把握しようとするものである。

以下は「I 各年度別回答数統計表」「II 要望等の特性」の 2 点についての分析である。

A 各年度別回答数統計表

1. アンケート対象者と回答総数の変化

この表は 2002～2011 年度の回答総数と、それを内容別に項目分けした回答数である。

年度 項目等	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
回答総数 (項目別回答数)	10	51	55	46	46	10	20	45	75	66	57
大学設備について	3	13	8	10	15	4	8	12	27	25	21
食堂・売店について	2	5	5	5	5	1	2	5	8	11	15
通学について	0	3	5	4	1	1	1	2	5	11	4
単位・授業について	4	24	28	16	10	2	5	11	9	14	7
進路について	1	1	4	2	0	0	1	1	2	0	0
その他	0	5	5	9	13	2	3	11	23	5	8
アンペロス寮について					2	0	0	3	1	0	2

2002 年度の回答総数が少ないのは、開学 2 年目で対象者が 2 年生のみであったためである。2003 年度は 2・3 年生が対象、2～4 年生がアンケートの対象となったのは 2004 年度以降である。また 2006 年度以降、寮についての項目を独立させたのは、その年度からアンペロス寮が本学直営となったからである。

2007 年度まで減少した回答総数が 2008 年度以降は増加に転じていたが、昨年度にやや減り、今年度も若干下がった。今年度は昨年度に比べて回答者の総数が減ったことが影響しているものと思われる。

2. 項目別回答に見られる傾向

全体として見て今年度の回答で目立つのは、「大学設備」、「食堂・売店」、と「単位・授業」であり、これは例年常に多い項目である。設備の充実や食堂・売店の充実は、学生満足度向上のために常に大学側としては意識して対応に努めねばならない。また、単位・授業

についての要望も大学教育の改善のために真摯に取り組まねばならない項目である。これらについてはこれまで対応できたところもあるが、依然として不十分な部分も目立つ。学生たちは具体的な改善がなければ、要望を出しても大学は聞いてくれないと失望する恐れがあるので、個々の回答を吟味し、誠実に答えていく必要がある。一方、「進路について」と「アンペロス寮」の回答数が依然少ない水準である。これは別のアンケートなどで要望が寄せられているのかもしれない。

日本人全体と留学生全体を分けてみると、「大学設備」、「食堂・売店」、「単位・授業」についてはどちらでも多くの要望が出ていて、内容にも大きな違いはない。一步、「通学」については、留学生の方に要望がより多く出ている。これは経済的な事情により無料スクールバスの増便を求める留学生が多いことによるものと思われる。留学生にとって通学にかかる費用は積算すれば馬鹿にならない額なので、この点でもバスの増便等、何らかの対策が求められる。

B. 要望等の特性(項目別回答内容の分析)

1. 学内の施設について

(1) コミュニティラウンジ

コミュニティラウンジは完成してまだ一年と日が浅いせいも、その位置づけについて見解の相違が見られるようである。「うるさい」という意見がある一方で「テレビを設置してもらいたい」という意見があった。前者はおそらく飲食可能な学習スペースとしてラウンジを活用している学生の意見と思われる。また、友人同士で話しながら学習をすることも可能であることから、こうした活用の事例は少なくないようである。後者は友人同士で同じ番組を見て盛り上がりたいという気持ちの表れであろうか。周りに気を使わずに湯人たちと賑やかに過ごすことのできる場所をキャンパスに求めているのかもしれない。

いずれにせよ、オリエンテーションなどを通じてラウンジの活用法およびルールについて周知を繰り返していく必要があると思われる。また、学生にラウンジの意義や使い方についていつでも説明できるよう、教職員全員がラウンジの使い方についての統一した見解を共有しておく必要もあろう。

(2) トイレ

設問 28 にあるように、回答者のおよそ 1/4 が改善を望んでいる施設である(ただし、この設問が複数回答可であった場合にはこの数値は更に増えることが予想される)。意見を要約すると「暗さの改善、狭さの改善、カーテンではなくドアの設置、温水洗浄便座の設置、暖房便座の設置、音姫の設置」である。これらは数年にわたって継続して提出されている意見であるので、早急に何らかの対策を行う必要がある。また、オープンキャンパスや公開講座、教員免許更新研修などで外部から本学に訪れる人が増えていることをふまえても、トイレ

レの改築は要検討事項ではないだろうか。日本の施設において、トイレが施設全体のイメージに与える影響の大きさは周知の通りである。

(3)教室

机と椅子の経年劣化を指摘する意見があったが、これは今年度末に予定通り改修されれば解消されるであろう。

「パソコン室」（具体的な部屋番号は未記載）の速度が遅いこと、および不具合が多く授業の履修や課題の提出などに支障が出ていることが指摘されている。教室によっては新しいパソコンを設置しているところもあるので、特に支障がない場合は、優先的に新機種を導入している部屋を活用するといった対応が必要であろう。

(4)サークル関連

慢性的な部屋不足は本学の課題の一つであると思われるが、部室を増やして欲しいとの意見が見られた。また、体育館の使用制限の緩和とグラウンドの器具の充実についても一件ずつ意見があった。一度、実働しているサークルについて調査し、体育館や部室の再割り当てや、クラブハウス増設の有無について検討した方がいいかもしれない。仮にプレハブであっても、部室があることで学生の満足度は上昇すると思われる。

(5)ライブラリー

開館時間延長の要望が一件寄せられた。本学の交通事情などを考えると社会人学生の可能性が高いと思われるが、少数意見として無視せず、利用実績などを反映しての開館時間であるということを、オリエンテーションなどで繰り返し説明しておく必要があるのではないだろうか。また「高周波がうるさい」という意見もあったが詳細は不明である。

(6)その他

以下、3点の設備の設置について要望が出ている。

①浄水器（冷水、お湯）、ポット、電子レンジ

②カフェ

③証明写真撮影機

①は食堂およびコミュニティラウンジへの設置を検討してもいいのではないだろうか。また、ポットや電子レンジは売店に既設済みと思われるが、レジカウンターに設置されていること、営業時間外は使えないことから学生が使いづらさを感じていると思われる。誰でもいつでも使えるように配置を工夫することで改善されるのではないだろうか。

②は、NGO サークル「NEST」が試験的に実施したので、その成果をもとに継続性について判断すべきと思われる。ニーズがどの程度あるのかは自由意見からは判断できない。

③の意見は「語学などの検定を受ける機会が多いので、写真を撮る場所があればいいと思う」というもの。まったくその通りであり、他大学でも置いているケースが多いので、すぐに導入を検討してもよいのではないだろうか。他に、分煙の徹底についての要望もあった。

2. 食堂・売店について

(1) 食堂

設問 28 でもっとも多く多くの学生（34.8%）が改善を要求している施設であり、毎年の様に不満がでているので、そろそろ不満の原因を詳細に分析し抜本的な改革を行う必要があるのではないだろうか。自由回答に学生からの具体的な指摘があまりなかったのが残念であるが、「定食が 12:30 より前になくなる場合がある」といった点はすぐに改善できるはずである。毎年のように営業時間についても意見が出ている（具体的にいつの期間、何時までという要望は書かれていない）ので、試験的に営業時間を延長してみる、集中講義の日にも営業してみる、昼食時間帯以外はカフェメニューを提供してみる、など、何らかのアクションが必要ではないだろうか。他大学の例も参考にしながら、多くの学生が通いたくなる食堂にすべく鋭意努力をしていくべきと思われる。

(2) 売店

設問 28 で、食堂、トイレについて改善の要望が多い（20.6%）施設である。値段が高いため生協の導入を望む声がある他、品揃えが少ないこと、営業時間が短いことへの不満が挙げられている。本学は立地上、交通手段をもたない学生は食堂か売店を利用せざるを得ないということを鑑みれば、食堂と同様に、学生の満足度をあげていくよう改善していく必要があるだろう。

3. 通学について

例年に引き続き、バスの本数の増加に対する要望が中心である。スクールバスの適正時間帯の検証、長崎バスとの交渉など、継続課題である。

4. 単位・授業について

(1) 単位について

「英語は検定の合格で単位がもらえるのに、他の言語ではもらえないのはおかしい」という意見があった。自由記述として寄せられたのは一件だけであるが、複数の学生が同様の考えをもっている可能性もあるので、各専修言語で、なぜ単位認定をしないのか（あるいは、なぜ英語は単位認定を行っているのか）普段からしっかりと説明しておく必要があるかもしれない。

(2) 授業について

「日本について留学生と共に勉強したい」という意見があった。現在もそういった授業は存在していると思われるので、シラバスで「留学生と共に日本について勉強する」ことを強調するなどした方がいいかもしれない。また、カリキュラム上問題がないのであれば、留学生向けの科目を日本人学生に履修させることを考えてもいいかもしれない。

一部の授業について、学生の発言の機会をもっと増やして欲しいという意見があった。授業にはそれぞれ目的があり、それに合致したやり方があるので、一概に学生の発言を増やせばいいとはいえないが、教員側が授業の精錬を行うことはもちろん、学生側にもその授業がどういった意図でなされていて自身がどのように学べばいいのかといった主体的な動機付けをさせる練習を初年次から繰り返していくことが重要であると思われる。教員、学生ともに授業へのリテラシーを高めていけばこうした意見は減っていくであろう。

時間割の決定を早くして欲しいという意見がいくつかあったが、これはおそらく社会人学生（もしくは仕事をもつ学生）が仕事との関係上、早い通知を望んでいたものと思われる。社会人学生が増加していることから今後もこうしたニーズは増加することが予想されるが、一方で早期に時間割を確定させることにも困難があるので、例えば「仮の時間割」という条件付きで、2月末くらいから学生課で閲覧を可能にするなど、個別対応をしてはどうだろうか。

5. 進路について

今年度の自由記述には、進路に対する記述がなかった。

6. アンペロス寮について

(1)アンペロス

「家が遠いので、アンペロスに住まわせて欲しい」という意見があった。こうしたニーズに柔軟に応えられるよう、適宜（もしくは学期ごとに）入居者を募集してはどうか。

施設については、自由記述上ではインターネットの遅さ以外に特に意見はなかったが、引き続き住みよい環境整備につとめていく必要があるだろう。

(2)男子寮

「ベッドや机が欲しい」という意見があった。男子寮のことと思われるが、机がないことは大学の寮として致命的な欠陥である。早急の実態調査と改善が必要である。

7. その他

留学生から学費の減免制度が厳しすぎる、との意見が複数寄せられている。これはここ数年継続して寄せられている意見なので、制度の妥当性を判断した上で、改善するか現序の基準を維持するか（維持する場合はなぜその基準なのか説明責任を果たす）決定する必要があるだろう。施設全般への不満からか、予算の使われ方について疑義を示す意見もあったが、改善すべき点の優先順位を間違わずに改善を行い、学生の意見に対して一つ一つ地道に対応していけば、全体の満足度は向上していくのではないと思われる。

参考資料

2012 年度 <長崎外国語大学> 学生意識調査《学生全体》

2012 年 4 月実施

(回答の数字は%)

アンケートの対象となる人数：495 名 回答者数:258 名 回答率 52.1%

I 学生生活について

1	あなたは日本人学生ですか？それとも海外からの留学生ですか？	日本人学生 78.7 留学生 21.3
2	あなたは現在、大学何年生ですか？	大学2年生 46.5 大学3年生 21.3 大学4年生 26.7 大学1年生 5.4
3	あなたの性別は？	女性 57.1 男性 42.9
4	あなたは大学生生活に満足していますか？	満足 16.7 まあまあ満足 29.1 普通 35.7 あまり満足していない 12.4 満足していない 6.2
5	大学生生活全般について、あなたが高校時代に期待していたとおりにですか？	期待どおりです 10.1 まあまあ期待どおりです 41.5 あまり期待どおりではない 29.5 期待していたのと全然違う 12.8 特に何も期待していなかった 6.2
6	大学生になって良かったと思いますか？	良かったと思います 54.3 まあまあ良かったと思う 22.3 普通です 16.8 あまり良くなかったと思う 3.9 わからない 2.7
7	大学生生活の目的を主として何にしていますか？	豊かな教養を身につけ人格を高める 28.2 専門的な知識を習得する 31.8 真の友達を得る 1.6 学生生活を通じて青春をエンジョイする 12.2 資格を取り将来就職に役立てたい 22.7 特にありません 3.5

8	今一番打ち込んでいるものは、何ですか？	大学の授業や課題 33.2 大学のクラブ活動 14.1 自分の趣味 24.2 アルバイト 10.9 恋愛 3.1 特になし 14.5
9	学生生活の中で一番困っていることは何ですか？	友人関係がうまくいかない 5.0 将来の見通しがたたない 34.5 やりたいことが自由にできない 7.8 やりたいことがない 7.0 大学の授業が面白くない 9.7 経済的な問題 18.2 特になし 17.8
10	現在抱えている悩みや不安は何ですか？	これからの進路について 45.0 健康上のこと 4.7 勉学上のこと 14.3 自分の性格のこと 4.3 金銭上のこと 15.9 友人関係 1.2 いじめにあっている 1.6 生活環境 1.6 特になし 11.6
11	悩みがあったら誰に相談しますか？	家族 31.5 同性の友達 42.8 異性の友達 7.0 先輩 4.3 アドバイザーの先生 1.9 アドバイザー以外の先生 1.6 個人的な悩みを相談する人がいない 10.9
12	学内のカウンセリングルームについて	行ったことがある 9.5 行ってみたいと思ったことがある 14.6 存在を知らなかった 17.8 行かない 58.1
13	10で「行かない」と答えた人は、行かない理由を選んで下さい	必要がない 62.8 場所が悪い 3.8 時間帯が悪い 6.0 行っていることを他の人に知られたくない 4.4 カウンセリングについて、よくわからない 23.0
14	クラス・アドバイザーにはどういうことを相談していいと思いますか？	学業に関することのみ 12.5 学業に関することや、卒業後の進路の問題 35.0 学業、卒業後の進路、個人的な悩みなどどのようなことでも相談してよい 32.7% 何を相談していいのかわからない 19.8

15	あなたのアドバイザーとどの程度話をしていますか？	頻繁に話をしている 10.2 時々話をしている 22.8 相談事があるときだけ話をしている 22.8 授業以外では全く話をしていない 20.5 全く話したことがない 23.6
16	今までにアドバイザーと全く話しをしたことがない人だけ答えてください。なぜ、今までアドバイザーと全く話しをしたことがないのですか？	話したいと思うが機会がない 28.0 自分が消極的なため機会はあるが話すことができない 20.3 話したいと思うがアドバイザーが相談にのってくれそうにない 16.1 特に話す必要がない 35.6
17	あなたはたばこを吸いますか？	はい 19.4 いいえ 80.6
18	本学の喫煙場所についてどう思いますか？	このままでいいと思う 48.8 全館禁煙にすべきだと思う 30.6 よくわからない 20.6
19	通学時間はどのくらいですか？	5分以内 7.9 15分以内 37.5 30分以内 29.2 約1時間 17.0 1時間以上 8.3
20	通学手段は次のうちどれですか？	徒歩 29.0 バス 39.6 JRとバス 4.2 電車とバス 4.8 自家用車 5.7 バイク 11.8 自転車 4.8
21	自家用、または、バイクで通学している人への質問です。自家用車やバイクで通学をする場合、学校から許可を受けなければいけません。あなたは、許可を受けていますか？	受けている 34.9 知らなかったので受けていない 32.6 知っていたが、許可は受けていない 32.6
22	勉強をしていない時は、自由時間をどのように過ごしていますか？	なにもせず、ただボーッと過ごしている 3.2 テレビをみる 16.5 スポーツ 6.0 友達とおしゃべりをしたり、外出したりしている 25.3 授業に関係のない本を読む 4.0 寝ている 6.8 アルバイトをしている 24.5 デートをしている 1.6 その他 12.0
23	アルバイトをしていますか？	はい 62.4 いいえ 37.6

24	週にどのくらいアルバイトをしていますか？	毎日授業が終わって 9.8 週に3、4日授業が終わって 56.9 週末のみ 23.6 夜間のみ毎日 2.9 夜間のみ3、4日 3.4 夜間のみ1、2日 3.4
25	現在あなたがしているアルバイトの職種は次のうちどれにあたりますか？	ファーストフード店での販売 9.8 ウエートレス、ウエーター 25.3 コンビニ、スーパーやデパートでの販売、レジ係り 22.4 その他の販売 16.7 家庭教師又は塾の講師 2.9 軽作業 4.6 事務 2.3 夜間のコンビニエンスストア 0.0 夜間の飲食店（居酒屋、スナック等を含む） 16.1
26	アルバイトが原因で授業を休んだことがありますか？	たびたびある 10.4 時々ある 14.3 めったにない 25.8 一度もない 49.5
27	なぜアルバイトをしているのですか？	生活費の補助にするため 54.8 欲しいものを買うため 12.4 将来の夢のため 10.2 社会勉強のため 13.6 友達をつくるため 0.6 レジャーや旅行のため 6.2 別に理由はない 2.3
28	学内の施設で改善して欲しいものがありますか？	ラウンジ 3.9 食堂 34.8 トイレ 25.8 図書館 5.2 メディアセンター 2.1 教室 3.0 売店 20.6 その他 4.7
29	図書館はどのくらいの頻度で利用しますか？	ほとんど毎日利用する 24.6 週に数度は利用する 34.8 週に1、2度は利用する 17.6 たまに利用する 16.8 めったに利用しない 5.9 行ったことがない 0.4
30	図書館では何をすることが一番多いですか？	図書の閲覧、貸し出し、読書 27.6 予習、復習 54.3 新聞、雑誌などを閲覧する 7.5 ビデオをみる 3.1 その他 7.5

39	理想的な生き方はどれですか？	仕事も家庭も大切にし、社会の役に立つ 30.3 何事にもベストを尽くす 8.6 人間らしい自然な生き方をする 9.8 目標に向かって前進する 10.7 健康で毎日楽しい生活を送る 15.6 悔いのないよう、毎日を大切にする 8.6 自分自身を充実させる生き方をする 11.1 自己に忠実に信念をもった生き方をする 1.6 平凡な生き方をする 3.7
----	----------------	--

II 学習について

大学生として学業に取り組む上で必要と思われる資質について、今のあなたに当てはまるかどうか回答してください

40	自分は学ぼうという意欲や気力がある。	当てはまる 64.9 どちらともいえない 29.3 当てはまらない 5.9
41	自分の考えを他の人にわかりやすく話すことができる	当てはまる 37.8 どちらともいえない 47.0 当てはまらない 15.1
42	不明なこと、理解できないことを納得できるまで追及する	当てはまる 50.0 どちらともいえない 42.9 当てはまらない 7.1
43	他人と協力しながら学習や作業を進めることができる	当てはまる 62.2 どちらともいえない 30.3 当てはまらない 7.6
44	奉仕的精神を持って、人間や社会に働きかける	当てはまる 45.4 どちらともいえない 43.4 当てはまらない 11.2
45	自分の欠点を自覚し、常に改善の努力を続ける	当てはまる 49.0 どちらともいえない 42.2 当てはまらない 8.8
46	幅広い知識や教養を身につけようとしている	当てはまる 62.5 どちらともいえない 32.3 当てはまらない 5.2
47	物事を筋道立てて論理的に考察することができる	当てはまる 37.7 どちらともいえない 46.4 当てはまらない 15.9
48	自分の考えを文章を用いて正確に表現することができる	当てはまる 33.3 どちらともいえない 47.2 当てはまらない 19.4
49	書物を読む習慣が身につけている	当てはまる 37.1 どちらともいえない 39.0 当てはまらない 23.9

50	すでに確立されている知見にとらわれず、自分の頭で考えることができる	当てはまる 43.6 どちらともいえない 48.8 当てはまらない 7.6
51	パソコンなどの新しい機械の操作や新しい技術の習得に心理的な抵抗がない	当てはまる 55.6 どちらともいえない 32.4 当てはまらない 12.0
52	社会問題に関心がある	当てはまる 52.0 どちらともいえない 40.1 当てはまらない 7.9

あなたが授業を選択するとき、重視することについて回答してください

53	学問的に興味があるかないか	重視する 74.2 どちらともいえない 21.4 重視しない 4.4
54	課題の量の多少	重視する 50.4 どちらともいえない 34.0 重視しない 15.6
55	単位の取りやすさ	重視する 63.2 どちらともいえない 24.8 重視しない 12.0
56	先生の成績のつけ方（出席を加味する、レポートの提出がある等）	重視する 62.4 どちらともいえない 24.4 重視しない 13.2
57	時間割の都合	重視する 78.9 どちらともいえない 16.2 重視しない 4.9
58	将来の仕事に役に立つか	重視する 58.9 どちらともいえない 26.8 重視しない 14.2
59	先生の授業のやり方、教え方	重視する 68.8 どちらともいえない 24.3 重視しない 6.9

以下は大学での勉学に関する質問です。授業についての質問は特定の授業ではなく、授業全部をイメージして答えてください

60	授業には満足していますか	満足している 33.3 どちらともいえない 49.8 満足していない 16.9
61	授業の内容を理解していますか	理解している 55.0 どちらともいえない 37.3 理解していない 7.6
62	授業で不明な点はどのように解決していますか	教員に直接質問する 36.8 友人に質問して教えてもらう 41.3 参考書やインターネット、図書館等を利用して自分で調べる 19.4 わからないままにしておく 2.4

63	授業への出席率はどれくらいですか。(例：80%なら⑤をマーク)	20%未満 9.0 20%以上40%未満 7.8 40%以上60%未満 9.8 60%以上80%未満 18.8 80%以上 54.7
64	あなたが授業を欠席する主な理由は何ですか	授業の内容が難しすぎるから 8.0 授業の内容がやさしすぎるから 8.4 学ぶ意欲がわからないから 13.9 病気のため 24.8 アルバイトが忙しいから 3.4 朝寝坊のため 26.5 その他 15.1
65	自由時間には、1日どれくらい勉強していますか。(例：2時間なら④をマーク)	0時間 13.8 1時間未満 36.4 1時間以上2時間未満 36.4 2時間以上3時間未満 8.9 3時間以上 4.5
66	自由時間には、どのようなことを主に勉強していますか	授業の予習復習だけ 40.2 資格や将来のための自主的な勉強 28.9 授業のための自主的な勉強 14.6 授業のためとそれ以外の自主的な勉強 13.4 その他 2.8

コースを選んだ理由について教えてください

67	コースの授業は自分の興味・関心にあっている	当てはまる 64.9 どちらともいえない 28.2 当てはまらない 6.9
68	自分の能力を生かすことができる	当てはまる 43.3 どちらともいえない 50.2 当てはまらない 6.5
69	希望する職業につくことにむすびつきそうである	当てはまる 43.9 どちらともいえない 45.1 当てはまらない 11.0
70	そのコースの先生方と気が合う	当てはまる 43.9 どちらともいえない 46.3 当てはまらない 9.8
71	クラスメート達と気が合う	当てはまる 55.2 どちらともいえない 36.0 当てはまらない 8.8

(注)端数処理のため合計が100とはならない場合がある

72	<p>学生生活と学習について感じる事があれば、別途記述欄に自由に書いてください</p>	<p>【授業・単位】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語は検定の合格で単位がもらえるのに、ほかの言語はもらえないのはおかしい。 ・時間割の決定を早くしてもらいたい。履修登録や教科書販売の準備ができない。 ・学生の意識を変えたいのであれば、まずは教員の意識を変えるべきだ。 ・中国人教員の数を増やしてほしい。 ・日本人の英語の先生の授業で、もっと学生に発言する機会や環境を作ってほしい。先生が一方向的に発言するだけで全く勉強している気がしない。 ・日本人も日本について留学生と共に勉強したい。 ・余談が多い授業だとやる気がなくなってしまうので、90分間で濃い内容の授業をしてほしい。 <p>【大学生活全般】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もっとスムーズに教科書販売ができるようにしてほしい。 ・掲示板だけでなく、学校のホームページやネット環境を用いて情報を細かく発信してもらいたい。 ・中国人留学生が多すぎる。韓国人留学生を増やしてほしい。 ・各種書類は詳しく書いてほしい。あまり詳しくないので、内容について調べるのが手間だ。 ・学費の減免が取りにくい。 ・学費を減額して欲しい。 ・売店の商品が高い。 ・売店の品ぞろえをもっとよくしてもらいたい。（タバコなど） ・生協を作ってほしい。 ・徹底した分煙をしてほしい。 <p>【施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育館を利用させてほしい。 ・営業時間が短い。 ・ライブラリーの開放時間をもっと長くしてほしい。7～8時で終わるライブラリーは見たことがない。 ・ライブラリーで本を借りた際に、きちんとカウンターで貸出処理をしているのにもかわらず入口で警報に引っかかることがあるので、不具合を直してほしい。 ・グラウンドが小さいし、運動器具もほとんどない。 ・コミュニティラウンジがうるさい。 ・ラウンジにテレビをつけてもらいたい。 ・お湯や電子レンジを自由に使わせてほしい。 ・パソコン室のパソコンのスピードが遅い。
----	---	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・もう少しましなパソコンを入れて欲しい。不具合が多すぎて授業や提出物を出すときの妨げになる。 ・学校内の椅子と机がガタガタ。 ・音楽室を増やしてほしい。部員が多すぎて自由に練習もできない。 ・部室の鍵を自分たちで管理したい。 ・部室を増やしてほしい。 ・冷水器を設置して欲しい。 ・スターバックスコーヒーを学内に作ってほしい。 ・トイレに音姫をつけて欲しい。 ・トイレに温水ウォシュレット、温かくなる便座をつけて欲しい。 ・入口はカーテンではなくドアがいい。 ・女子トイレをもう少し明るく華やかにしてほしい。 ・個室が狭くて動きづらい。 ・語学などの検定を受ける機会が多いので、写真を撮る場所があればいいと思う。 ・打坂から正門までのロープウェイを作ってほしい。 ・学生が払っている学費をもっと学生のために使ってほしい。学校の内装・外装をきれいにしても、学生はどうでもいい。もっと使うべきところがあると思う。 ・寮にベッドや机が欲しい。 ・アンペロス寮のインターネットがすごく遅い。 ・学食のご飯の量が少ない。・学食がおいしくない。 ・定食が 12:30 より前になくなる場合がある。 ・種類が少ない。 ・食堂の人の態度が悪い。 ・食堂の椅子が少ない。 ・営業時間を検討してもらいたい。 ・もっといろいろな国の料理を出してもいいのではないかな。 <p>【通学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールバスを増やしてほしい。 ・茂里町までではなく、もっと遠くまで行くようにしてほしい。 ・早い時間帯のバスをもう 1 本増やしてほしい。 ・無料バスの本数を増やしてほしい。 <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家が遠いので、アンペロスに住まわせてほしい。
--	---

2012年度 <長崎外国語大学> 学生意識調査《日本人全体》

2012年4月実施

(回答の数字は%)

アンケートの対象となる人数：276名 回答者数:203名 回答率 73.6%

I 学生生活について

1	あなたは日本人学生ですか？それとも海外からの留学生ですか？	日本人学生 100.0 留学生 0.0
2	あなたは現在、大学何年生ですか？	大学2年生 39.9 大学3年生 25.1 大学4年生 33.0 大学1年生 2.0
3	あなたの性別は？	女性 61.0 男性 39.0
4	あなたは大学生生活に満足していますか？	満足 16.7 まあまあ満足 29.1 普通 36.9 あまり満足していない 11.8 満足していない 5.4
5	大学生生活全般について、あなたが高校時代に期待していたとおりにですか？	期待どおりです 7.4 まあまあ期待どおりです 40.9 あまり期待どおりではない 31.5 期待していたのと全然違う 13.3 特に何も期待していなかった 6.9
6	大学生になって良かったと思いますか？	良かったと思います 59.9 まあまあ良かったと思う 18.8 普通です 13.9 あまり良くなかったと思う 4.0 わからない 3.5
7	大学生生活の目的を主として何にしていますか？	豊かな教養を身につけ人格を高める 30.5 専門的な知識を習得する 30.0 真の友達を得る 1.5 学生生活を通じて青春をエンジョイする 13.5 資格を取り将来就職に役立てたい 20.0 特にありません 4.5
8	今一番打ち込んでいるものは、何ですか？	大学の授業や課題 33.8 大学のクラブ活動 13.4 自分の趣味 21.9 アルバイト 13.4 恋愛 4.0 特になし 13.4

9	学生生活の中で一番困っていることは何ですか？	友人関係がうまくいかない 5.9 将来の見通しがたたない 37.9 やりたいことが自由にできない 5.4 やりたいことがない 7.9 大学の授業が面白くない 8.9 経済的な問題 14.8 特になし 19.2
10	現在抱えている悩みや不安は何ですか？	これからの進路について 53.7 健康上のこと 3.4 勉学上のこと 12.8 自分の性格のこと 4.4 金銭上のこと 10.3 友人関係 1.5 いじめにあっている 1.5 生活環境 0.5 特になし 11.8
11	悩みがあったら誰に相談しますか？	家族 29.2 同性の友達 46.0 異性の友達 7.4 先輩 5.4 アドバイザーの先生 0.5 アドバイザー以外の先生 1.0 個人的な悩みを相談する人がいない 10.4
12	学内のカウンセリングルームについて	行ったことがある 7.4 行ってみたいと思ったことがある 13.4 存在を知らなかった 12.4 行かない 66.8
13	10で「行かない」と答えた人は、行かない理由を選んで下さい	必要がない 74.1 場所が悪い 0.7 時間帯が悪い 4.1 行っていることを他の人に知られたくない 4.8 カウンセリングについて、よくわからない 16.3
14	クラス・アドバイザーにはどういうことを相談していいと思いますか？	学業に関することのみ 13.4 学業に関することや、卒業後の進路の問題 33.7 学業、卒業後の進路、個人的な悩みなどどのようなことでも相談してよい 32.7 何を相談していいのかわからない 20.3
15	あなたのアドバイザーとどの程度話をしていますか？	頻繁に話をしている 9.5 時々話をしている 22.6 相談事があるときだけ話をしている 18.6 授業以外では全く話をしていない 24.1 全く話したことがない 25.1

16	今までにアドバイザーと全く話しをしたことがない人だけ教えてください。 なぜ、今までアドバイザーと全く話しをしたことがないのですか？	話したいと思うが機会がない 26.8 自分が消極的なため機会はあるが話すことができない 23.2 話したいと思うがアドバイザーが相談にのってくれそうにない 11.0 特に話す必要がない 39.0
17	あなたはたばこを吸いますか？	はい 17.5 いいえ 82.5
18	本学の喫煙場所についてどう思いますか？	このままでいいと思う 47.0 全館禁煙にすべきだと思う 32.8 よくわからない 20.2
19	通学時間はどのくらいですか？	5分以内 9.5 15分以内 38.2 30分以内 25.6 約1時間 17.6 1時間以上 9.0
20	通学手段は次のうちどれですか？	徒歩 32.3 バス 36.8 JRとバス 5.0 電車とバス 3.5 自家用車 11.4 バイク 10.4 自転車 0.5
21	自家用、または、バイクで通学している人への質問です。 自家用車やバイクで通学をする場合、学校から許可を受けなければいけません。あなたは、許可を受けていますか？	受けている 33.9 知らなかったので受けていない 33.9 知っていたが、許可は受けていない 32.2
22	勉強をしていない時は、自由時間をどのように過ごしていますか？	なにもせず、ただボーッと過ごしている 3.0 テレビをみる 15.7 スポーツ 4.1 友達とおしゃべりをしたり、外出したりしている 25.9 授業に関係のない本を読む 4.1 寝ている 6.1 アルバイトをしている 25.9 デートをしている 2.0 その他 13.2
23	アルバイトをしていますか？	はい 60.5 いいえ 39.5

24	週にどのくらいアルバイトをしていますか？	毎日授業が終わって 11.5 週に3、4日授業が終わって 56.9 週末のみ 23.1 夜間のみ毎日 2.3 夜間のみ3、4日 3.8 夜間のみ1、2日 2.3
25	現在あなたがしているアルバイトの職種は次のうちどれにあたりますか？	ファーストフード店での販売 9.3 ウエートレス、ウエーター 27.1 コンビニ、スーパーやデパートでの販売、レジ係り 20.2 その他の販売 14.0 家庭教師又は塾の講師 3.9 軽作業 5.4 事務 3.1 夜間のコンビニエンスストア 0.0 夜間の飲食店（居酒屋、スナック等を含む） 17.1
26	アルバイトが原因で授業を休んだことがありますか？	たびたびある 11.0 時々ある 14.0 めったにない 27.2 一度もない 47.8
27	なぜアルバイトをしているのですか？	生活費の補助にするため 55.7 欲しいものを買うため 14.5 将来の夢のため 9.2 社会勉強のため 13.0 友達をつくるため 0.8 レジャーや旅行のため 3.8 別に理由はない 3.1
28	学内の施設で改善して欲しいものがありますか？	ラウンジ 4.9 食堂 25.7 トイレ 30.6 図書館 4.9 メディアセンター 2.7 教室 3.3 売店 23.5 その他 4.4
29	図書館はどのくらいの頻度で利用しますか？	ほとんど毎日利用する 25.4 週に数度は利用する 35.3 週に1、2度は利用する 12.4 たまに利用する 19.9 めったに利用しない 6.5 行ったことがない 0.5
30	図書館では何をすることが一番多いですか？	図書の閲覧、貸し出し、読書 28.5 予習、復習 53.0 新聞、雑誌などを閲覧する 7.5 ビデオをみる 3.5 その他 7.5

39	理想的な生き方はどれですか？	仕事も家庭も大切にし、社会の役に立つ 31.6 何事にもベストを尽くす 10.0 人間らしい自然な生き方をする 7.4 目標に向かって前進する 6.3 健康で毎日楽しい生活を送る 13.7 悔いのないよう、毎日を大切にする 10.5 自分自身を充実させる生き方をする 14.2 自己に忠実に信念をもった生き方をする 1.6 平凡な生き方をする 4.7
----	----------------	---

II 学習について

大学生として学業に取り組む上で必要と思われる資質について、今のあなたに当てはまるかどうか回答してください

40	自分は学ぼうという意欲や気力がある。	当てはまる 67.2 どちらともいえない 29.6 当てはまらない 3.2
41	自分の考えを他の人にわかりやすく話すことができる	当てはまる 36.2 どちらともいえない 46.4 当てはまらない 17.3
42	不明なこと、理解できないことを納得できるまで追及する	当てはまる 49.7 どちらともいえない 43.7 当てはまらない 6.6
43	他人と協力しながら学習や作業を進めることができる	当てはまる 66.0 どちらともいえない 27.9 当てはまらない 6.1
44	奉仕的精神を持って、人間や社会に働きかける	当てはまる 46.7 どちらともいえない 42.1 当てはまらない 11.2
45	自分の欠点を自覚し、常に改善の努力を続ける	当てはまる 49.2 どちらともいえない 42.6 当てはまらない 8.2
46	幅広い知識や教養を身につけようとしている	当てはまる 65.2 どちらともいえない 30.8 当てはまらない 4.0
47	物事を筋道立てて論理的に考察することができる	当てはまる 34.5 どちらともいえない 49.7 当てはまらない 15.7
48	自分の考えを文章を用いて正確に表現することができる	当てはまる 32.3 どちらともいえない 48.0 当てはまらない 19.7
49	書物を読む習慣が身につけている	当てはまる 37.1 どちらともいえない 36.5 当てはまらない 26.4

50	すでに確立されている知見にとらわれず、自分の頭で考えることができる	当てはまる 40.1 どちらともいえない 50.8 当てはまらない 9.1
51	パソコンなどの新しい機械の操作や新しい技術の習得に心理的な抵抗がない	当てはまる 56.4 どちらともいえない 32.8 当てはまらない 10.8
52	社会問題に関心がある	当てはまる 53.8 どちらともいえない 38.1 当てはまらない 8.1

あなたが授業を選択するとき、重視することについて回答してください

53	学問的に興味があるかないか	重視する 77.8 どちらともいえない 18.7 重視しない 3.5
54	課題の量の多少	重視する 48.2 どちらともいえない 36.0 重視しない 15.7
55	単位の取りやすさ	重視する 61.7 どちらともいえない 26.0 重視しない 12.2
56	先生の成績のつけ方（出席を加味する、レポートの提出がある等）	重視する 58.4 どちらともいえない 28.4 重視しない 13.2
57	時間割の都合	重視する 82.0 どちらともいえない 14.4 重視しない 3.6
58	将来の仕事に役に立つか	重視する 56.5 どちらともいえない 27.5 重視しない 16.1
59	先生の授業のやり方、教え方	重視する 68.6 どちらともいえない 24.7 重視しない 6.7

以下は大学での勉学に関する質問です。授業についての質問は特定の授業ではなく、授業全部をイメージして答えてください

60	授業には満足していますか	満足している 33.3 どちらともいえない 50.3 満足していない 16.4
61	授業の内容を理解していますか	理解している 58.7 どちらともいえない 34.7 理解していない 6.6
62	授業で不明な点はどのように解決していますか	教員に直接質問する 37.4 友人に質問して教えてもらう 40.5 参考書やインターネット、図書館等を利用して自分で調べる 19.5 わからないままにしておく 2.6

63	授業への出席率はどれくらいですか。(例：80%なら⑤をマーク)	20%未満 17.7 20%以上40%未満 8.2 40%以上60%未満 7.7 60%以上80%未満 19.6 80%以上 56.7
64	あなたが授業を欠席する主な理由は何ですか	授業の内容が難しすぎるから 7.5 授業の内容がやさしすぎるから 5.3 学ぶ意欲がわからないから 13.4 病気のため 24.6 アルバイトが忙しいから 2.1 朝寝坊のため 32.1 その他 15.0
65	自由時間には、1日どれくらい勉強していますか。(例：2時間なら④をマーク)	0時間 13.3 1時間未満 39.5 1時間以上2時間未満 37.9 2時間以上3時間未満 6.2 3時間以上 3.1
66	自由時間には、どのようなことを主に勉強していますか	授業の予習復習だけ 41.5 資格や将来のための自主的な勉強 29.0 授業のための自主的な勉強 13.5 授業のためとそれ以外の自主的な勉強 14.5 その他 1.6

コースを選んだ理由について教えてください

67	コースの授業は自分の興味・関心にあっている	当てはまる 64.9 どちらともいえない 27.8 当てはまらない 7.2
68	自分の能力を生かすことができる	当てはまる 37.8 どちらともいえない 55.6 当てはまらない 6.6
69	希望する職業につくことにむすびつきそうである	当てはまる 43.0 どちらともいえない 43.5 当てはまらない 13.5
70	そのコースの先生方と気が合う	当てはまる 40.9 どちらともいえない 48.7 当てはまらない 10.4
71	クラスメート達と気が合う	当てはまる 55.3 どちらともいえない 35.1 当てはまらない 9.6

(注)端数処理のため合計が100とはならない場合がある

<p>72</p>	<p>学内において、ここをこのように改善したらもっとよくなると思う点がありましたら書いてください。皆さんのご意見をお聞かせください。</p>	<p>【授業・単位】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国人教員の数を増やす。 ・学生の意識を変えたいと思うなら、まずは教員の意識を変えなければならない。 ・日本人の英語の先生の授業で、もっと生徒たちに発言する機会や環境を作ってほしい。先生が一方向的に発言するだけで、全く勉強している気がしない。 ・日本人学生も日本について留学生と共に勉強したいです。 ・余談が多い授業だとやる気がなくなってしまうので、90分間で濃い内容の授業にしてほしい。 ・英語以外の語学でも、試験に合格した場合に単位が欲しい。 ・英語は検定の合格で単位がもらえるのに、ほかの言語はもらえないのはおかしい。 <p>【大学生活全般】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書販売で、もっとスムーズに購入できるようにしてほしい。 ・時間割を早く知らせて欲しい。外大より生徒数が多い大学でも、3月中にできている。 ・時間割を出すのが遅すぎる。履修登録や教科書販売の準備ができなくて困っている。 ・ <p>【施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・徹底した分煙をしてほしい。 ・トイレの個室を広くしてほしい。 ・シャワレット、温水、温座にしてほしい。 ・女子トイレをもう少し明るく華やかにしてほしい。そして広くしてほしい。狭くて動きづらい。 ・トイレをウォシュレットにしてほしい。 ・トイレに音姫をつけて欲しい。 ・トイレの入り口はカーテンではなくドアがいい。 ・部室を増やしてほしい。 ・音楽室をもう一つ増やしてほしい。 ・軽音楽部の部員数がとても多いので、音楽室の部屋が欲しい。音楽室に入れなくなる場合や自由に練習もできないため。 ・部室の鍵を自分たちで管理したい。
-----------	--	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・ライブラリーで本を借りた際に、きちんとカウンターで貸出処理をしているにも関わらず、入口で警報にひっかかることが稀にあるので、その不具合を改善して欲しい。 ・受験（語学試験など）の機会が多いので、写真を撮る場があればと思う。 ・体育館を常に解放して欲しい。 ・ラウンジにテレビをつけて欲しい。 ・冷水器を設置してもらいたい。 ・売店の閉まる時間が早すぎる。 ・学食と売店の営業時間と価格を検討してもらいたい。 ・売店のメニューを増やしてほしい。 ・売店を大きくしてほしい。 ・売店のカップラーメンの値段をもっと安くしてほしい。 ・売店の商品の値段、定価はさすがにきつい。学生にちょうどいい値段にしてほしい。 ・お弁当を増やしてほしい。 ・たばこを売ってほしい。 ・品ぞろえを良くしてほしい。 ・生協が欲しい。 ・自由に使えるお湯が欲しい。 ・お湯やレンジを自由に使わせてほしい。 ・コンセントを自由に使わせてほしい。 ・保健室が欲しい。 ・スターバックスコーヒーを作ってほしい。みんなが学校へ来るようになる。 ・食堂はいつも並ばないとといけないし、すぐ売り切れになる。味もあまりおいしくないなので利用したいと思わない。 ・学食はおいしくないなので、改善して欲しい。 ・食堂のメニューと味を改善して欲しい。 ・食堂のご飯がまずくて高い。だから、食堂を改善したい。 ・学食で、もっと出来立てを出してほしい。 ・食堂がどうしようもないので、改善を要求する。システム自体も悪いし、味も悪い。 ・食堂の学食がまずい。3年になって利用度が急激に減った。 <p>【通学】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールバスの運行をもっと多くしてほしい。朝のバスがない。 ・バスを増やせば、朝に学生が困らない。 ・スクールバスが少ない。
--	---

	<p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学費の減額をしてほしい。 ・中国人留学生が多すぎる。韓国人留学生を増やしてほしい。 ・家が遠いので、アンペロスに住まわせてほしい。 ・自分たちが払っている大切な学費をもっと自分たちのために使ってほしい。学校外装、内装をきれいにしても学生ではどうでもいい。もっと使うべきところがあると思う。
--	---

2012年度 <長崎外国語大学> 学生意識調査《留学生全体》

2012年4月実施

(回答の数字は%)

アンケートの対象となる人数：219名 回答者数:55名 回答率 25.1%

I 学生生活について

1	あなたは日本人学生ですか？それとも海外からの留学生ですか？	日本人学生 0.0 留学生 100.0
2	あなたは現在、大学何年生ですか？	大学2年生 70.9 大学3年生 7.3 大学4年生 3.6 大学1年生 18.2
3	あなたの性別は？	女性 42.6 男性 57.4
4	あなたは大学生生活に満足していますか？	満足 16.4 まあまあ満足 29.1 普通 30.9 あまり満足していない 14.5 満足していない 9.1
5	大学生生活全般について、あなたが高校時代に期待していたとおりにですか？	期待どおりです 20.0 まあまあ期待どおりです 43.6 あまり期待どおりではない 21.8 期待していたのと全然違う 10.9 特に何も期待していなかった 3.6
6	大学生になって良かったと思いますか？	良かったと思います 33.3 まあまあ良かったと思う 35.2 普通です 27.8 あまり良くなかったと思う 3.7 わからない 0.0

7	大学生生活の目的を主として何にしていますか？	豊かな教養を身につけ人格を高める 20.0 専門的な知識を習得する 38.2 真の友達を得る 1.8 学生生活を通じて青春をエンジョイする 7.3 資格を取り将来就職に役立てたい 32.7 特にありません 0.0
8	今一番打ち込んでいるものは、何ですか？	大学の授業や課題 30.9 大学のクラブ活動 16.4 自分の趣味 32.7 アルバイト 1.8 恋愛 0.0 特になし 18.2
9	学生生活の中で一番困っていることは何ですか？	友人関係がうまくいかない 1.8 将来の見通しがたたない 21.8 やりたいことが自由にできない 16.4 やりたいことがない 3.6 大学の授業が面白くない 12.7 経済的な問題 30.9 特になし 12.7
10	現在抱えている悩みや不安は何ですか？	これからの進路について 12.7 健康上のこと 9.1 勉学上のこと 20.0 自分の性格のこと 3.6 金銭上のこと 36.4 友人関係 0.0 いじめにあっている 1.8 生活環境 5.5 特になし 10.9
11	悩みがあったら誰に相談しますか？	家族 40.0 同性の友達 30.9 異性の友達 5.5 先輩 0.0 アドバイザーの先生 7.3 アドバイザー以外の先生 3.6 個人的な悩みを相談する人がいない 12.7
12	学内のカウンセリングルームについて	行ったことがある 17.6 行ってみたいと思ったことがある 19.6 存在を知らなかった 39.2 行かない 23.5
13	10で「行かない」と答えた人は、行かない理由を選んで下さい	必要がない 16.7 場所が悪い 16.7 時間帯が悪い 13.9 行っていることを他の人に知られたくない 2.8 カウンセリングについて、よくわからない 50.0

14	クラス・アドバイザーにはどういうことを相談していいと思いますか？	学業に関することのみ 9.1 学業に関することや、卒業後の進路の問題 40.0 学業、卒業後の進路、個人的な悩みなどどのようなことでも相談してよい 32.7 何を相談していいのかわからない 18.2
15	あなたのアドバイザーとどの程度話をしていますか？	頻繁に話をしている 12.7 時々話をしている 23.6 相談事があるときだけ話をしている 38.2 授業以外では全く話をしていない 7.3 全く話したことがない 18.2
16	今までにアドバイザーと全く話しをしたことがない人だけ答えてください。なぜ、今までアドバイザーと全く話しをしたことがないのですか？	話したいと思うが機会がない 30.6 自分が消極的なため機会はあるが話すことができない 13.9 話したいと思うがアドバイザーが相談にのってくれそうにない 27.8 特に話す必要がない 27.8
17	あなたはたばこを吸いますか？	はい 27.1 いいえ 72.9
18	本学の喫煙場所についてどう思いますか？	このままでいいと思う 55.6 全館禁煙にすべきだと思う 22.2 よくわからない 22.2
19	通学時間はどのくらいですか？	5分以内 1.9 15分以内 35.2 30分以内 42.6 約1時間 14.8 1時間以上 5.6
20	通学手段は次のうちどれですか？	徒歩 14.8 バス 53.7 JRとバス 7.4 電車とバス 7.4 自家用車 1.9 バイク 7.4 自転車 7.4
21	自家用、または、バイクで通学している人への質問です。自家用車やバイクで通学をする場合、学校から許可を受けなければいけません。あなたは、許可を受けていますか？	受けている 37.0 知らなかったので受けていない 29.6 知っていたが、許可は受けていない 33.3

22	勉強をしていない時は、自由時間をどのように過ごしていますか？	なんにもせず、ただボーッと過ごしている 3.8 テレビをみる 19.2 スポーツ 13.5 友達とおしゃべりをしたり、外出したりしている 23.1 授業に関係のない本を読む 3.8 寝ている 9.6 アルバイトをしている 19.2 デートをしている 0.0 その他 7.7
23	アルバイトをしていますか？	はい 70.2 いいえ 29.8
24	週にどのくらいアルバイトをしていますか？	毎日授業が終わって 4.5 週に3、4日授業が終わって 56.8 週末のみ 25.0 夜間のみ毎日 4.5 夜間のみ3、4日 2.3 夜間のみ1、2日 6.8
25	現在あなたがしているアルバイトの職種は次のうちどれにあたりますか？	ファーストフード店での販売 11.1 ウェートレス、ウェーター 20.0 コンビニ、スーパーやデパートでの販売、レジ係り 28.9 その他の販売 24.4 家庭教師又は塾の講師 0.0 軽作業 2.2 事務 0.0 夜間のコンビニエンスストア 0.0 夜間の飲食店（居酒屋、スナック等を含む） 13.3
26	アルバイトが原因で授業を休んだことがありますか？	たびたびある 8.7 時々ある 15.2 めったにない 21.7 一度もない 54.3
27	なぜアルバイトをしているのですか？	生活費の補助にするため 52.2 欲しいものを買うため 6.5 将来の夢のため 13.0 社会勉強のため 15.2 友達をつくるため 0.0 レジャーや旅行のため 13.0 別に理由はない 0.0
28	学内の施設で改善して欲しいものがありますか？	ラウンジ 0.0 食堂 68.0 トイレ 8.0 図書館 6.0 メディアセンター 0.0 教室 2.0 売店 10.0 その他 6.0

38	35で「考えている」と答えた人は、具体的に次のなかから選んでください	企業への就職 38.3 大学院への進学 34.0 海外の大学、語学学校への留学 19.1 家業手伝い 4.3 その他 4.3
39	理想的な生き方はどれですか？	仕事も家庭も大切にし、社会の役に立つ 25.9 何事にもベストを尽くす 3.7 人間らしい自然な生き方をする 18.5 目標に向かって前進する 25.9 健康で毎日楽しい生活を送る 22.2 悔いのないよう、毎日を大切にす 1.9 自分自身を充実させる生き方をする 0.0 自己に忠実に信念をもった生き方をする 1.9 平凡な生き方をする 0.0

II 学習について

大学生として学業に取り組む上で必要と思われる資質について、今のあなたに当てはまるかどうか回答してください

40	自分は学ぼうという意欲や気力がある。	当てはまる 56.0 どちらともいえない 28.0 当てはまらない 16.0
41	自分の考えを他の人にわかりやすく話すことができる	当てはまる 43.6 どちらともいえない 49.1 当てはまらない 7.3
42	不明なこと、理解できないことを納得できるまで追及する	当てはまる 50.9 どちらともいえない 40.0 当てはまらない 9.1
43	他人と協力しながら学習や作業を進めることができる	当てはまる 48.1 どちらともいえない 38.9 当てはまらない 13.0
44	奉仕的精神を持って、人間や社会に働きかける	当てはまる 40.7 どちらともいえない 48.1 当てはまらない 11.1
45	自分の欠点を自覚し、常に改善の努力を続ける	当てはまる 48.1 どちらともいえない 40.7 当てはまらない 11.1
46	幅広い知識や教養を身につけようとしている	当てはまる 52.8 どちらともいえない 37.7 当てはまらない 9.4
47	物事を筋道立てて論理的に考察することができる	当てはまる 49.1 どちらともいえない 34.5 当てはまらない 16.4
48	自分の考えを文章を用いて正確に表現することができる	当てはまる 37.0 どちらともいえない 44.4 当てはまらない 18.5

49	書物を読む習慣が身についている	当てはまる 37.0 どちらともいえない 48.1 当てはまらない 14.8
50	すでに確立されている知見にとらわれず、自分の頭で考えることができる	当てはまる 56.6 どちらともいえない 41.5 当てはまらない 1.9
51	パソコンなどの新しい機械の操作や新しい技術の習得に心理的な抵抗がない	当てはまる 52.7 どちらともいえない 30.9 当てはまらない 16.4
52	社会問題に関心がある	当てはまる 45.5 どちらともいえない 47.3 当てはまらない 7.3

あなたが授業を選択するとき、重視することについて回答してください

53	学問的に興味があるかないか	重視する 61.1 どちらともいえない 31.5 重視しない 7.4
54	課題の量の多少	重視する 58.5 どちらともいえない 26.4 重視しない 15.1
55	単位の取りやすさ	重視する 68.5 どちらともいえない 20.4 重視しない 11.1
56	先生の成績のつけ方（出席を加味する、レポートの提出がある等）	重視する 77.4 どちらともいえない 9.4 重視しない 13.2
57	時間割の都合	重視する 67.9 どちらともいえない 22.6 重視しない 9.4
58	将来の仕事に役に立つか	重視する 67.9 どちらともいえない 24.5 重視しない 7.5
59	先生の授業のやり方、教え方	重視する 69.8 どちらともいえない 22.6 重視しない 7.5

以下は大学での勉学に関する質問です。授業についての質問は特定の授業ではなく、授業全部をイメージして答えてください

60	授業には満足していますか	満足している 33.3 どちらともいえない 47.9 満足していない 18.8
61	授業の内容を理解していますか	理解している 41.5 どちらともいえない 47.2 理解していない 11.3

62	授業で不明な点はどのように解決していますか	教員に直接質問する 34.6 友人に質問して教えてもらう 44.2 参考書やインターネット、図書館等を利用して自分で調べる 19.2 わからないままにしておく 1.9
63	授業への出席率はどれくらいですか。(例：80%なら⑤をマーク)	20%未満 13.7 20%以上40%未満 5.9 40%以上60%未満 17.6 60%以上80%未満 15.7 80%以上 47.1
64	あなたが授業を欠席する主な理由は何ですか	授業の内容が難しすぎるから 9.8 授業の内容がやさしすぎるから 19.6 学ぶ意欲がわからないから 15.7 病気のため 7.8 アルバイトが忙しいから 5.9 朝寝坊のため 15.7 その他 0.0
65	自由時間には、1日どれくらい勉強していますか。(例：2時間なら④をマーク)	0時間 15.4 1時間未満 25.0 1時間以上2時間未満 30.8 2時間以上3時間未満 19.2 3時間以上 9.6
66	自由時間には、どのようなことを主に勉強していますか	授業の予習復習だけ 35.8 資格や将来のための自主的な勉強 28.3 授業のための自主的な勉強 18.9 授業のためとそれ以外の自主的な勉強 9.4 その他 9.6

コースを選んだ理由について教えてください

67	コースの授業は自分の興味・関心にあっている	当てはまる 64.8 どちらともいえない 29.6 当てはまらない 5.6
68	自分の能力を生かすことができる	当てはまる 64.7 どちらともいえない 29.4 当てはまらない 5.9
69	希望する職業につくことにむすびつきそうである	当てはまる 47.2 どちらともいえない 50.9 当てはまらない 1.9
70	そのコースの先生方と気が合う	当てはまる 54.7 どちらともいえない 37.7 当てはまらない 7.5
71	クラスメート達と気が合う	当てはまる 54.9 どちらともいえない 39.2 当てはまらない 5.9

(注) 端数処理のため合計が100とはならない場合がある

<p>72</p>	<p>学内において、ここをこのように改善したらもっとよくなると思う点がありましたら、書いてください。皆さんのご意見をお聞かせください。</p>	<p>【授業・単位】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中国人教員の数を増やす。 ・学生の意識を変えたいと思うなら、まずは教員の意識を変えなければならない。 ・日本人の英語の先生の授業で、もっと生徒たちに発言する機会や環境を作ってほしい。先生が一方的に発言するだけで、全く勉強している気がしない。 ・日本人学生も日本について留学生と共に勉強したいです。 ・余談が多い授業だとやる気がなくなってしまうので、90分間で濃い内容の授業にしてほしい。 ・英語以外の語学でも、試験に合格した場合に単位が欲しい。 ・英語は検定の合格で単位がもらえるのに、ほかの言語はもらえないのはおかしい。 <p>【大学生活全般】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種書類はもっと詳しくしてほしい。あまり詳しくなくて、インターネットで調べるのは面倒だと思う。 ・時間割を早く知らせて欲しい。外大より生徒数が多い大学でも、3月中にできている。 ・時間割を出すのが遅すぎる。履修登録や教科書販売の準備ができなくて困っている。 ・なぜ毎年冬休みが遅いのか（新年の前に帰国して、家族と一緒に新年を迎えたい）。 ・ <p>【施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食堂を改善した欲しい。 ・学食の値段は減らして、量を増やしてほしい。 ・食堂で色々な国の料理に注目してもらいたい。 ・食堂が狭い。 ・食堂の食事の量が少ない。安くない。おいしくない。 ・学校の食堂の料理はもっとおいしくなってほしい。 ・食堂の年配の男性が話すことが変。 ・食堂の料理の種類が少ないので、種類を増やしてほしい。 ・食堂の椅子が少ない。 ・食堂の料理と作る人は上手になってほしいけれど、まずいときは本当にまずいです。
-----------	---	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・食堂は遅いし、まずいし、態度が悪いし、安くても行きたくない。あまり存在する意味がない。毎日人がたくさん並んでいるし、2限と3限に授業があったら、絶対行かない。 ・トイレのペーパーが丈夫じゃない。 ・掲示板だけでなく、学校のHPなどのネット環境を用いて情報を細かく発信してもらいたい。 ・情報公開を早めにしてほしい。 ・メディアセンターのパソコンを新しいものに変更したほうが良い。 ・パソコン室のパソコンのスピードが遅い。 ・教室の整備が悪い。 ・教室の椅子は、冬はとても冷たい。 ・テレビが小さい。 ・アンペロス寮のインターネットがすごく遅い。 ・アンペロスは問題が多い。 ・学校の寮にベッドや机などが欲しい。 ・これから絶対体育館のルールを守るので、体育館を使わせてほしい。 ・体育館に行きたいけど、いつも閉まっている。 ・グラウンドが小さい。運動の器具もほとんどない。 ・電子レンジを置いてほしい。 ・売店にあまり物が置いていない。本も置いてほしい。 ・売店で物を外より安く買いたい。 ・コミュニティラウンジがうるさい。 ・図書室の開放時間が短い。7時～8時ぐらいで終わる図書館は見たことがない。
--	--